

# 「一年生調査2010年」 北海道大学を中心とした 相互評価のための 比較分析報告書

平成21～23年度文部科学省  
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム  
相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出  
－国公私立4大学IRネットワーク

代表校：同志社大学  
連携校：北海道大学  
大阪府立大学  
甲南大学

北海道大学  
高等教育推進機構  
2012年2月



# 「一年生調査 2010 年」 北海道大学を中心とした 相互評価のための 比較分析報告書

平成 21～23 年度文部科学省大学教育充実のための  
戦略的大学連携支援プログラム  
相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出  
—国公私立 4 大学 IR ネットワーク

代表校：同志社大学  
連携校：北海道大学  
大阪府立大学  
甲南大学

北海道大学  
高等教育推進機構  
2012 年 2 月

# 「一年生調査 2010 年」

## 北海道大学を中心とした

### 相互評価のための比較分析報告書

#### 目 次

はじめに	
1. 調査内容と対象	1
1. 1. 調査の概要	1
1. 2. 回答者の属性	2
参考文献	4
図 1	5
2. 大学における学びの状況	10
2. 1. 授業での学習経験	10
2. 2. 授業内外での学習行動や態度	11
2. 3. 内容別にみた 1 週間あたりの活動時間	12
2. 4. 入学後に修得した能力やスキル	13
図 2	15
3. 英語運用能力の修得状況	20
3. 1. 英語運用能力の評価基準(CEFR)	20
3. 2. 英語運用能力の現状	20
3. 3. 英語運用能力の変化	20
3. 4. 会話力	21
3. 5. 英語に対する意識（好き・嫌い、得意・不得意）	21
3. 6. 海外渡航経験	21
3. 7. 英語の検定試験	22
図 3	23
4. 学びや大学生活に対する意識	27
4. 1. 大学生活への適応感	27
4. 2. 学生生活の充実感	27
4. 3. 大学の教育内容に対する満足感	27
4. 4. 大学の教育環境に対する満足感	28
4. 5. 大学卒業後の予定進路	28
図 4	30

5.まとめ	34
【付録1】アンケートの設問（一年生調査2010年）	38
【付録2】北大と4大学全体に分けた各設問への回答集計表	45
【付録3】主な設問ごとの北大と4大学全体の回答傾向の違い	51
【付録4】北海道大学の教育改善関連資料	57

## はじめに

教育制度改革でも PDCA (Plan-Do-Check-Act)サイクルを確立し、持続的に改革を促進する仕組みを構築することは、今後の大学運営にとってきわめて重要である。これまでには、特に check 機能がうまく働かなかった。これを補完するのが、大学運営や教育改革の効果の検証のために米国ではじまった IR (Institutional Research : 大学調査) である。IR には、大学内の諸データを集積するだけではなく、共通のアンケート調査などを利用して他大学のデータと比較し分析することも含まれる。このような活動により、自大学の国内での位置を確認しながら、教育改革を進めることができる。この動きは日本へも波及しあげている。

本報告書は、平成 21~23 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公私立 4 大学 IR ネットワーク」の一環として実施した「一年生調査 2010 年」および「一年生調査 2009 年」の結果をもとに、北海道大学と 4 大学全体のデータを比較分析したものである。

アンケートは 2009 年および 2010 年 12 月に、北大では Web 上で実施された。回答したのは、北大の初年次学生 2,600 名余りのうち、2009 年は 454 名、2010 年は 403 名、4 大学全体ではそれぞれ 4,723 名、4,690 名で、これらを比較の対象とした。なお、4 大学全体の分析結果は、参考文献 1、3 および HP 上で、すでに公表されている。

前回につづき今回も、北大では、全学教育・初年次教育が充実し多様なプログラムが提供され学生の満足感・達成感が高いこと、単位の実質化と自習促進の取組が浸透していること、女子学生の大学生活、教育内容・環境への満足感・充実感が男子学生よりも高いことなどが示された。

また 4 大学とも、学生と教職員との関係が希薄なこと、さらに北大では、仕事に役立つ知識やスキルを学ぶこと、専門分野や学科の知識、他の人と協力して物事を遂行する能力、時間を効果的に使うこと、日常生活と授業内容との関連や、将来の仕事と授業内容の結びつき、キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）に関する満足感が 4 大学全体より低い（少ない）ことが示されている。

IR ネットワークの取組は、今後数年間で参加大学を数十校に増やし、より効果的な大学間比較ができるように展開する予定である。そうなると、共通性のある複数の国立大学間、あるいは私立大学間での比較、いわゆるベンチマー킹が可能になり、よりわかりやすい指標が得られることになる。

予算や人員の限られたなかで今後の PDCA サイクルをいかに実行していくかは、どの大学にとっても悩みの種である。教育改革の検証をもとに、実効のある新たな改革を持続的に実施することは、さらに困難である。本報告書に含まれている先進的な IR の試みが、このような諸問題の解決策となり、日本の大学のさらなる発展の基礎を築くことを期待したい。

高等教育推進機構 教授  
高等教育開発研究部門長  
細川 敏幸

## 1. 調査内容と対象

平成 21 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公私立 4 大学 IR ネットワーク」事業では、学生調査を毎年実施し、連携校である北海道大学（国立）、大阪府立大学（公立）、同志社大学、甲南大学（私立）の初年次学生に自分の学習経験・活動・成果、教育内容・環境や大学生活に対する意識等を評価してもらい、そのデータをもとに、IR 機能を活用した連携大学間での相互評価を行い、その結果を各大学の教育改善に役立てることを目指している。

IR (Institutional Research)とは、個別大学内のさまざまな情報を収集して数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用することである。米国の多くの大学では専門部署として IR 組織が設置され、大学評価・教育改善活動を支援している。

ここでは、すでに公表されている「一年生調査 2009 年」および「一年生調査 2010 年」報告書（参考文献 1, 3）をもとに、北海道大学を中心とした相互評価の観点から、項目ごとに「北海道大学の学生」と「4 大学全体の学生」の回答を比較し<sup>1</sup>、北海道大学の特徴を分析する。

以下では、北海道大学を「北大」、4 大学全体を「全体」と記すことがある。

IR の活用には継続的な調査と分析が重要なので、2009 年と 2010 年の調査結果の比較を中心に据えるが、そのほかに専門分野別、男女別の差異にも注目する。

また、北大におけるこれまでの教育改善の取組の経緯や今後の課題との関連についてもできるだけ触れる。その際、本調査の分析と区別するため、枠で囲んで記載してある。

### 1. 1. 調査の概要

本調査は 2009 年 12 月と 2010 年 11~12 月に各大学の初年次学生を対象に実施された。質問内容はほぼ同じで、大きく以下の 4 項目から構成されている。英語運用能力に関する質問は、2009 年の結果を検討して新たな指標として「英語圏への渡航歴」等を加えたため、質問数が 2009 年の 21 間から 25 間に増えている。

- ① 学生の属性：専門分野、性別、年齢、通学時間、高校時代の学習経験等
- ② 大学での学習状況：学習経験、活動時間、能力・知識の変化の自己評価等
- ③ 英語運用能力：聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の変化、英語圏への渡航歴等
- ④ 学習環境や大学生活に対する意識：大学生活への適応感、教育内容・環境に対する満足感、卒業後の進路等

アンケートには 4 大学合計で、2009 年は 4723 名、2010 年は 4,690 名から回答が得られた。

<sup>1</sup> 2009 年報告書では北海道大学と「他 3 大学」の学生の回答を比較したが、今回は北海道大学と「4 大学全体」の学生の回答を比較する。北海道大学と「他 3 大学」の回答者数の比率はおよそ 1 : 10 で、この変更によって分析結果が大きく変わることはない。

北大以外では、アンケート用紙を配布して回答を得、回収率は 80%前後であった。

北大では、Web 上でアンケートを行い、回収率は 2009 年 19.7%，2010 年 16.7%，回答者数は 2009 年 454 名（4 大学全体の 9.6%），2010 年 403 名（同 8.6%）であった。回収方法を考慮すれば、この回収率は決して低いとはいえない。オンラインアンケートはどうしても回答率が低くなるが、調査の手間と費用をできるだけ省き、効率的・持続的に調査をつづけるためには、Web 上のアンケートは不可避である。今後、参加大学が増えるなら、北大の回答者数は 500 名（回収率 20%）を目標にするのがよいと思われる。

ただし、データをさらに細分した場合、人文・社会系や、女性のグループは北大全体の約 30%，100 人余りの集団となり、データのバラツキの可能性も大きく、分析結果は慎重な取扱いが必要である。単年度のデータではやや弱いが、数年にわたる経年変化をみればある程度信頼できると思われる。

## 1. 2. 回答者の属性

### (1) 専門分野[2]

（[ ]は質問番号：付録 1（38～44 ページ）参照）

回答者の専門分野は、北大では工学部が最も多く全体の約 28%である。2009 年と比べて、理学部が約 6%減り、工学部が約 8%増えている。そのほかの学部では大きな変化はない。

4 大学全体では 2009 年と同様に、経済学部・経営学部が多く全体の 32%余りを占めている。そのほかの学部でも大きな変化はない。

専門分野のグループ別の構成比は、北大では人文・社会系（人文科学、法学・政治学、経済学・経営学、教育学）28%，理工農系・医療系（理学、工学、農学、保健、水産学）72%である。

全体では人文・社会系 64%，理工農系 34%，医療系およびその他（2010 年からの新項目「文理融合」を含む）2%である（図 1.1）。

### (2) 性別[3]

男女構成比は、北大では男性 70%，女性 30%，全体では男性 62%，女性 38%と、2009 年から大きな変化はない。

### (3) 年齢[4]

回答者の入学時（2010 年 4 月 1 日現在）の平均年齢は、北大 18.5 歳、全体 18.4 歳である。

年齢構成比は、北大では 18 歳が 68%，19 歳が 28%，合わせて 96%，全体では 18 歳が 70%，19 歳が 25%，合わせて 95%である（図 1.2）。2009 年と大きな違いはない。30 歳以上の入学者が北大で 3 名、全体で 10 名みられる。近年の多様な入試制度により社会人にも門戸を広げていることの表れとみられるが、その数は少ない。最年長者は、北大では 33 歳、全体では 50 歳である。

### (4) 片道の通学時間[5]

片道の通学時間は、2009 年からほとんど変化はない。北大では 6 割以上が 30 分未満であるのに対し、全体では約半数の学生が通学に片道 1 時間以上かけている（図 1.3）。2009 年比較分析報告書（参考文献 2）でも述べたが、北大と全体の通学時間の大きな違いは 1 週間あたりの活動時間（2. 3）に大きく影響していると考えられる。

**(5) 居住形態[6]**

2009 年と同じ傾向で、北大では約半数がひとり暮らしであり、全体では 7 割以上が家族や親戚と同居している。北大のひとり暮らしの割合は、2009 年には女性より男性の方が多かったが、2010 年には女性の方が男性よりわずかに多くなっている（図 1.4）。

**(6) 入試形態[22]**

「一般入試」による入学者が、北大で約 95%，全体で約 60%と最も多い。北大でその次に多いのは「AO 選考」4%である。他 3 大学の多様な入試形態も含めて、それぞれの割合は、2009 年から変化はない（図 1.5.1、図 1.5.2）。この間、入試制度や入学定員の変化はなかったのであろう。

北大では 2011 年度に総合入試制度を導入した。この調査では総合入試も「一般入試」に当たるが、この変革が他の項目の回答にどのように影響するか、2011 年調査の注目点である。

**(7) 第 1 志望校への入学の有無[23]**

北大が第 1 志望だった者は、2009 年とほぼ同じで、男性 69%，女性 81%と、男性と女性の間に 10 ポイント以上の差がある（図 1.6）。この差は、第 4 章（27～29 ページ）で詳しく述べるが、大学生活に対する満足感の男女差にも反映していると推測できる。

全体でも、2009 年から大きな変化はなく、第 1 志望は約 4 割である。第 1 志望かどうかは、入学時の大学に対する期待感や、その後の学習意欲などと関連すると考えられる。

**(8) 浪人経験の有無[21]**

北大では、現役 70%，浪人 28%と、2009 年とほぼ同じである。そのほかは留学生、社会人である。女性の現役が 2009 年より約 5 ポイント増え、わずかながら現役の割合が増加傾向にある（図 1.7）。

全体では、2009 年と同じく、現役 78%，浪人 21%であり、北大のほうが浪人の比率が高い。

**(9) 高校時代の成績[24]**

高校時代の成績の自己評価において最も多い回答は、北大では「上位の方」40%強（男性は 50%近い）、全体では「中の上くらい」33%である。北大では 74%，全体では 60%の学生が、高校時代の自分の成績を「中の上くらい」以上と評価している（図 1.8）。

2009 年と比べると、性別や成績評価によっては最大 10 ポイントほどの違いがみられる。「わからない、覚えていない」という回答は少ないが、自分の成績を客観的に評価するのは難しく、回答にバラツキが生じるのは自然なことと考えられる。

特に女性は自分の成績を比較的高く評価している。「中の上くらい」以上という回答が、北大では男性 73%，女性 78%，全体では男性 57%，女性 65%と、明らかな男女差がみられる。この傾向は 2009 年にもみられた。

**(10) 高校時代の学習経験[25]**

高校 3 年生のころの学習経験で「ひんぱんにした」「ときどきした」という回答が最も多いのは、2009 年と同じく①「自分の失敗から学んだ」で、約 8 割である。北大、全体とも、ごくわずかながら、2009 年よりも肯定的回答が減少傾向にある（図 1.9.1）。

そのほかの質問に関しても 2009 年と大きな違いはない。全体的な傾向は 2009 年報告書（参考文献

2, 3) を参照していただきたい。

以下、専門分野や性別による違いについて、2009 年と比べて特徴的な傾向を挙げる。

高校時代に②「授業中、質問した」に対して「ひんぱんにした」「ときどきした」という回答は、北大の人文・社会系では(2009) 39%⇒27%に減少している（図 1.9.2）。

また、③「自分の意見を論理的に主張した」④「問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した」⑤「自発的に作文の練習をした」⑥「インターネット上の情報が事実かどうか確認した」⑦「困難なことにあえて挑戦した」に対して「ひんぱんにした」「ときどきした」という回答も、北大の人文・社会系では 2009 年より 8~20 ポイントほど減少している。このグループの学生の高校時代の学習意欲の低下をうかがわせ、今後の経年変化に注目する必要がある。

そのほか 2009 年から変化が大きいのは、⑧「科学的研究の記事や論文を読んだ」⑨「授業以外に興味のあることを自分で勉強した」⑩「自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた」に対する北大の女性の回答である。「ひんぱんにした」「ときどきした」の割合が、⑧については 29%⇒19% に減少し、⑨については 48%⇒53% に、⑩については 53%⇒64% に増加している。

### 参考文献

- 1) 「一年生調査 2010 年」調査報告書 平成 21 年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公私立 4 大学 IR ネットワーク」、同志社大学高等教育・学生研究センター、2011 年 3 月 31 日  
<http://www.irnw.jp/report2010.html>
- 2) 「一年生調査 2009 年」北海道大学を中心とした比較分析報告書 平成 21~23 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公私立 4 大学 IR ネットワーク」、北海道大学高等教育推進機構、2011 年 2 月 15 日  
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/freshmansurvey09.pdf>
- 3) 「一年生調査 2009 年」調査報告書 平成 21 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公私立 4 大学 IR ネットワーク」、同志社大学高等教育・学生研究センター、2010 年 3 月 31 日  
<http://www.irnw.jp/report2009.html>
- 4) 平成 18 年度新教育課程の実施状況中間報告書（2006~2009 年度）（平成 18~21 年度）、北海道大学高等教育機能開発総合センター、2010 年 3 月 25 日  
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/chukan.pdf>

図 1

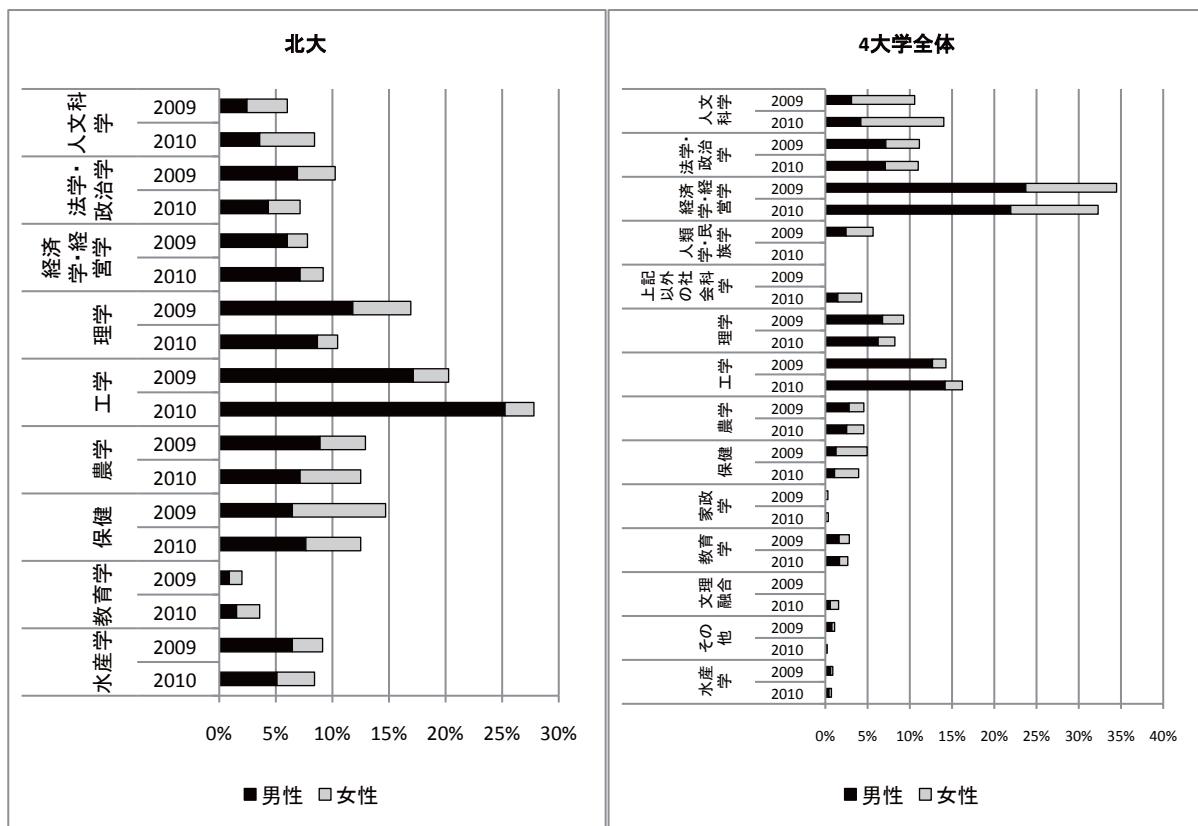


図 1.1. 専攻分野別の割合

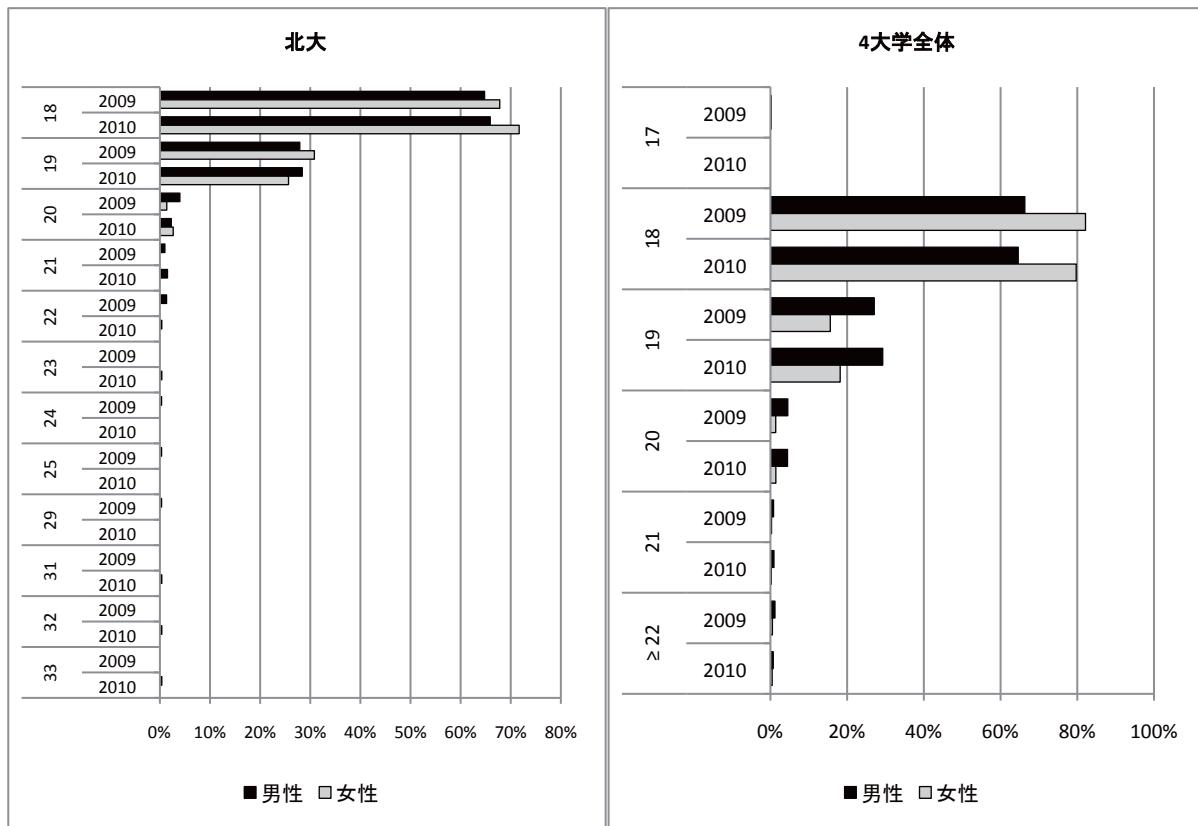


図 1.2. 年齢構成

# 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

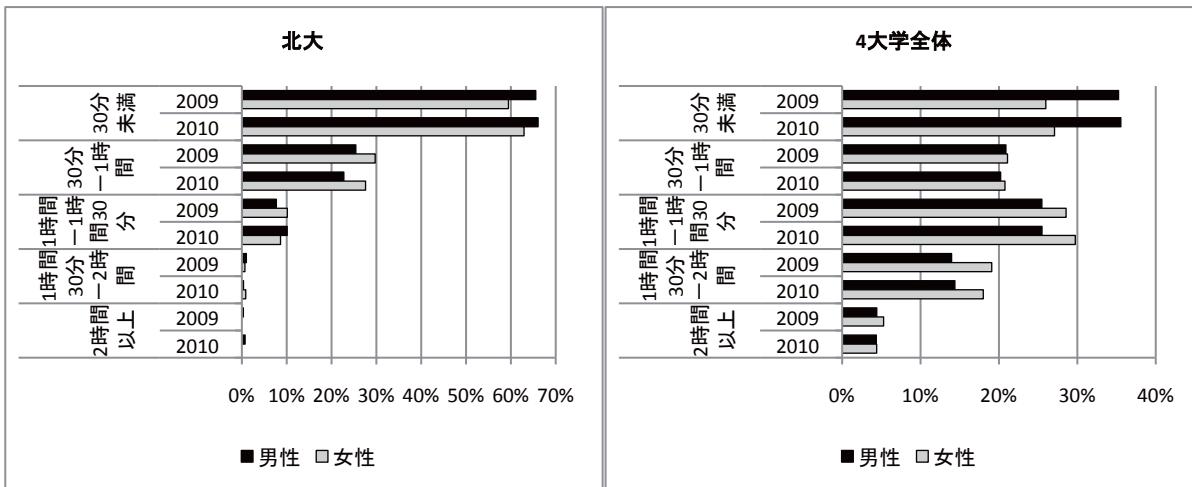


図 1.3. 片道の通学時間

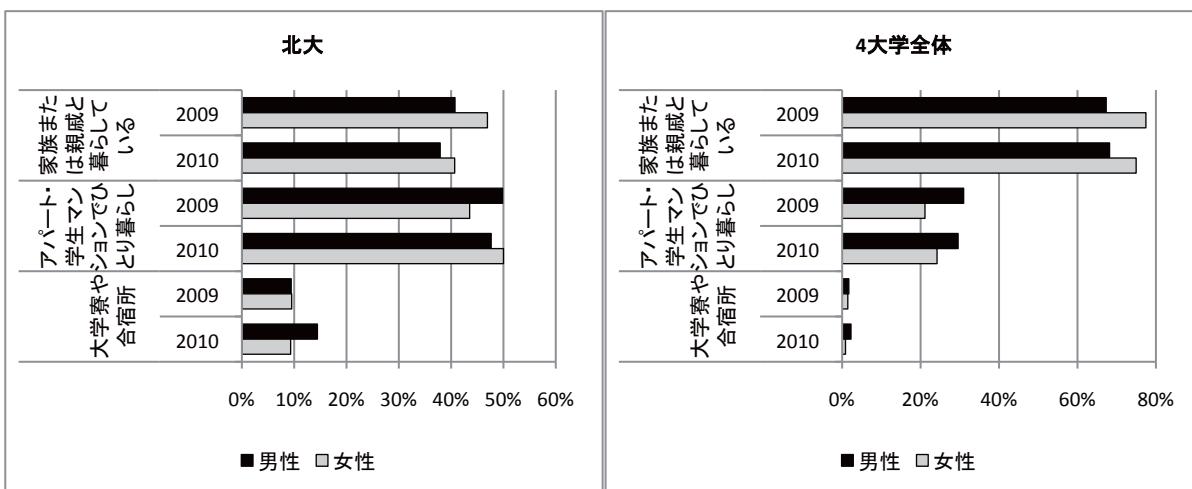


図 1.4. 居住形態

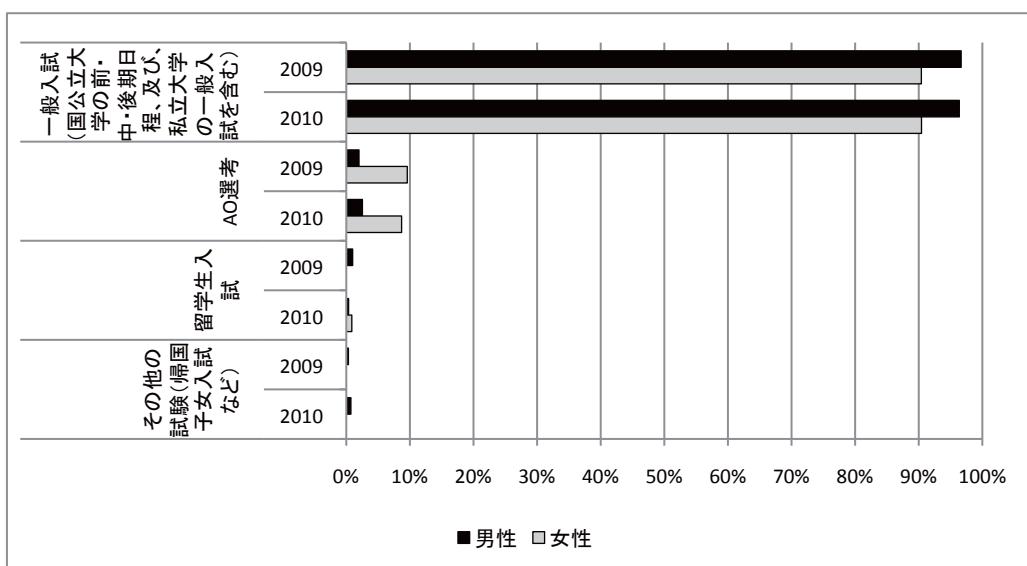


図 1.5.1. 入試方式別の割合 (北大)

## 1. 調査内容と対象

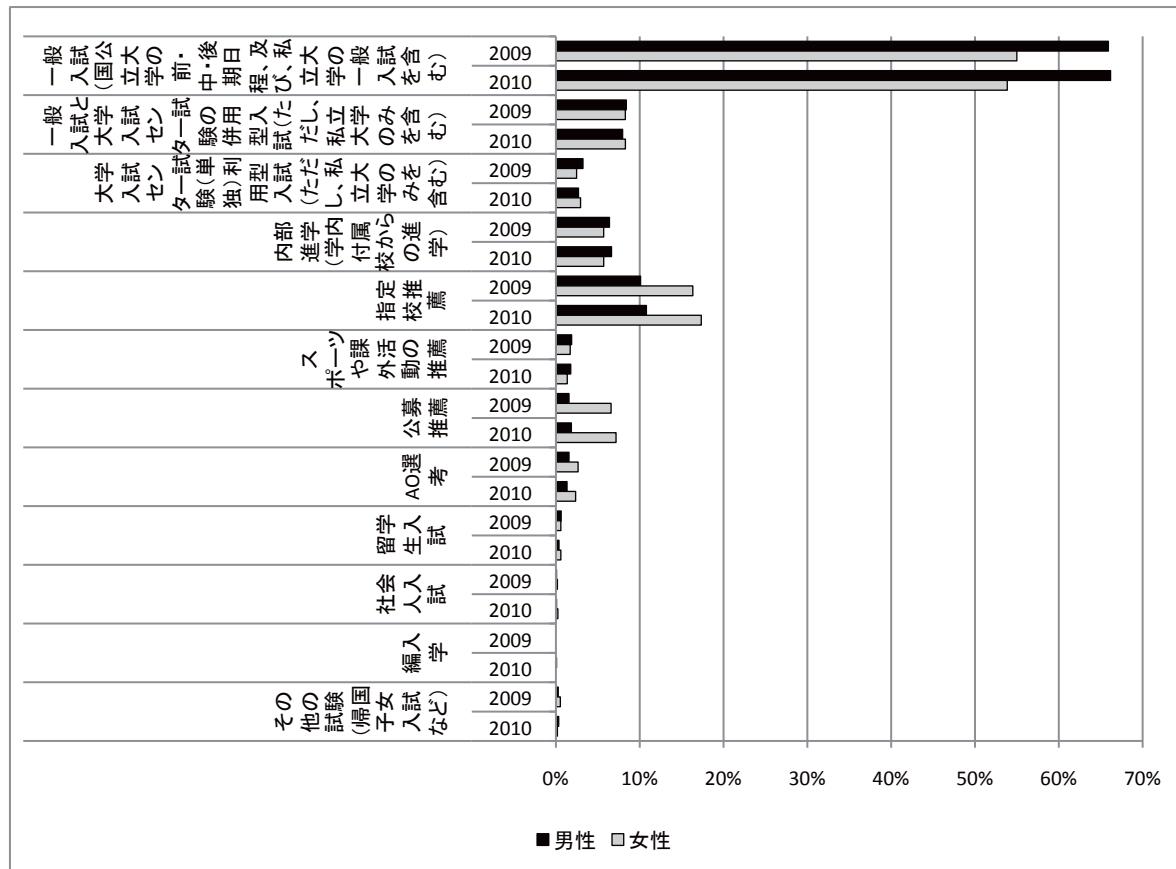


図 1.5.2. 入試方式別の割合 (4 大学全体)

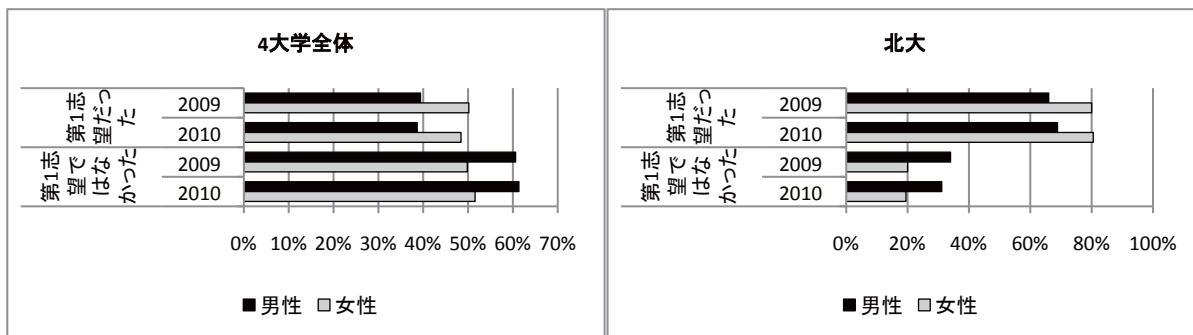


図 1.6. 第1志望校への入学の有無

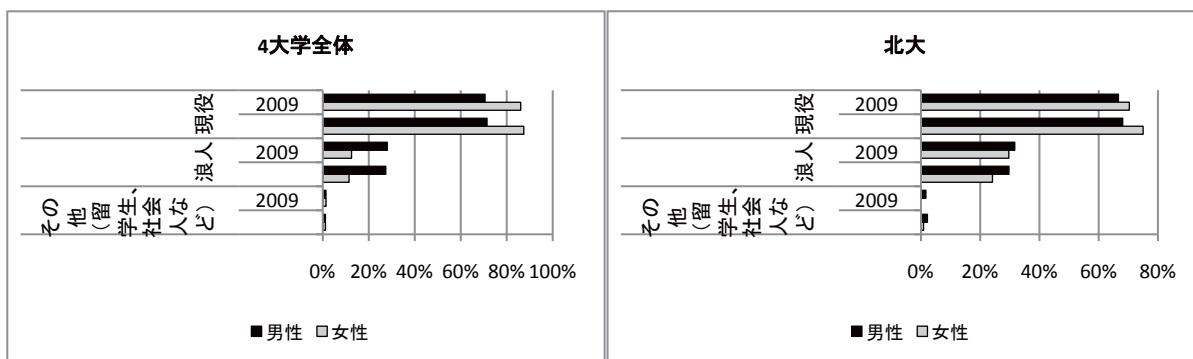


図 1.7. 浪人経験の有無

「一年生調查 2010 年」比較分析報告書

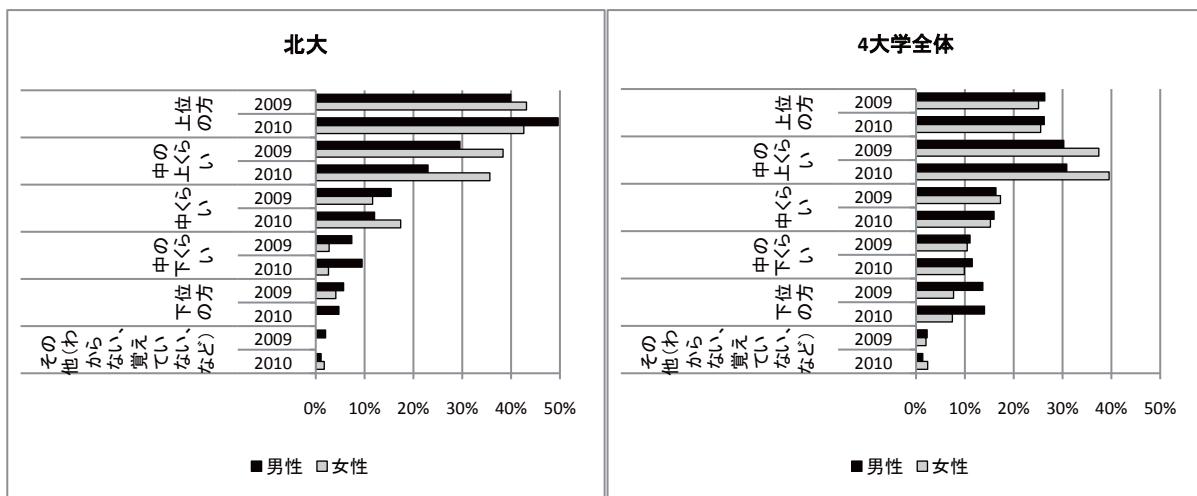


図 1.8. 自己申告による高校時代の成績

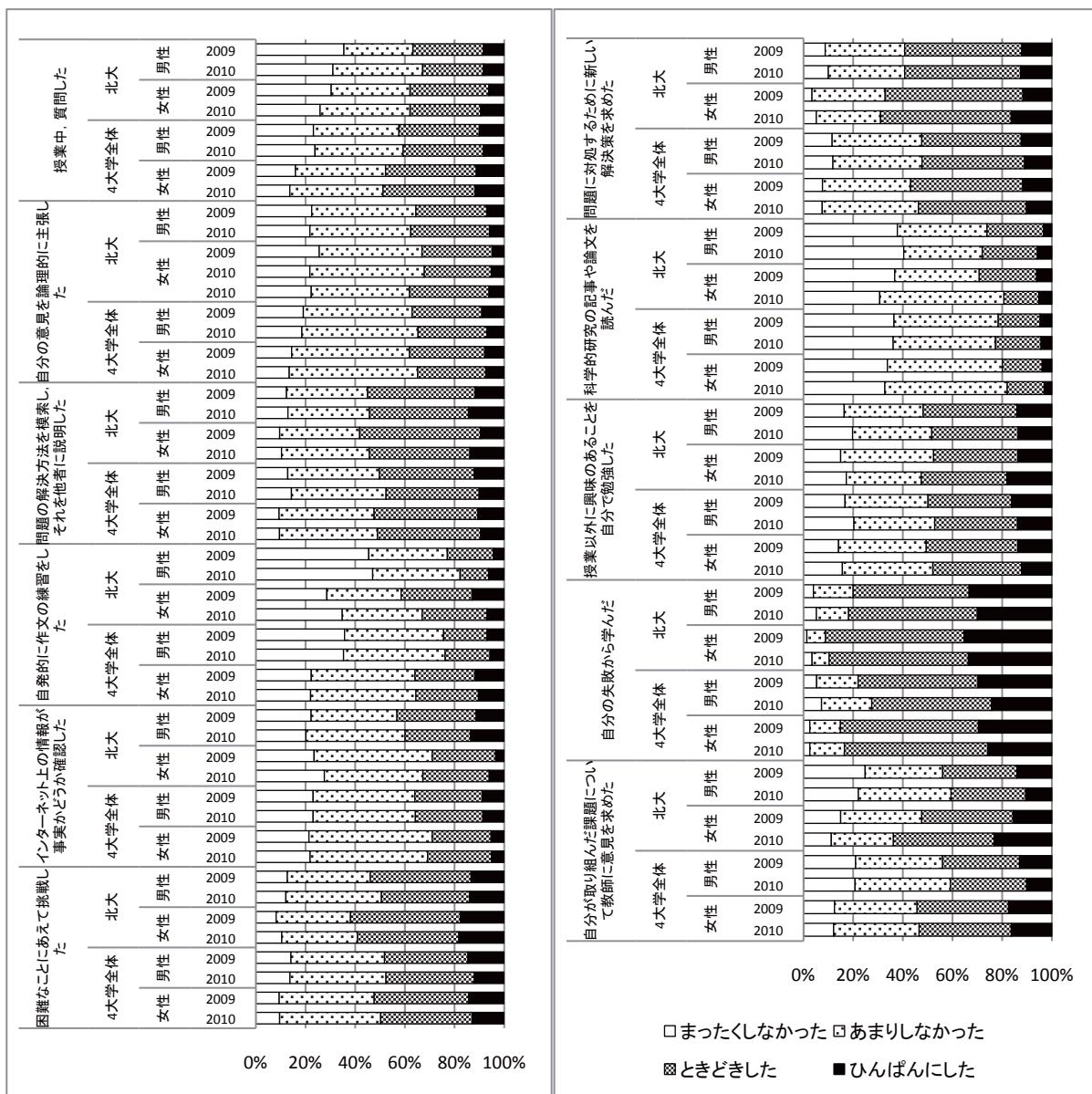


図 1.9.1. 高校 3 年生の頃における学習経験（男女別）

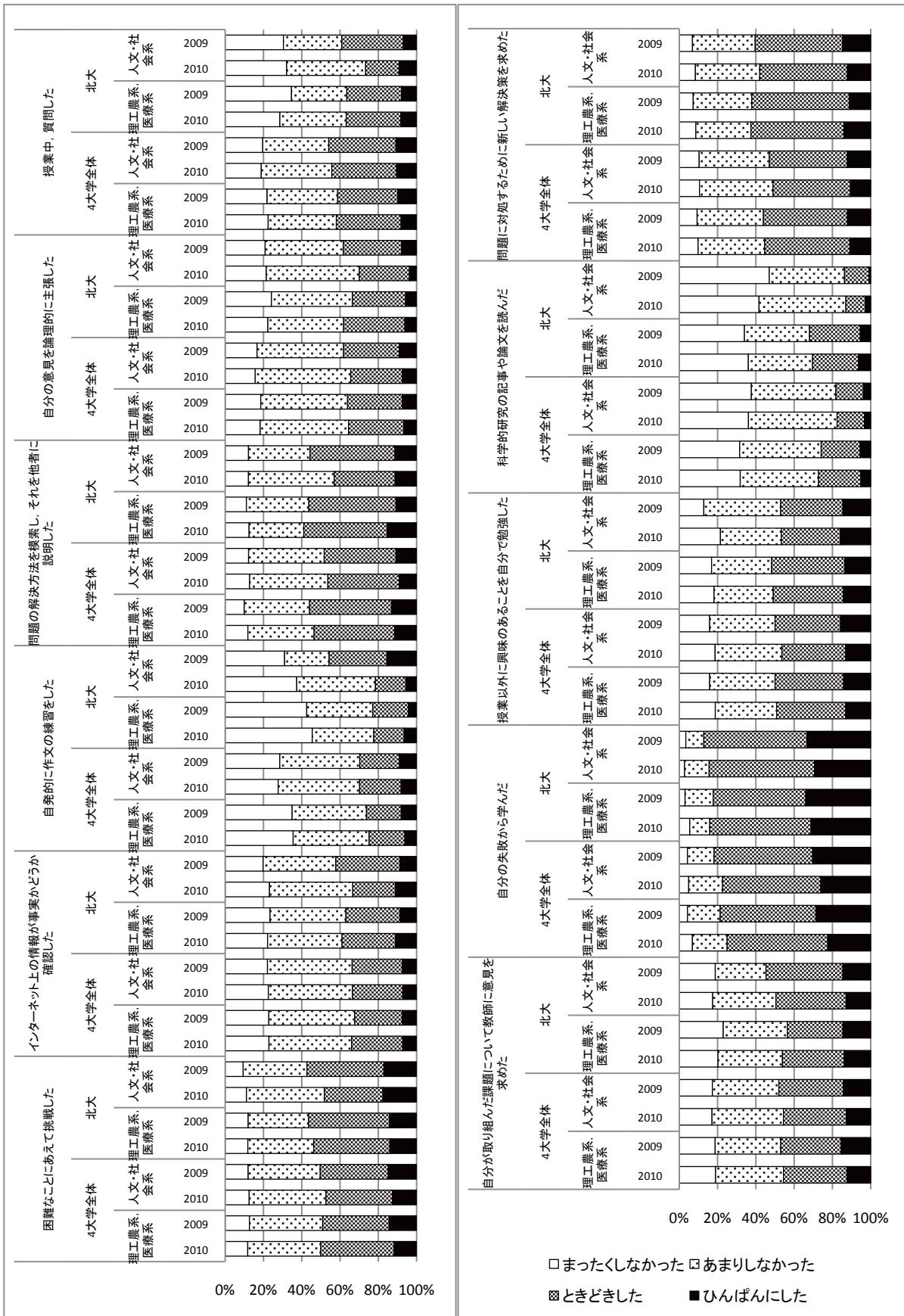


図 1.9.2. 高校 3 年生の頃における学習経験（専攻分野別）

## 2. 大学における学びの状況

本章では、大学初年次学生が授業でどのような経験をし、どのような学習活動を行っているか、調査結果を示す。

### 2. 1. 授業での学習経験[7]

初年次の授業における学習経験に関して 14 の質問を設けている（図 2.1、付録 3 図 1）。

北大と全体を比べて違いが大きい質問は、2009 年と同様に①「実験、実習、フィールドワーク等を実施し、学生が体験的に学ぶ」②「TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける」である。「ときどきあった」「ひんぱんにあった」という回答は、①については、北大では約 6 割、全体では 4 割弱、②については、北大では約 7 割、全体では 4 割強である。

北大の全学教育では、実験、実習、フィールドワークなど多彩な体験型授業を開発し、実験設備や器具を抜本的に刷新・充実してきた。

また TA の活用・拡充に努め、最近は全学教育における TA の採用人数はのべ 1,000 人を超える、毎年新任 TA200 人以上を集めて TA 研修会を実施し、TA は授業の補助で活躍するのはもちろん、大学院生が教育を学ぶための実地訓練としても有効に機能している（付録 4 図 1）。

上記の回答傾向には、北大が全学教育で特に力を入れている点がよく反映されている。

もっとも、全体でも、理工農系・医療系に限れば、①②が「ときどきあった」「ひんぱんにあった」という回答は 6 割を超える（人文・社会系では 2~3 割程度）。全体でも、理工農系・医療系の授業では実験、実習等が積極的に取り入れられ、TA や SA が活躍していることがうかがえる。

そのほか北大と全体の回答傾向が異なるのは、③「学生自身が文献や資料を調べる」④「取りたい授業を履修登録できなかった」である。「ときどきあった」「ひんぱんにあった」という回答は、③については北大 85%、全体 75%、④については北大 52%、全体 38% である。

北大では大部分の学生が、③学生自身が文献や資料を調べることを経験しており、受動的な講義だけではなく、学生が自ら積極的に学ぶ機会も提供されているといえる。

また、北大生の約半数が④「取りたい授業を履修登録できなかった」と回答し、2009 年より 8 ポイントほど増えている。

北大では、一般教育演習（フレッシュマンセミナー）（2010 年度開講数：128 科目）、総合科目（59 科目）、主題別科目（164 科目）、外国語演習（286 科目）など多彩な選択科目を用意している（付録 3 表 1）。

選択科目については、特定のクラスに履修者が過度に集中するのを防ぎ、学習環境を改善するため、科目ごとの開講時間帯を設定して同一時間帯ごとの開講科目数を適正化するとともに、クラスごとの履修者数に定員を設け、大人数講義や、一般教育演習、外国語演習、論文指導講義などの少人数クラスでは、希望者が定員を超える場合は抽選等によって履修者を決める履修調整を行っている。その際、履修希望者 3 名以下の科目は開講取り消しとしている。

また、単位の実質化の観点から、各学期の履修登録単位数に上限（原則として文系 21 単位、理系 23 単位以下）を設定し、学生には「少ない科目に集中して取り組む」よう指導している。

これらの制度のため学生の希望通りに履修登録ができない場合もある。これらの制度の趣旨について学生の理解は必ずしも十分ではなく、さまざまなアンケートや投書に不満が表れることがある。

一方、履修登録単位数の上限設定などの制度によって、①全学教育科目的履修者総数や、②1 クラスの平均履修者数、③開講科目数、④非常勤講師担当コマ数が減少し、学習環境が改善された結果、⑤学生の自習時間が着実に増加し、⑥GPA が大幅に上昇したこと、⑦授業評価アンケートにおける学生の満足度（総合評価）が着実に向上したことなど、メリットも大きい（付録 4）。

2011 年度には、総合入試制度の導入とともに文系・理系 2 種類の新しい総合教育カリキュラムの採用により、1 学期には履修者数が前年度より約 7%（3 千人）増加した（付録 4 表 1-3）。

総合入試で入学した学生は、2 年次進級時に移行先学部・学科を決めるため、初年次の全学教育の授業を受けて将来進むべき進路を決める事も多く、来年度以降「取りたい授業を履修登録できなかった」という不満がさらに増大することも考えられる。今後は諸制度の趣旨を踏まえ、種々のデータに目を配り、学生の声に耳を傾けて、適切な制度運用のために改善策を検討する必要がある。

2009 年には、本質問項目では、男女差は大きくなかったが、2010 年には特に北大で男女差が拡大している。⑤「教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」⑥「授業で検討するテーマを学生が設定する」ことが「ときどきあった」「ひんぱんにあった」という回答は、⑤については男性 52%，女性 61%，⑥については男性 23%，女性 36%である。ともに授業方法に関する質問で、男女差に格別の意味はないと思われるが、学習意欲の差などから回答に差が生じた可能性もある。

## 2. 2. 授業内外での学習行動や態度[8]

学生の学習意欲や学習行動に関する 14 の質問を設けている（図 2.2.1, 図 2.2.2, 付録 3 図 2）。

「授業課題のために利用した」資料や情報については、2009 年と同様に、北大、全体ともに①Web が②図書館を大きく上回っている。北大では、ごくわずかながら、①②ともに「ひんぱんにあった」という回答が減り、①Web は 60%，②図書館は 30%である。

③「インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」ことが「ひんぱんにあった」という回答は、全体では 2009 年よりわずかに減り、「ときどきあった」を加えても約 76%である。

北大では、③が「ひんぱんにあった」は(2009) 58%⇒65%に増え、「ときどきあった」を加えると 97%に上る。北大生のほとんどが授業でインターネットを利用した経験があることがわかる。

インターネットの利用にはさまざまなメリットがある一方、（もともと少ない）教職員と学生の直接のコミュニケーションがさらに減るというデメリットもあるので、授業時間内の討論など双方向的・能動的な授業方法を拡充する必要がある。

④「授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした」ことが「ひんぱんにあった」という回答は、全体では 26%と、2009 年とほとんど変わらず、北大では(2009) 30%⇒24%に減少している。

これは 2010 年調査の結果であるが、総合入試による入学者を迎えた 2011 年度には、休み時間などに学生同士で勉強する姿をよく見かける。総合入試制度では、初年次の成績が移行先の決定に影響するため、より真剣に学習に取り組んでいると思われる。来年度の北大生の回答に注目したい。

④他の学生と一緒に勉強することを奨励するには、授業内外で協調学習やグループ作業（グループ討論/調査、学習/ライティンググループ、オンラインのピアレビュー等）を促進する組織的な取組と、施設面での環境整備（図書館、自習室、ロビー等における共同学習スペースの拡充）が必要であろう。

授業を⑤「欠席した」⑥「遅刻した」ことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」という回答は 2009 年と変わらず、北大では⑤⑥とも 27%，全体では⑤欠席が 49%，⑥遅刻が 42% である。全体で数値が高いのは、他 3 大学で通学時間が長いことや専門分野間の差も一因になっていると思われる。

北大の全学教育では 2011 年度から、IC カードの学生証の導入に合わせて各教室にカードリーダーが設置され、より正確な出席記録が機械的に教務課で直接集められるようになった。

⑦「授業をつまらなく感じた」⑧「授業中に居眠りをした」ことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」という回答は、北大、全体ともに 2009 年よりわずかに増えている。特に北大で、⑦については 79%⇒83%，⑧については 69%⇒76% に増えている。難易度の高い授業についていけない、関心を持てない、重要性を感じないなどさまざまな原因が考えられる。

⑨「教員の研究プロジェクトに参加した」⑩「単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した」⑪「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択等）」ことが「まったくなかった」「あまりなかった」という回答は、北大、全体とも 2009 年と大きな差はなく、89%~97% と否定的な意見がほとんどである。初年次学生にとって教員と接するのは授業のみと想像される。クラス担任のオフィスアワーなどもほとんど活用されていないなか、2009 年調査について学生と教職員との関係は非常に希薄なことが示された。

⑫「教員に親近感を感じた」ことが「まったくなかった」「あまりなかった」という回答は、北大で 71%，全体で 73% と、⑨⑩⑪ よりは否定的回答が少ない。

北大では、2011 年度から総合入試制度・初年次総合教育の導入にともない、アカデミック・サポートセンター(ASC)の設置やクラス担任制度の強化など、学修支援策を充実させている。今後この成果が現れ、教職員との関係が改善することに期待したい。

## 2. 3. 内容別にみた 1 週間あたりの活動時間[9]

7 つの活動に費やす時間について、1 週間に①全然ない、②1 時間未満、③1~2 時間、④3~5 時間、⑤6~10 時間、⑥11~15 時間、⑦16~20 時間、⑧20 時間以上、で聞いている（図 2.3）。

学生が最も時間を割いている活動は、2009 年と同じく、①「授業や実験に出る」である。1 週間に 11 時間以上は、北大で 94%，全体で 86% である。20 時間以上は、北大では、実験等の多い理工農系・医療系で 64%，実験等の少ない人文・社会系では 33% である。

②「授業時間以外に勉強や宿題する」については、5 時間以下という回答が、北大で 49%，全体で 78% と、2009 年と同じく大きな差がある。2009 年比較分析報告書（参考文献 2）でも述べたとおり、この一因には、学生の構成（北大では理系が多く、全体では文系、特に経済・経営学部が多い）や、

通学時間（北大では 6 割以上が片道 30 分未満、全体では約半数が 1 時間以上）の差があると考えられる。2009 年と比べると、北大、全体ともに 6 時間以上の割合が数ポイント増えており、北大では約半数である。また、自習時間の平均は、時間区分により多少の違いはあるが、北大、全体ともに女性の方が長い。

北大では、単位の実質化の取組の成果もあって、学生の自習時間が着実に伸びているが（付録 4 図 3）、それでも大学設置基準（1 単位あたり自習時間を含めて 45 時間（週 3 時間）の学修が必要）や、国際比較（欧米諸国は 1 週あたり 15~20 時間、日本は 7 時間程度）に照らせば、自習時間はきわめて少ないと言わざるを得ない。

③「個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）」については、2009 年と同様に 5 時間以下と 6 時間以上でほぼ半数に分かれる。大学間、専門分野間の差は大きくない。

（質問には（テレビやゲーム、映画鑑賞など）とある。学生がこの質問をどのように受け止めたか不明だが、テレビを見ることが趣味で、それが 5 時間以下の学生が約半数という結果には疑問が残る。この設問では休日の時間の大部分を費やすような「趣味活動」が想定されない可能性も考えられる。）

④「部活動や同好会に参加する」ことが「全然ない」は、北大、全体とも約 20%，5 時間以下は 50~60% である。課外活動に費やす時間が短い傾向は、2009 年から大きな変化はない。

⑤「読書をする」は、時間区分により多少のバラツキはあるが、2009 年と大きな変化はない。北大では、1~2 時間が約 25% で最も多い。1~2 時間以上の合計は、北大で 55%，全体で 48% である。北大の人文・社会系の学生が読書に費やす時間は、1~2 時間以上の合計が 69% と、際立って長い。

⑥「大学外でアルバイトや仕事をする」ことが「全然ない」は、全体では 28%，北大では（2009）47% ⇒ 54% に増えている。北大生がアルバイトや仕事に費やす時間が 4 大学全体より短いのは、地域によって異なる学生の経済状況や生活費なども一因と考えられるが、「全然ない」が増えていることが目を引く。アルバイトや仕事の時間は理系が短く、文系が長い傾向もあるが、その差は大きくない。また、北大、全体に共通して、男性より女性の方がアルバイトや仕事の時間が長い傾向にある。

⑦「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」ことが「全然ない」は、2009 年と同様に、北大、全体とも約 80% に上り、学生と教職員との関係の希薄さを示している。特に北大の女性では（2009）80% ⇒ 85% に増えている。

2009 年比較分析報告書（参考文献 2）でも述べたように、授業や実験に費やされる時間は長いが、課外活動やアルバイト、読書や趣味に費やす平均的な時間を足しても、睡眠を除く活動時間を埋めることはできない。

学生が自由な時間を有意義に使えるようになるためには、学習ポートフォリオなど、学生の日々の活動についてより詳細な情報を得て改善を指導する取組が別に必要であろう。

## 2. 4. 入学後に修得した能力やスキル[10]

入学後の能力・スキルの変化について 20 の質問を設けている（図 2.4、付録 3 図 3）。

入学後に能力が「増えた」「大きく増えた」という回答が北大、全体とも 6 割を超える質問は、①「一般的な教養」②「専門分野や学科の知識」③「コンピュータの操作能力」である。

この回答の割合は、北大では分野間の差が大きく、①一般的な教養については、人文・社会系 75%，

理工農系・医療系 62%, ②専門分野や学科の知識については、理工農系・医療系 74%, 人文・社会系 60%, ③コンピュータの操作能力については、理工農系・医療系 80%, 人文・社会系 71%と、専門分野間で 10 ポイント程度あるいはそれ以上の差がある。

①一般的な教養については、2009 年と同様に、理工農系・医療系、男性の否定的な回答が目立つ。理系向け教養科目の内容の見直しが必要かもしれない。

③コンピュータの操作能力については、理工農系・医療系と人文・社会系の間に明らかな差があるが、両者合わせて 77% に上り、初年次の情報教育が効果を上げている証と考えられる。

そのほか、④「人間関係を構築する能力」については、「増えた」「大きく増えた」という回答が、2009 年に比べて、男性では 50% ⇒ 44% に減り、女性では 59% ⇒ 68% に増えている。

一方、「増えた」「大きく増えた」という回答が少ない質問は⑤「リーダーシップの能力」15%, ⑥「異文化の人々と協力する能力」20% である。これらの能力は今後さまざまな経験をとおして徐々に培っていくものと考えられる。

全 20 問を通じて「大きく減った」「減った」という回答はおおむね 10% 以下と少ないが、⑦「外国語の運用能力」⑧「数理的な能力」⑨「時間を効果的に利用する能力」については、その割合が約 20% 程度と比較的高い。

⑦外国語の運用能力については、大学間、専門分野間の差は小さい。

⑧数理的な能力については、特に北大では専門分野間の差が大きく、人文・社会系で 45%, 理工農系・医療系で 22% である。

⑨時間を効果的に利用する能力については、「大きく減った」「減った」が北大で 25%, 全体で 12% と、大学間で差が大きい。

⑨については、北大では「増えた」「大きく増えた」という回答も 39% と比較的多い。北大生は通学時間が比較的短く、自由な時間が多いが、自由な時間を使っている学生と、できない学生と、両極に分化していることがうかがえる。

北大の女性では、⑩「異文化の人々に関する知識」⑪「グローバルな問題の理解」が「増えた」「大きく増えた」という回答が、⑩については(2009) 60% ⇒ 74% に、⑪については(2009) 34% ⇒ 46% に増えている。特に女性において国際関係への関心の増大がうかがえる。

今年のアカデミック・サポートセンターにおける相談内容でも、「将来国際関係で活躍したい」と話す女子学生が目立った。国際本部（留学生センター）の留学促進イベントの効果とも考えられる。

図 2

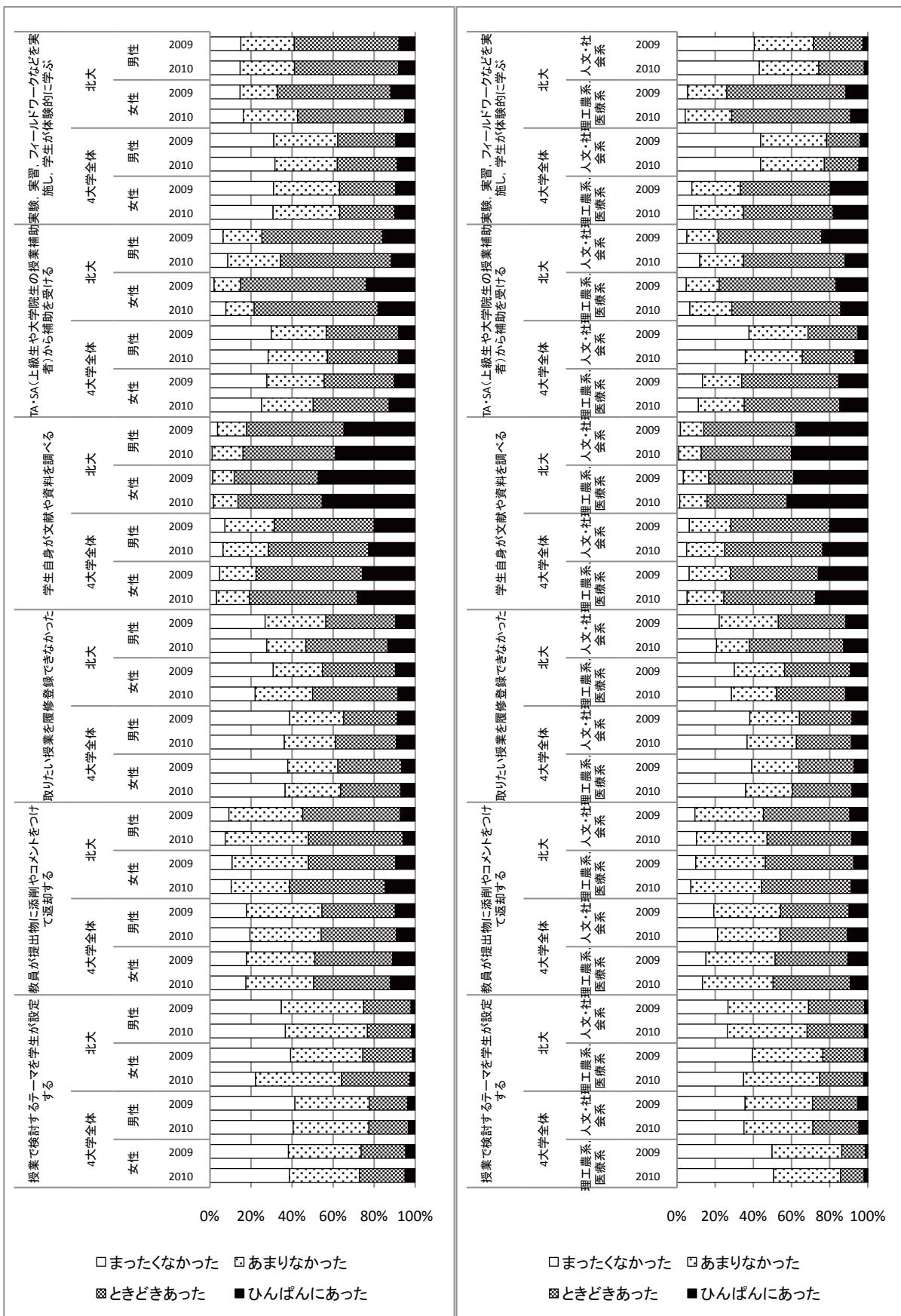


図 2.1. 授業における経験（左図：男女別，右図：専攻分野別）

# 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

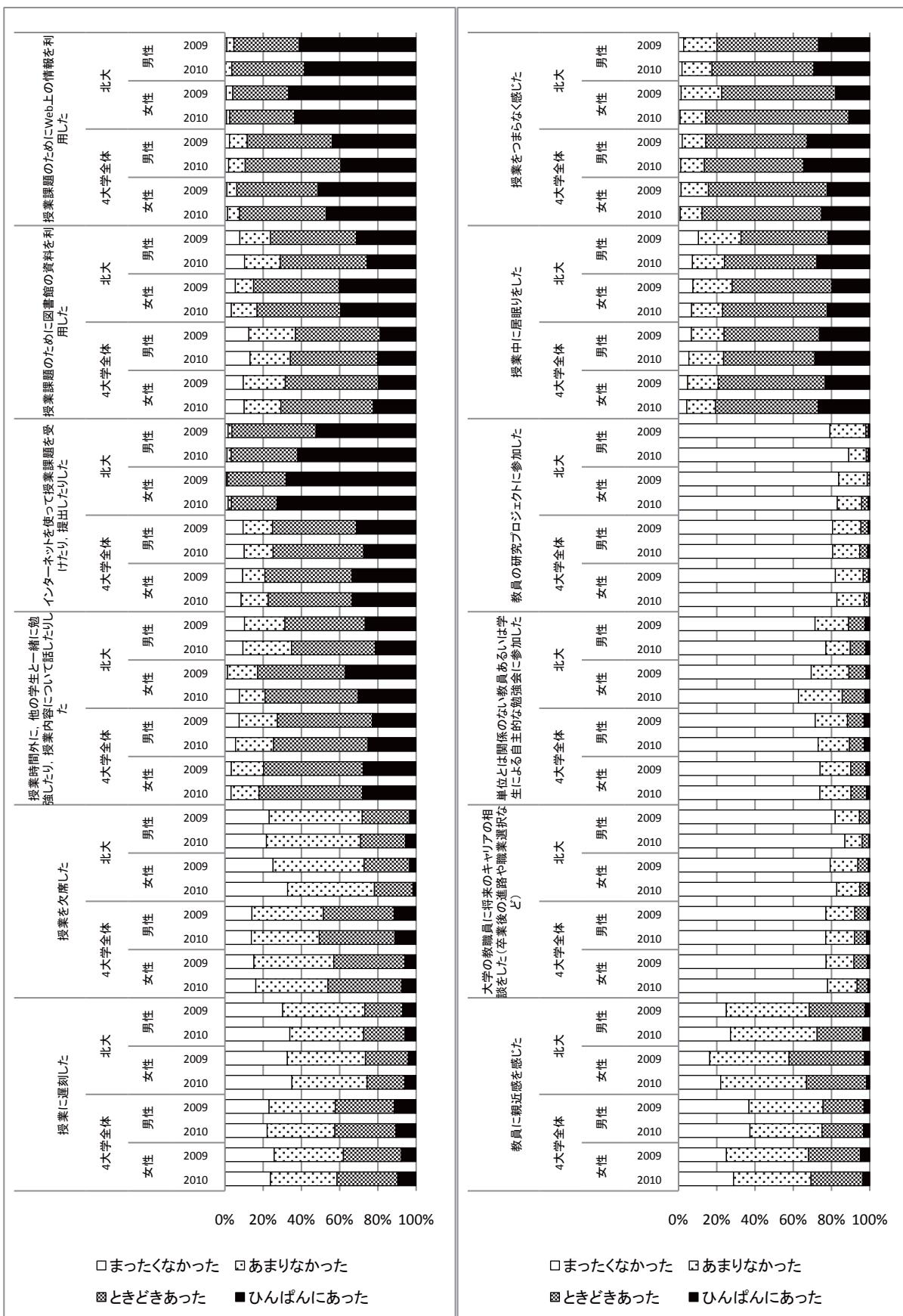


図 2.2.1. 授業内外における学生の学習状況（男女別）

## 2. 大学における学びの状況

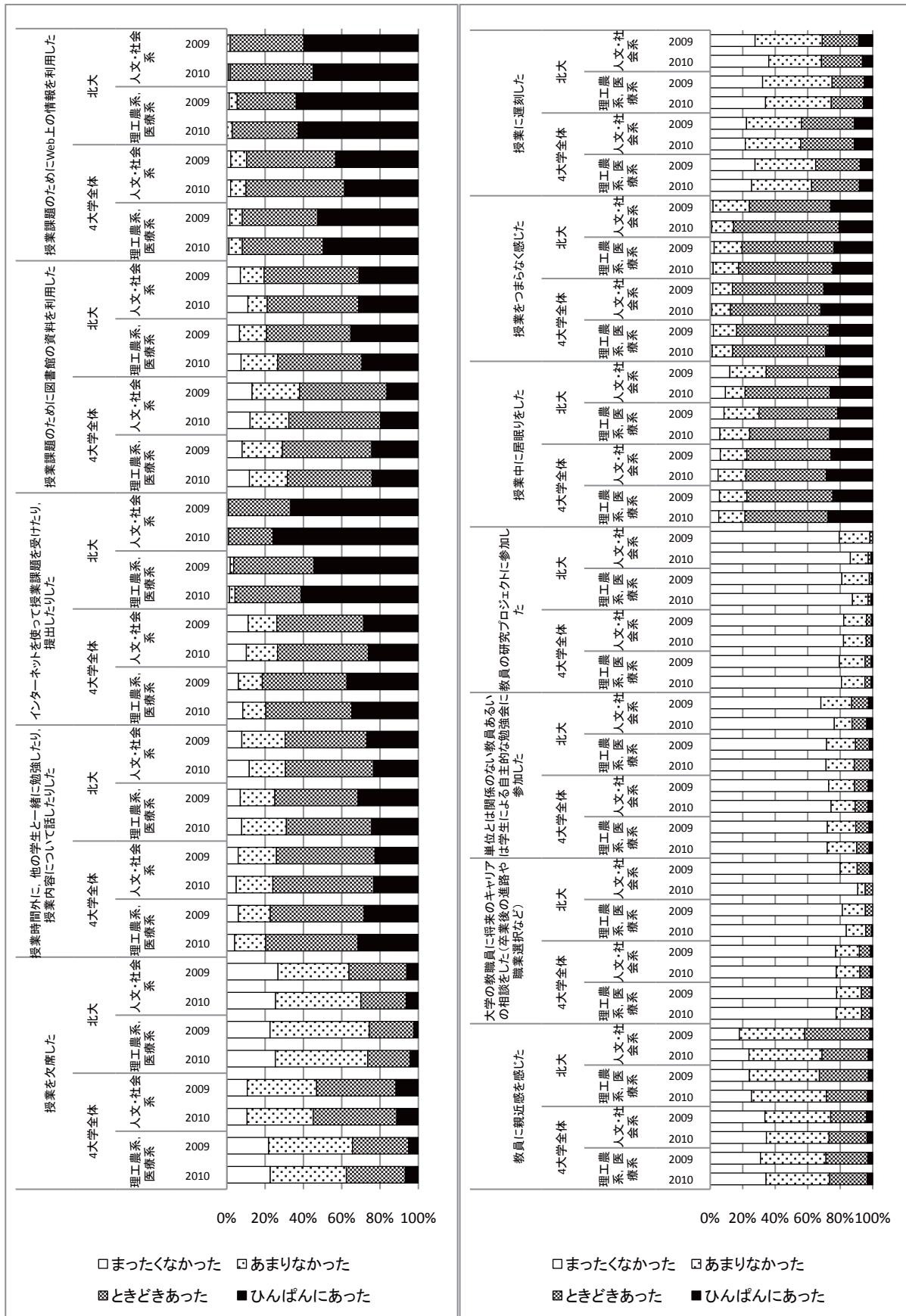


図 2.2.2. 授業内外における学生の学習状況（専攻分野別）

## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

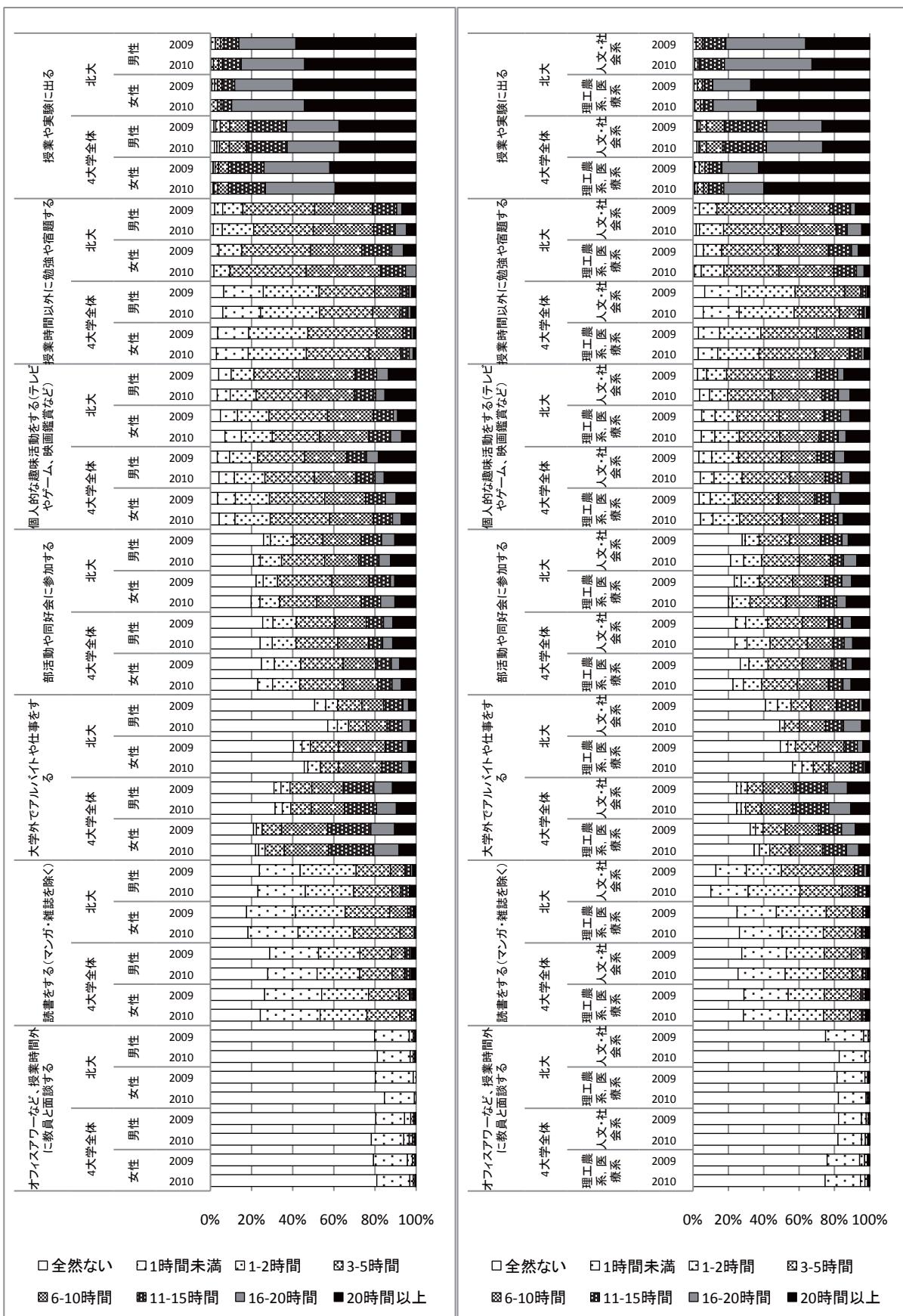


図 2.3. 1週間あたりの活動時間の状況（左図：男女別、右図：専攻分野別）

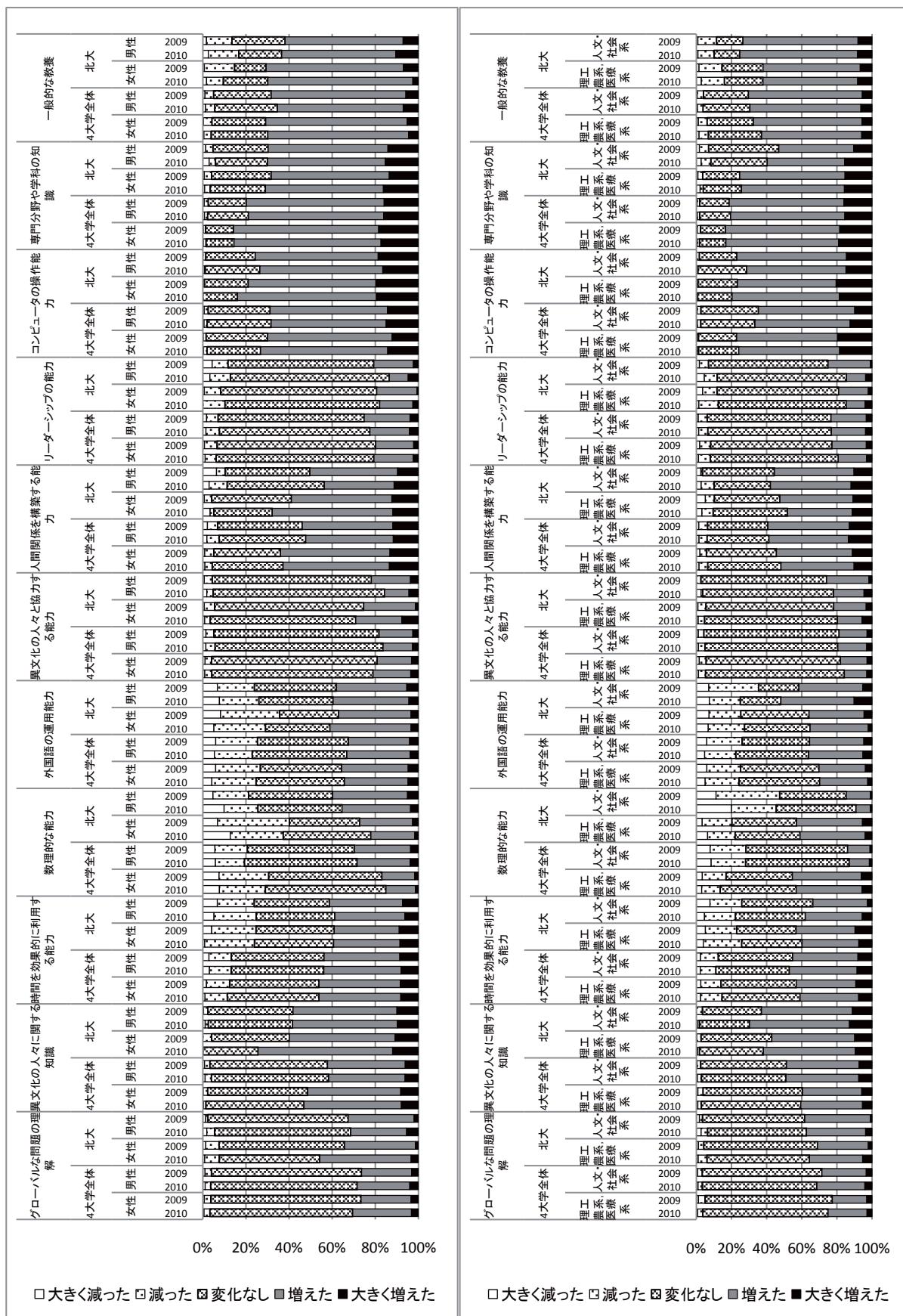


図 2.4. 入学後の能力変化の状況（左図：男女別、右図：専攻分野別）

### 3. 英語運用能力の修得状況

本章では、大学、専門分野によらず初年次学生の必修科目になっており、教育効果を測る共通指標として最適な科目である英語の運用能力についての調査結果を述べる。

2010 年調査より新たに、英語に対する意識、海外渡航歴、検定試験に関する質問を設けた。

#### 3. 1. 英語運用能力の評価基準(CEFR)

2010 年調査でも、英語能力の評価基準として、外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参考枠 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)を採用した。詳細は参考文献 1, 3 を参照していただきたい。

2009 年調査では、各能力の熟達度を初級(A), 中級(B), 上級(C)の 3 つに大きく区別し、さらにそれを低(1), 高(2)に細分し、全 6 段階で評価した。

2010 年調査では、会話力についてのみ、初級をさらに細分化して A1.1, A1.2, A2.1, A2.2 とし、全 8 段階で評価している。

#### 3. 2. 英語運用能力の現状[11]

2009 年には、自分の英語能力を上級(C1+C2)と評価する学生の割合が 10%を超えたのは、①北大の人文・社会系の入学時の「読む力」10%と②調査時の「書く力」10%だった。

2010 年には、上級が 10%を超える能力はない。上級の割合が高い上位 3 つは、①北大の女性の調査時の「読む力」8%, 4 大学全体で、②女性の調査時の「書く力」7%, および③男性の調査時の「読む力」7%である。専門分野別では、7%を超える能力はない。自分の英語能力を上級と評価する学生は、どの能力でもごく少数である（図 3.1）。

各能力を、評価が高い (B2+C1+C2 の合計 (中の上以上) が多い) 順に並べると、北大では①読む力②書く力③表現力④聞く力⑤会話力となる。この順位は 2009 年と変わらず、B2+C1+C2 の割合にも大きな変化はない。また、2009 年と同様に、北大の女性では「読む力」を「中の上以上」と評価する割合が、調査時には入学時よりも減っている。大学で半年以上英語教育を受けても、その能力が低下したと認識しているのである。

2009 年と比べて特に顕著な違いは、北大、全体とも、自分の「会話力」を初級(A1+A2)と評価する学生の割合が増え、「読む力」は初級とする割合が減っていることである。特に会話力を初級とする学生は、2009 年の約 8 割から、2010 年には 9 割以上に増えている。2 年間の調査では経年変化を議論するにはデータ量が不足だが、特に会話力の低下が目立つ。2009 年と同じく、実際のコミュニケーションに重要な、会話力と聞く力は他の能力よりも低い。

#### 3. 3. 英語運用能力の変化

2009 年と同様に、大学入学から本調査まで、半年余りの期間に英語能力が向上したと感じる学生は

少なく、どの能力についても 6~7 割が「変化なし」と評価している。1 段階低下の割合が高いのは「読む力」である。2009 年比較分析報告書（参考文献 2）でも述べたが、これは大学受験で最も重要な能力と考えられ、受験時をピークに入学後は能力が低下したと感じている学生が少なくない（図 3.2）。

向上したと評価する者が多いのは「聞く力」で、1 段階上昇の割合が 30% 近い。北大ではネイティブスピーカーによる授業も数多く開講されており、入学後により実践的な教育を受けて能力が向上したと考えられる。そのほかの能力についても 20% 程度が 1 段階上昇と評価しているが、2 段階以上上昇と評価する者は少数である。また、半年余りの変化では、北大と全体の間に大きな差がないのも特徴である。今後は上級生調査に表れる 2~3 年後の変化にも注目する必要がある。

### 3. 4. 会話力

大まかにいって、北大では、自分の会話力を A1.1 と評価する学生の割合は入学時から調査時にかけて減り、その分 A2.2 が増えている。初級のなかでわずかに能力が上昇したといえるが、いずれにしても会話力を初級と評価する学生は 9 割を超え、入学時から明瞭な能力の上昇傾向はみられない。

ただし、北大で 1 年次 1 学期に英語 II（オンライン授業）と連動して全員が受験する TOEFL-ITP 試験のスコアは、着実に上昇している（付録 4 図 2）。

### 3. 5. 英語に対する意識（好き・嫌い、得意・不得意）[12][13]

本質問は 2010 年に新たに設けた項目である。

北大と全体の間で大きな差はなく、どちらでも、約半数が英語は「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。また、「好き」「どちらかといえば好き」の合計は、女性で 57%，男性で 49% と、女性の方が男性より 8 ポイント高い（図 3.3）。

英語が「とても得意」という回答はごく少数であるが、「どちらかといえば得意」を含めると 20% を超える。その割には各英語運用能力の評価が低いが、入学後半年では、実践的英語能力よりも入試などでの英語の成績をもとに回答している可能性もある。性別、専門分野間による大きな差はない。

### 3. 6. 海外渡航経験[14]

アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなど英語圏への渡航経験に関する 7 つの質問を 2010 年から新たに設けた。

英語圏への渡航「経験あり」という回答は、北大で 30%，全体で 40% である（図 3.4）。

渡航期間については、さらに①旅行、ホームステイ・留学（②1 ヶ月未満、③1 ヶ月～6 ヶ月未満、④6 ヶ月～1 年未満、⑤1 年以上）、⑥居住経験をたずねた。北大、全体ともに渡航期間が長くなるとその割合は減少する。「英語圏で 1 ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある」に対して「経験あり」は、北大 8%，全体 11% で、さらに渡航期間が長くなると 1% 弱程度に下がるが、居住経験ありは約 2% である。期間を問わず、旅行、ホームステイ・留学の経験のある学生の割合は、北大よりも全体の方が高い傾向にある。短期留学を奨励・支援する、あるいは必修課題とするような取組の反映とも考えられる。

また、北大について、渡航経験のあり・なしと、英語運用能力との関係を分析した（図 3.5）。英語は「とても得意」「どちらかといえば得意」という回答の割合は、渡航経験ありで 27%，なしで 20% である。得意・不得意は学生の自己評価であり、英語能力の客観的な測定結果ではないが、英語に対する意識は、渡航経験のある学生の方がより肯定的である。

さらに、調査時のそれぞれの能力との関係を分析した。5 つの能力のうち、渡航経験のある学生の方がより能力が高い（B2+C1+C2 が多い）と評価するのは、コミュニケーションにおいて重要と考えられる、①聞く力②会話力③表現力であり、受験などで重要な④読む力と⑤書く力については、渡航経験のない学生の方がより能力が高いと評価している。わずかな差だが、能力による違いがみられる。

### 3. 7. 英語の検定試験[15]

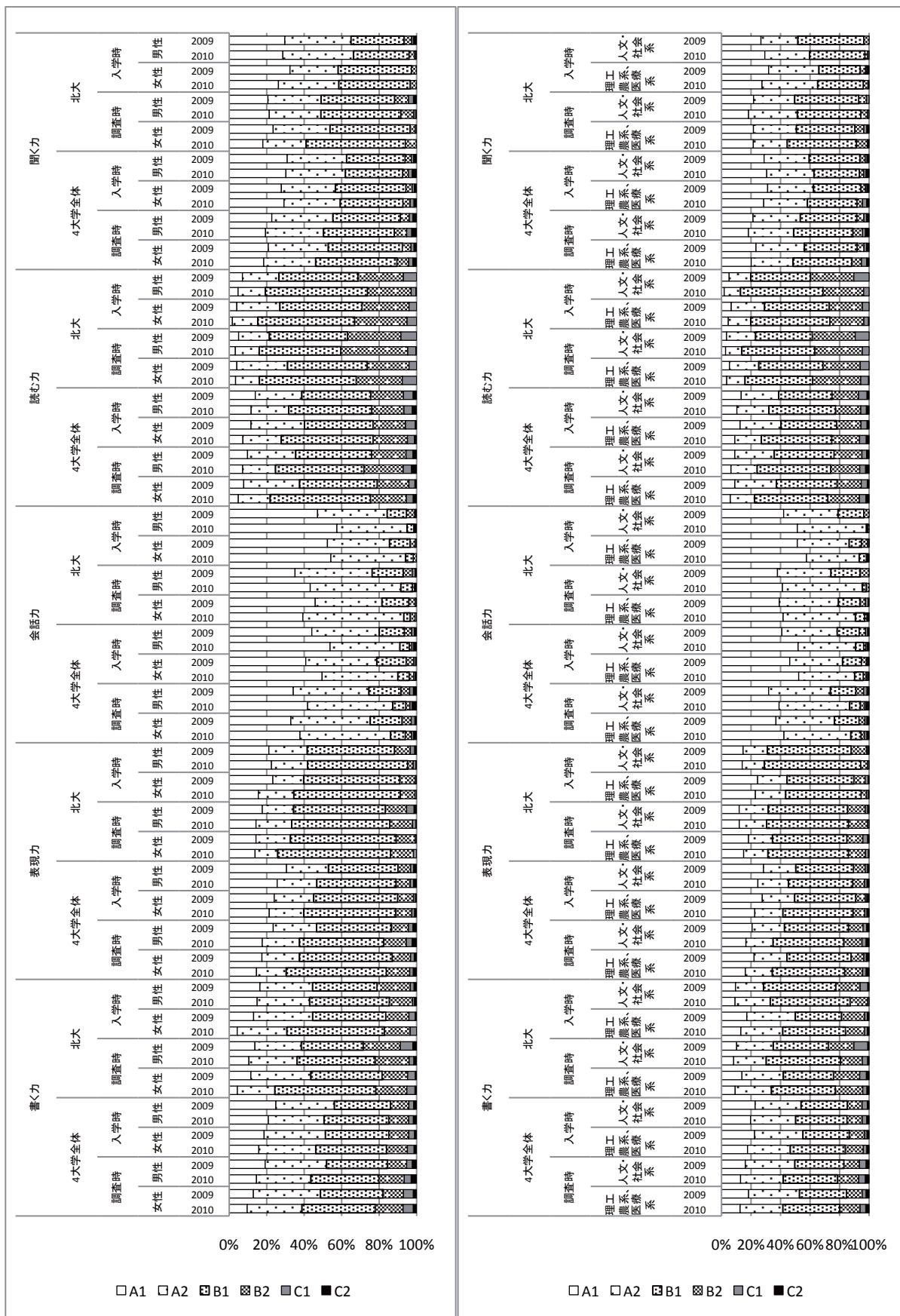
英語の各種検定の受験経験、取得スコアについてたずねている。

英語の検定試験は、北大の 90%，全体の 69% が受験経験がある。しかし、実用英語技能検定（英検）以外の TOEIC, TOEFL は、受験経験ありは 20% 以下である（図 3.6）。

英検の受験経験は、北大で 80%，全体で 61% である。取得級は 3 級が最も多く、北大で 36%，全体で 34% である。英検 3 級はおそらく高校までに取得したもので、大学入学後に英語の各種検定試験を受験している学生は非常に少ないとみられる。

北大では 1 年次 1 学期に全員が TOEFL-ITP を受験しているが、これはここでは調査対象に入っておらず、「その他」に記入する学生もわずかである。

図 3



## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

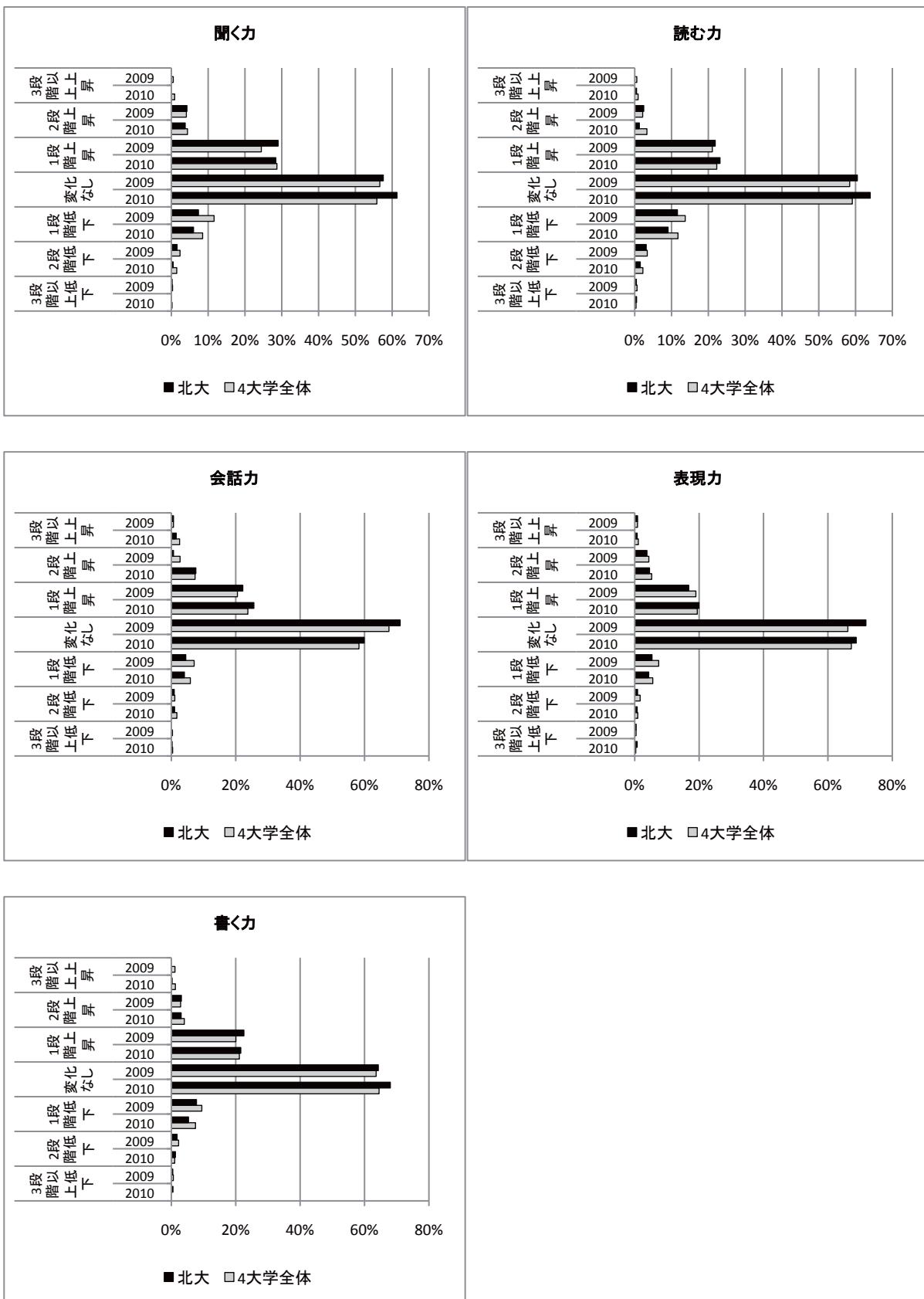


図 3.2. 英語運用能力の熟達度における入学時と調査時までの変化

### 3. 英語運用能力の修得状況

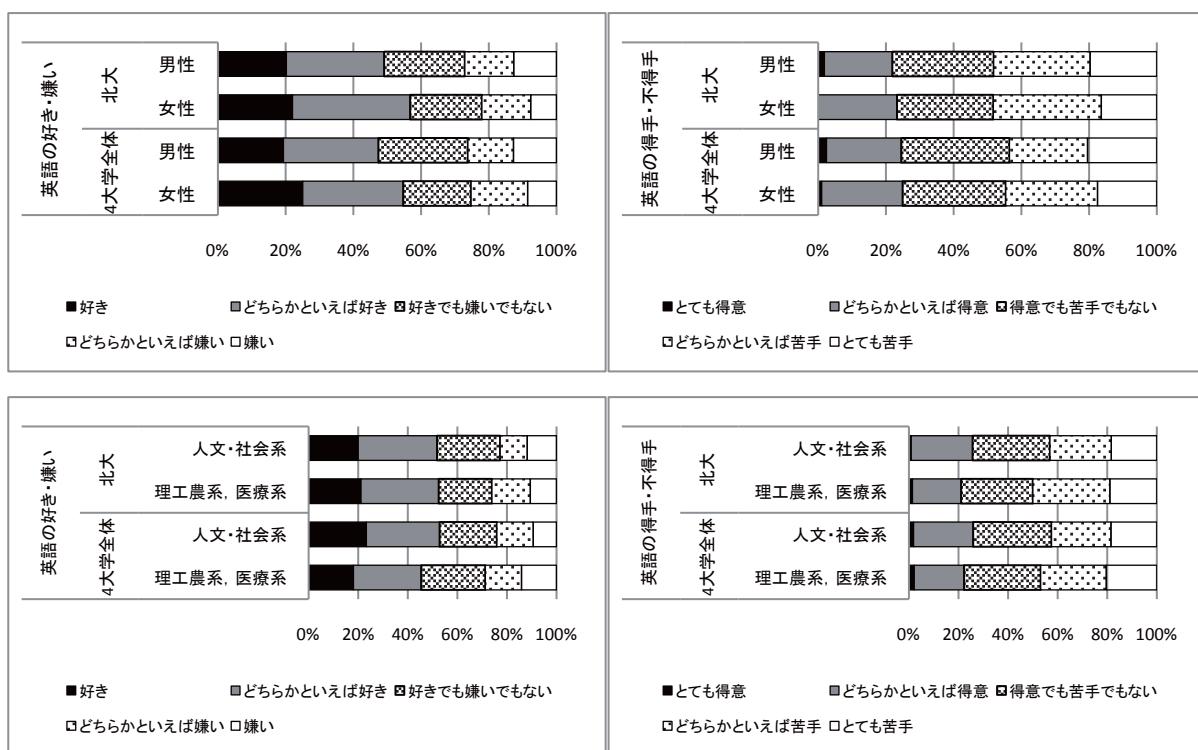


図 3.3. 英語に対する意識

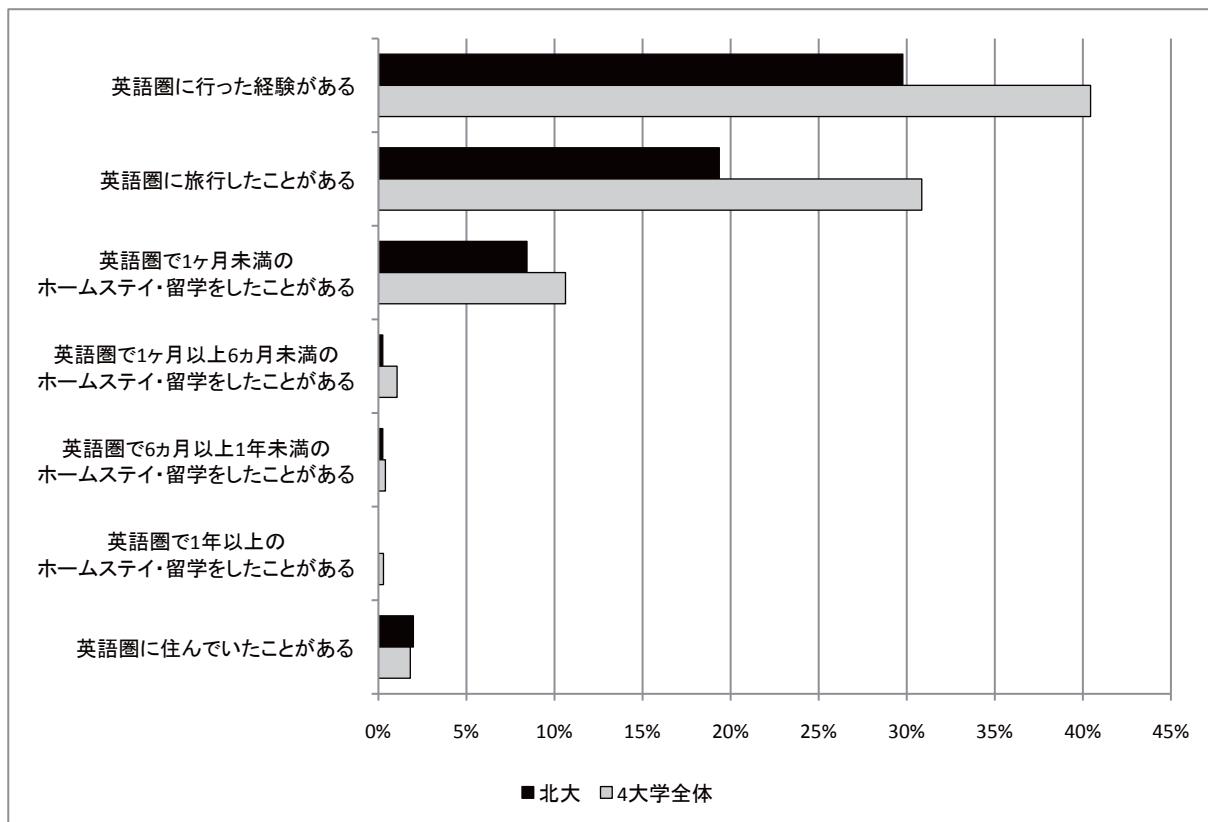


図 3.4. 海外渡航経験

## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

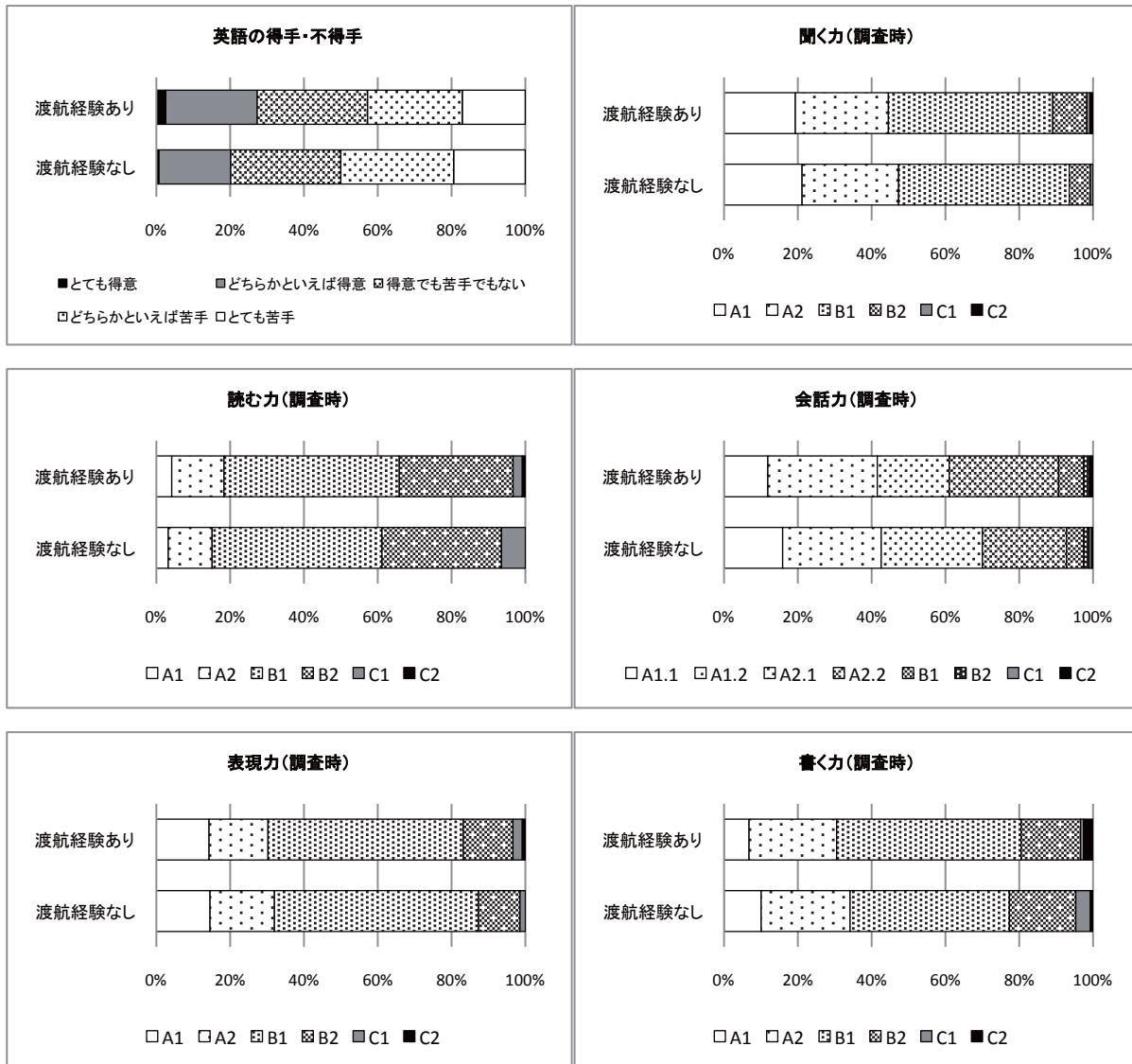


図 3.5. 海外渡航経験と英語運用能力の関係

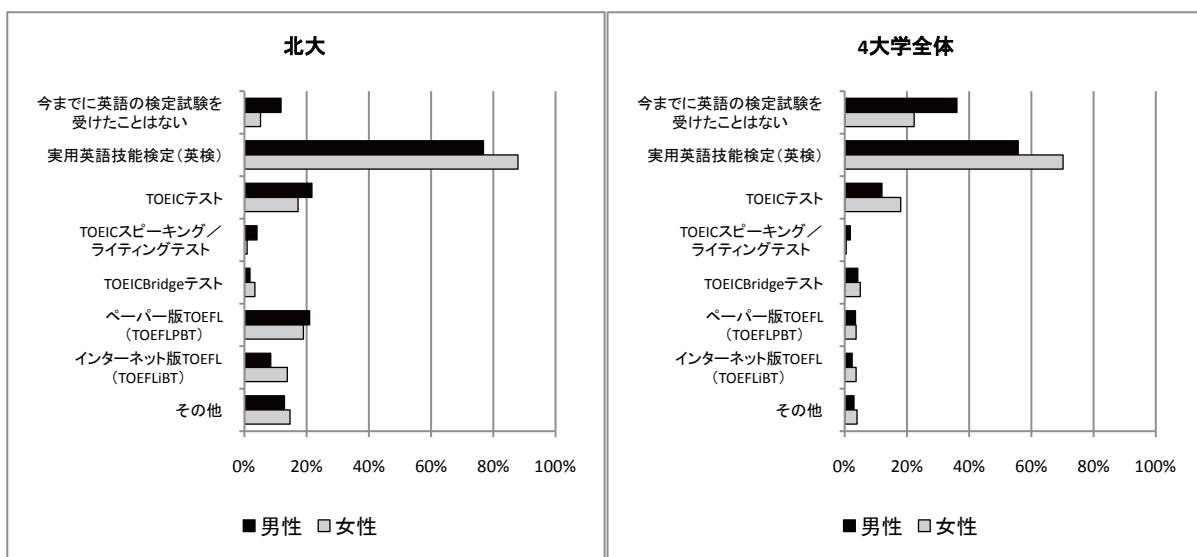


図 3.6. 英語検定試験の受験経験

## 4. 学びや大学生活に対する意識

本章では、学習環境・大学生活に対する意識、大学生活への適応感、教育内容・環境に対する満足感、卒業後の進路などについて述べる。

### 4. 1. 大学生活への適応感[16]

大学生活への適応感について 7 つの質問を設けている（図 4.1、付録 3 図 4）。

2009 年から特に変化のある項目について述べる。

①「効果的に学習する技能を修得する」②「大学が求める水準に応えて学習する」③「大学教員の学問的な期待を理解する」④「大学教員と顔見知りになる」ことが「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」という回答は、北大の女性では、① $42\% \Rightarrow 52\%$ 、② $46\% \Rightarrow 50\%$ 、③ $30\% \Rightarrow 40\%$ 、④ $33\% \Rightarrow 37\%$ と、大きく増えている。どの回答も最高 50% 程度で、特に高いわけではないが、北大の女性の約半数は学習に意欲的に取り組み、それなりの成果を実感しているといえる。

④大学教員と顔見知りになることが「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」という回答の割合は 7 間中最低で、北大で 27%、全体で 33% である。2009 年と同様に、ここにも学生と教職員の関係の希薄さが表れている。

一方、⑤「時間を効果的に使う」ことが「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」という回答は、北大の女性では、(2009)  $47\% \Rightarrow 40\%$  と、大きく減少している。

⑥「他の学生との友情を深める」ことが「とてもうまくいった」という回答は、北大で 24%、全体で 31% である。そのほかの質問に「とてもうまくいった」という回答はいずれも数% 程度なので、友人関係は、大学生活のなかではおおむね充実しているといえる。

ただし、北大では、⑥が「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」という回答は、女性 89% に対し、男性は 69% にとどまり、2009 年の 77% からも減少している。今後の調査では特に北大の男性の友人関係に注目する必要がある。

### 4. 2. 学生生活の充実感[17]

学生生活の総合評価では、2009 年と同様に約 8 割が「充実している」「まあまあ充実している」と答えている。北大では、2009 年よりその割合が若干増加し、全体と比べても大きな差はない（図 4.2）。

北大、全体とも、男性よりも女性の方が大学生活に適応し、充実感を得ているとみられるのも、2009 年と同じ傾向である。

### 4. 3. 大学の教育内容に対する満足感[18]

大学の教育内容に対する満足度に関する 12 の質問のうち（図 4.3、付録 3 図 5）、「とても満足」「満足」の合計が多い上位 3 項目は、北大では①「大学での経験全般について」52%、②「他の学生と話をする機会」51%、③「初年次生を対象とした教育プログラム内容」45%、4 大学全体では②「他の

学生と話をする機会」56%, ①「大学での経験全般について」46%, ④「大学のなかでの学生同士の一体感」38%である。

①大学での経験全般に「とても満足」「満足」という回答は、北大では2009年と同様に男女差が大きく、男性44%, 女性72%である。全体でも、女性の満足度の方が高い傾向がある。

北大の特徴は、③初年次生を対象とした教育プログラム内容への満足度が3位に入ることである。全体では③に「とても満足」「満足」という回答は30%で、北大とは15ポイントの差がある。

北大でも女性に限れば、⑤「共通教育あるいは教養教育の授業」への満足度も高い。

北大では、①2001年度に教養教育のコアカリキュラム、②2006年度に「学生の学力の多様化」に対応する、外国語科目・専門基礎科目を中心とする新カリキュラムを導入し、全学教育の改革を進めてきた。これはその効果の表れと考えられる。

一方、⑥「教員と話をする機会」⑦「個別の学習指導や援助」について「とても満足」「満足」という回答は、北大では、⑦に関する女性の26%を除いて、おむね20%を下回り、満足感は低い。しかし2009年と比べると、⑦に「とても満足」「満足」という回答は、男性で11%⇒16%, 女性で10%⇒26%と、大幅に増加している。

北大では総合入試制度の導入に備えて、2010年10月にアカデミック・サポートセンター(ASC)が設置され、個別学習指導(学習サポート)を始めた。ASCの活動の初年度であり、学生への周知もあまり進んでいなかったが、2010年10月～2011年2月の間に約300人の利用があった。

また、総合入試による入学者を迎えた2011年4～9月には、ASCの活動の利用者は、学習サポートはのべ1,000人、進路相談はのべ300人を超えていた。⑦個別の学習指導や援助に対する満足感は決して高くはないが、2009年より上昇したのは、ASCの活動の効果の表れとも考えられる。

大学の教育内容に対する満足感に関しても、全般的に女性の方が高い傾向があり、総合的にみて大学生活に対しては男性よりも女性の方がうまく適応し、充実感を得、満足感も高いといえる。

#### 4. 4. 大学の教育環境に対する満足感[19]

大学の施設や設備、支援制度に関する質問で(図4.4、付録3図6)、満足感(「とても満足」「満足」)が高いのは、2009年と変わらず、①「図書館の設備」(北大75%, 全体69%), ②「コンピュータの施設や設備」(北大79%, 全体65%), ③「インターネットの使いやすさ」(北大66%, 全体53%)である。①図書館設備、②コンピュータ施設・設備は、各大学とも十分に整備され、入学時から利用可能になっているとみられる。③インターネットの使いやすさについて若干満足感が下がるのは、セキュリティー上ある程度の利用制限等があるためとも考えられる。

④「実験室の設備や器具」については、2009年と同じく大学間で差が大きい。「とても満足」「満足」という回答は、北大で58%, 全体で32%である。これについては、④実験室の設備や器具を使用する理工農系・医療系と、使用しない人文・社会系との間で差があり、理工農系・医療系では満足感が高いが、それでも北大では74%に対し、全体では52%と、大学によって差が大きい。

#### 4. 5. 大学卒業後の予定進路[20]

大学卒業後の予定進路として、①就職②大学院進学③留学④他大学への（編）入学⑤専門学校への入学⑥未定⑦その他を挙げて聞いている（図4.5）。

2009年からの変化は、北大の②大学院進学希望者が、女性では(2009) 43%⇒36%，理工農系・医療系では 66%⇒61%に減少する一方、⑥未定が女性では(2009) 11%⇒19%，理工農系・医療系では 10%⇒17%に増加していることである。

2009年と同様に、⑥進路未定の学生の割合は大学、性別、専門分野によらず 20%以下であり、入学後半年余りでも、大部分の学生が進路についてすでに明確な目標を持っている。

そのほか、人文・社会系の②大学院進学希望者が少ないと、全体では女性の②大学院進学志望者の割合が男性の半分以下であることなどは、2009年と大きな違いはない。

北大では、理系学部（理、工、農、水産）の②大学院進学率は、2006～2009年は 74.5%～78.6%で、最近2年は78%を超えている。文系学部（文、教育、法、経済）の進学率は16%～19%程度である。

#### 【付録3】主な設問ごとの北大と4大学全体の回答傾向の違い（51～56ページ）について

北大と4大学全体の回答傾向の違いを視覚的にとらえるため、2009年および2010年調査のデータをレーダーチャート形式にまとめた。

\* ◎：（北大の方が値が）10ポイント以上大きい。○：5以上～10未満ポイント大きい。▽：5ポイント以上小さい。

ここで、2年とも◎の質問項目は、①実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ②TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける③インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした④授業を欠席した\*⑤授業に遅刻した\*⑥異文化の人々に関する知識⑦初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）⑧実験室の設備や器具である。（\*は「あまりなかった」+「まったくなかった」の合計を集計）

それ以外に、2年とも◎あるいは○の質問項目は、①学生自身が文献や資料を調べる②教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する③取りたい授業を履修登録できなかつた④出席することが重視される⑤授業課題のために図書館の資料を利用した⑥授業課題のためにWeb上の情報を利用した⑦文章表現の能力⑧プレゼンテーションの能力⑨数理的な能力⑩コンピュータの操作能力⑪グローバルな問題の理解⑫大学での経験全般について⑬図書館の設備（蔵書やレンタルサービス）⑭健康保健サービス（心身の健康に関する問題についての診療や相談）である。

また、2年とも▽の質問項目は、①仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ②専門分野や学科の知識③他の人と協力して物事を遂行する能力④時間を効果的に使う⑤日常生活と授業内容との関連⑥将来の仕事と授業内容の結びつき⑦キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）である。

この結果から、北大の（コモン）コアカリキュラム、単位の実質化の取組が成果を上げている一方、キャリア関連の教育プログラムの充実が望まれることがわかる。

## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

図 4

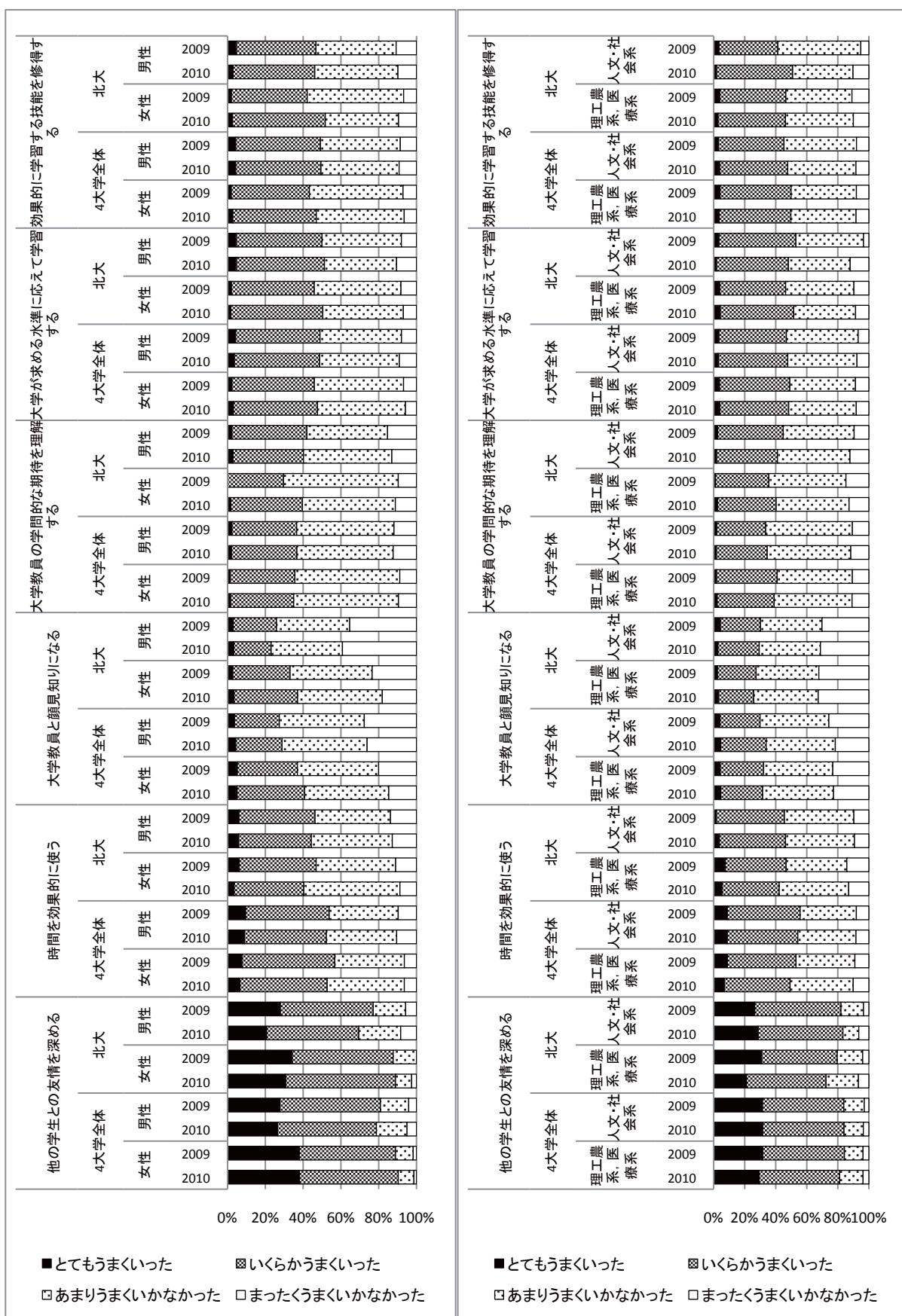


図 4.1. 大学生活への適応感（左図：男女別、右図：専攻分野別）

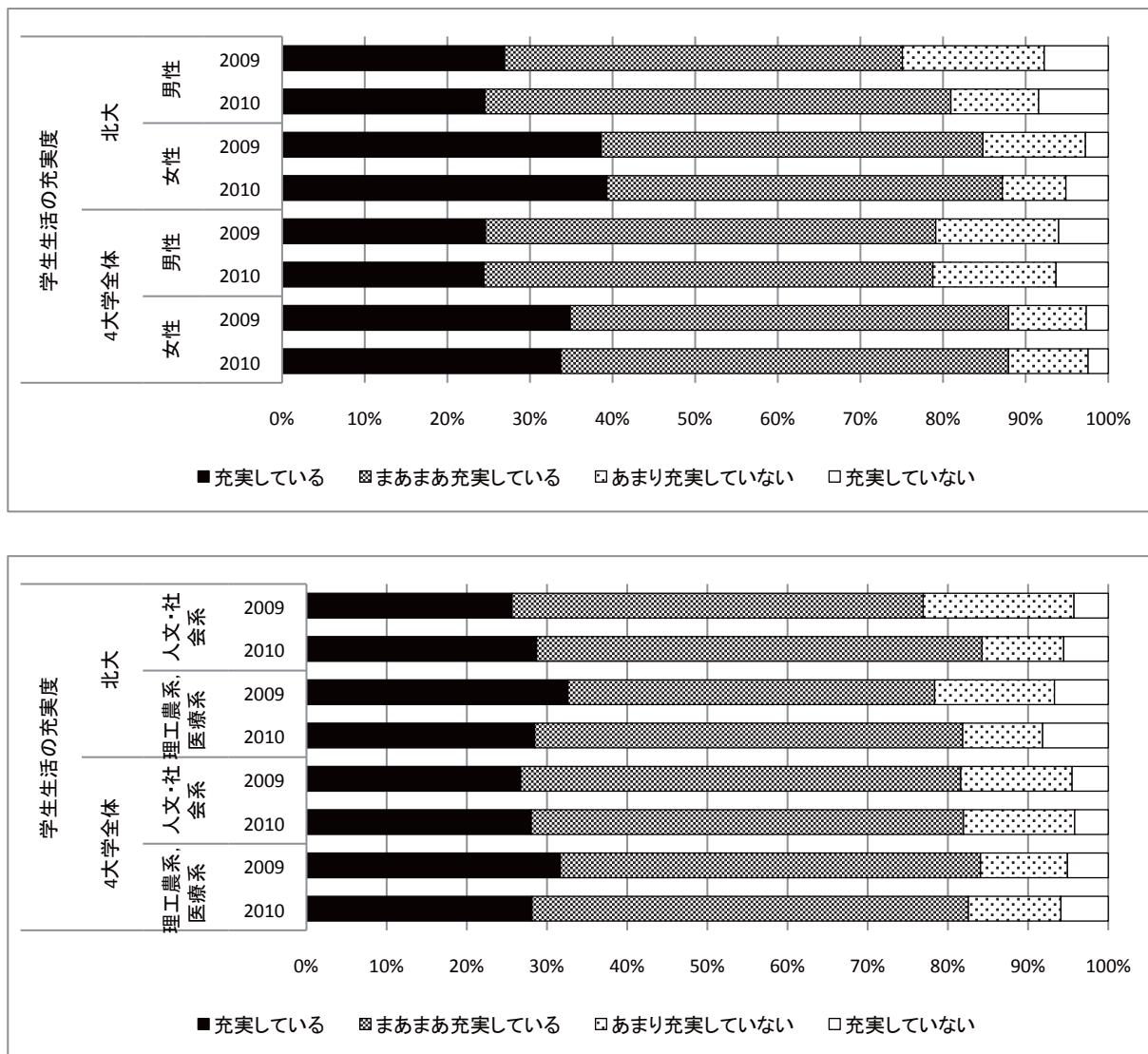


図 4.2. 大学生生活の充実感（上図：男女別，下図：専攻分野別）

## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

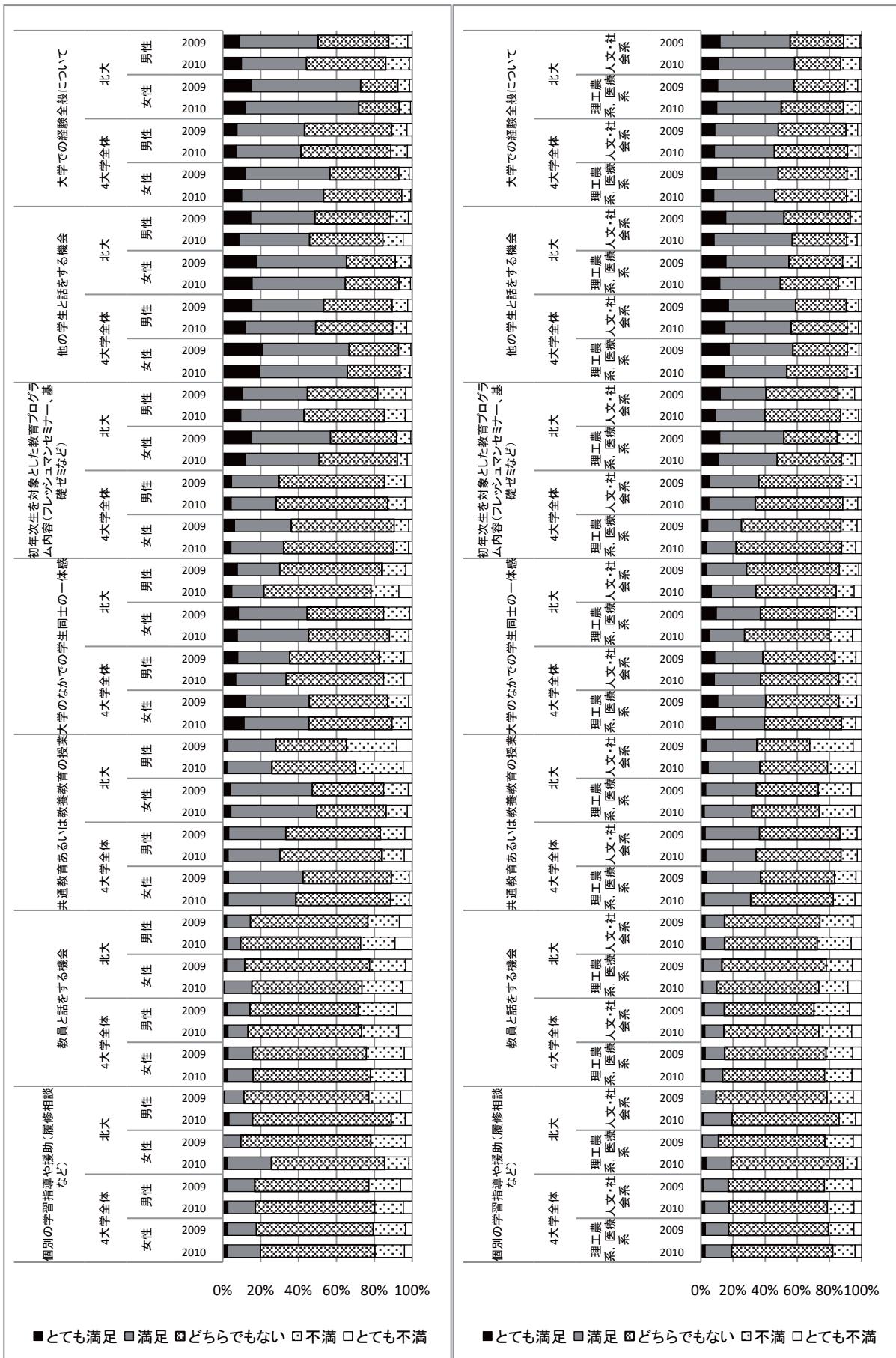


図 4.3. 大学教育に対する満足感（左図：男女別，右図：専攻分野別）

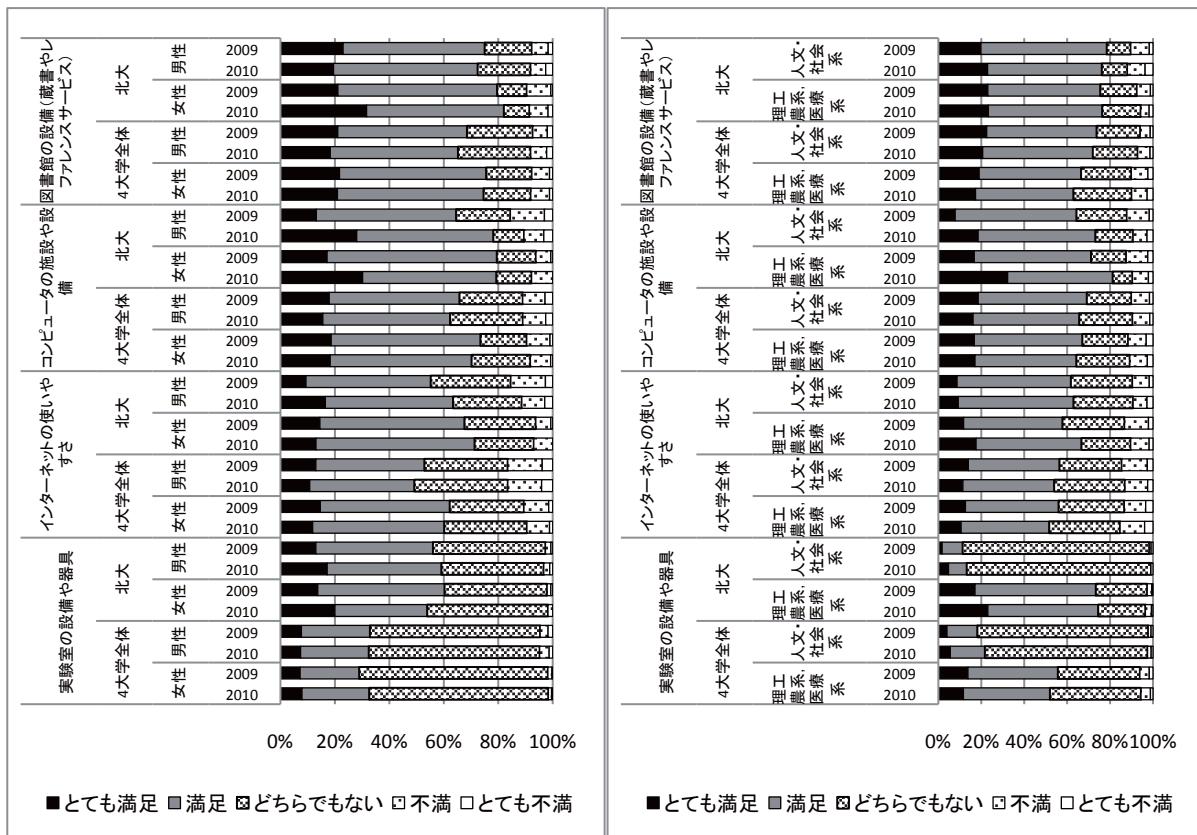


図 4.4. 大学の設備・支援に対する満足度（左図：男女別、右図：専攻分野別）

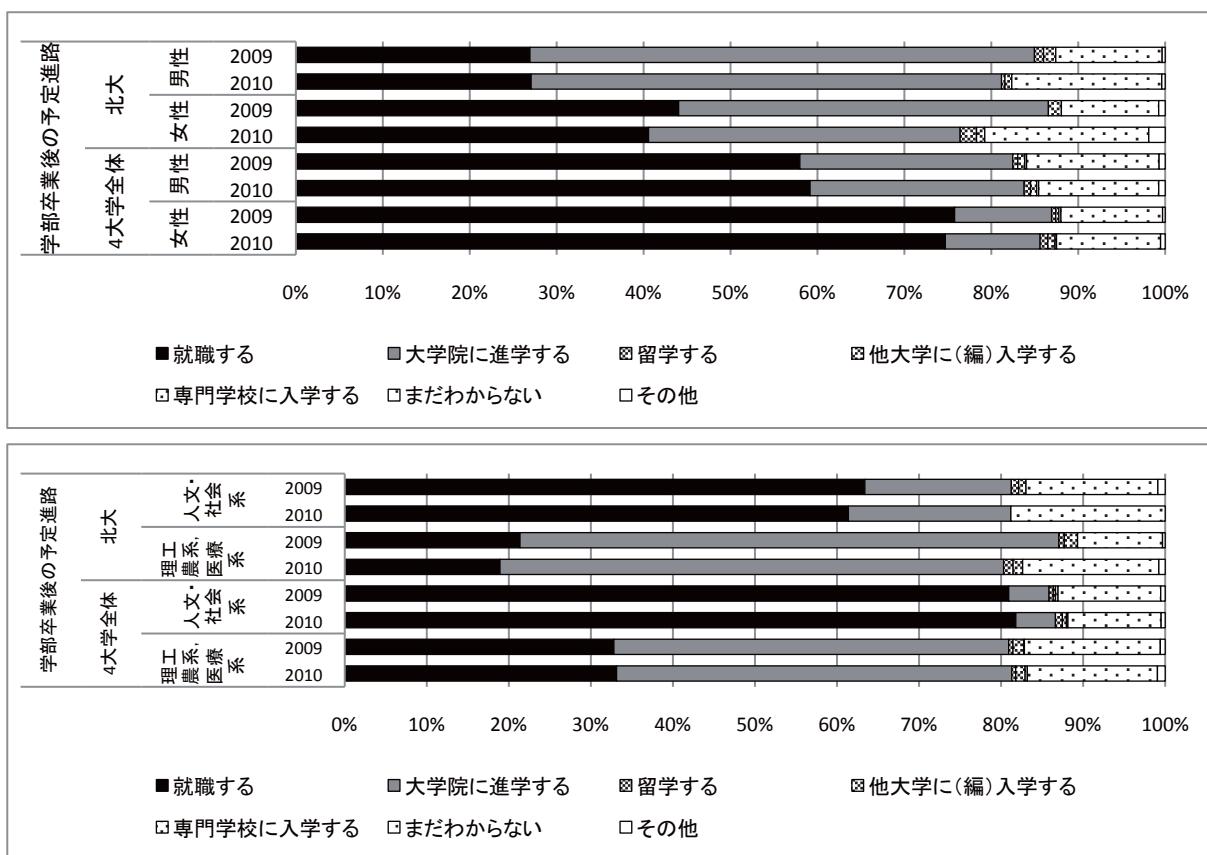


図 4.5. 学部卒業後の予定進路（上図：男女別、下図：専攻分野別）

## 5. まとめ

本報告書では、戦略的大学連携事業による 2 回目の学生調査「一年生調査 2010 年」のデータを、2009 年調査との比較を重視して分析した。

大まかにみると、2009 年と 2010 年の調査結果に大きな変化はみられない。以下、2009 年と 2010 年の調査結果の比較を中心に、分析結果の特徴をまとめる。

### 全学教育・初年次教育の充実

北大の特徴としてまず挙げられるのは「全学教育・初年次教育の充実」である。過去 10 年以上の本学の教育改善の取組が学生の満足感に反映されているといえる。具体的には、以下の特徴が確認できる。ただし、分野別、性別によって状況が異なる場合もある。

- ① [7] 「実験、実習、フィールドワーク等を実施し、学生が体験的に学ぶ」「TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける」「インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」ことが多い。
- ② [18] 「初年次生を対象とした教育プログラム内容」への満足度が高い。
- ③ [19] 「図書館の設備」「コンピュータの施設や設備」[8] 「インターネットの使いやすさ」「実験室の設備や器具」について満足度が高い。
- ④ [10] 「一般的な教養」（人文・社会系）、「専門分野や学科の知識」（理工農系・医療系）、「コンピュータの操作能力」（両方）が増えた。
- ⑤ [10] 「異文化の人々に関する知識」「グローバルな問題の理解」が増えている（女性）。
- ⑥ [18] 「共通教育あるいは教養教育の授業」への満足度が高い（女性）。

### 単位の実質化と自習促進

また、単位の実質化と自習促進の取組が浸透していることもうかがえる。

- ① [8] 図書館の資料や Web 上の情報の利用が多い。
- ② [8] 「授業を欠席した」「授業に遅刻した」ことが少ない。
- ③ [9] 「授業や実験に出る」「授業時間以外に勉強や宿題する」「読書をする」時間が長い。
- ④ [7] 「取りたい授業を履修登録できなかった」という回答が増えている。

北海道大学では 1995 年の教養部廃止のあと、①2001 年度の教養科目における（コモン）コアカリキュラム導入にはじまり、②2006 年度からの「学生の学力の多様化」に対応した基礎科目、外国語科目のカリキュラム改革および、厳格な成績評価・GPA 制度・CAP 制による単位の実質化と自習促進の取組をへて、③2011 年度の総合入試導入にいたる、一連の教育システム改革を進めるとともに、「データに基づいた教育改革」を標榜し、データによる検証活動に力を注いできた。その結果、次のような成果が得られた。

- ① 全学教育科目の履修者総数が 22%減少した ((2005) 94,953⇒(2010) 74,169 人) (付録 4 表 1)。
- ② 1 クラスの平均履修者数が 12%減少した ((2005) 52.5⇒(2010) 46.4 人)。
- ③ 開講科目数が 12%減少した ((2005) 1,809⇒(2010) 1,599 科目)。
- ④ 非常勤講師担当コマ数が 44%減少した ((2004) 710⇒(2010) 401 コマ) (付録 4 図 1)。
- ⑤ 学生の自習時間が 30%以上増加した (授業評価アンケートによれば 90 分の授業 1 回あたり (2006-1) 0.93⇒(2010-1) 1.22 時間と 31%増, 学生生活実態調査によれば 1 日あたり (2005) 1.48 ⇒(2009) 1.99 時間と 34%増) (付録 4 図 3)。
- ⑥ GPA が大幅に上昇した (全学教育科目 1 学期では (2005) 2.23⇒(2010) 2.39, 2 学期では (2005) 2.20⇒(2010) 2.36) (付録 4 図 4)。
- ⑦ TOEFL-ITP の受験者平均点は, (2005) 460.8 点⇒(2009) 470.1 点と着実に上昇し, 昨 2010 年は試験当日の冷房装置の故障の影響と思われる落ち込みで 465.2 点に後退したが, 2011 年は 477.4 点と再び大きく伸びた (付録 4 図 2)。
- ⑧ 授業評価アンケートにおける学生の満足度 (総合評価) が着実に向上した (全学教育科目 (1999-1) 3.41⇒(2009-2~2010-1) 3.88) (付録 4 図 5)。
- ⑨ 初年次生が利用する附属図書館北図書館の入館者数は, 2000 年度から大幅に増えはじめ, 2003 年度以降は改修工事期間を除いて本館の入館者数を上回っている。図書の貸出冊数も, 北図書館では 2008 年度から急増し, 2009 年度以降は本館とほぼ同数になっている (付録 4 図 6-1)。

これらの根拠データから, この 10 年以上の北海道大学の教育改善の努力は顕著な成果を上げ, 学生からも一定の評価を得ているといえる。

### 北大の女性の充実感・満足感が高い

さらに, 2009 年からみえた傾向であるが, 男性よりも女性の方が大学生活に適応し, 学業でも, そのほかの活動でも充実していること, 特に北大の女性の充実感・満足感の高いことが目立つ。

- ① [9]自習時間や, 大学外でアルバイトや仕事をする時間は北大, 4 大学全体とも女性の方が長い。
- ② [16]「他の学生との友情を深める」など, 人間関係に関する満足感, 学生生活全般の充実感, 大学の教育内容に対する満足感は, 北大, 4 大学全体とも女性の方が高い。
- ③ [10]「異文化の人々に関する知識」「グローバルな問題の理解」など, 国際関係に関する知識が増えたという回答が, 北大の女性では 2009 年より増えている。
- ④ [16]「大学教員の学問的な期待を理解する」「効果的に学習する技能を修得する」「大学が求める水準に応えて学習する」「大学教員と顔見知りになる」など, 主に学習効果に関して肯定的な回答が, 北大の女性では 2009 年より増えている。
- ⑤ [18]個別の学習指導や援助に対する満足感が, 北大の女性では 2009 年より上昇している。

以上のうち, ②友人関係については特に男女差が大きい。男子学生の友人関係の満足感, 充実感が低いことは注視していく必要がある。

友人関係については、全般的な満足感、充実感を測るよりも、何らかの悩みを抱える学生に対する個別の相談・支援体制を整備する必要がある。

本学では一時メンタルケアの問題が深刻化したこともある、**①保健センター**、学生相談室等の専門家（医師、カウンセラー）による支援**②**クラス担任、アカデミック・サポートセンター等の教職員による支援**③**4 月に上級生が新入生向けに行うピアサポート履修相談会 MANAVI、ピア・サポート室等の学生同士による支援などを組み合わせた重層的な支援体制を充実させてきた。

一方では、単位の実質化、総合入試の導入などの取組が学生にとって過大なストレスとなることを危惧する声もある。

本調査ではほかにも、[9]部活動や同好会など課外活動に費やす時間が短い、[8]授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容に話したりする時間が減ったなど、やや気になる傾向もみられる。今後も調査結果に注意を払い、適切な支援策を講じる必要がある。

③国際関係に関する知識は 2010 年に新たにみえた特徴である。アカデミック・サポートセンター(ASC)の進路相談でも、将来海外で働きたいと話す女子学生が目立つ。今後、実際にどれだけの人材が海外で活躍しているのかを調べることも、大学の教育効果を測る指標として重要であろう。

[11]英語の運用能力は 2009 年と大きな変化はなく、会話力や聞く力の評価が低いのが特徴である。これには高校までの英語教育や、入学試験の出題傾向などの問題も影響しているかもしれない。

2010 年から[14]渡航経験等について新たな問い合わせを設けた。英語圏への渡航経験のある学生は、北大では 30% である。英語圏に限らずに海外渡航経験を問えば、その経験割合はさらに高くなると考えられる。海外渡航時には、どこでも世界共通言語として英語を使う機会が多いであろう。

調査から、英語圏への渡航経験のある学生の方が運用能力が高いと評価できる能力は、わずかな差ではあるが、実際のコミュニケーションに重要な、①聞く力②表現力③書く力である。より詳細にこの関係性を知るには、渡航時期や目的の詳細も調べる必要があるだろう。

### 総合入試制度の導入

北大では 2011 年度から総合入試制度を導入したのにともない、学生の学習状況が大きく変化した。

- ① 2011 年度 1 年次 1 学期の GPA は 2010 年度の  $2.39 \Rightarrow 2.45$  に上昇し、総合・理系の平均 2.54 は全学平均をさらに大きく上回っている（付録 4 図 4）。
- ② TOEFL-ITP の受験者平均点は、2011 年には大きく伸びて 477.4 点となった（付録 4 図 2）。
- ③ 2011 年度上半期の附属図書館北図書館の入館者数は、全体で前年度比 2.4% 増、初年次生は 10.1% 増、図書貸出冊数は全体で 8.8% 増、初年次生は 19.6% 増であった（付録 4 図 6-2）。

来年度は総合入試入学者を対象に同様の調査を行うが、2010 年調査からすでにみえている、総合入試導入後に注目すべき点をいくつか挙げる。

- ① [7] 「取りたい授業が履修登録できなかった」という回答が増えている。初年次の授業内容により進路を再考する学生もいるので、履修登録単位数の上限設定などの制度の趣旨の周知徹底を図りつつ、総合入試入学者の授業への満足感の動向に注目して適切な改善策を検討する必要がある。
- ② [8] 「授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容に話したりした」という回答が減

少している。しかし、2011年度には休み時間などに学生同士で勉強する姿をよく見かける。総合入試入学者については、学習態度の改善が期待できる。

- ③ [8] 学生と教職員の関係は希薄だが、総合入試導入以降は、クラス担任制度の強化やASCの設置など学修支援体制を充実させた効果が期待できる。
- ④ [9] 自習時間は、設置基準や国際比較に照らせば明らかに短いが、90分の授業1回あたりでも、1日あたりでも、北大生の自習時間の統計は最近5年間で30%以上伸びている。総合入試入学者については、自習時間がさらに改善することが期待される。
- ⑤ [18] 「個別の学習指導や援助（履修相談など）」に対する満足感が上昇したのは、2010年からASCの個別学習指導（学習サポート）がはじまった効果とも考えられる。

学生の意識の変化などについて、わずか2年間の、初年次生のみを対象にした調査でも、教育効果の検証にとって重要なさまざまなデータが得られた。2009年比較分析報告書（参考文献2）でも述べたが、継続的な調査が重要である。また、2年次、3年次、卒業時、さらに大学院生に対する調査も行えば、さらに有用な情報が得られるであろう。継続的な調査と分析の体制を整え、本調査が教育改善に活かされることを期待したい。

### おわりに

北海道大学では、学生による学習成果の自己評価の調査も、国公私立大学のデータの相互比較もはじめの試みであった。これまで本学の教育評価においては、授業評価アンケートやGPA、自習時間などのデータに利用してきたが、今回それらとは別の視点から、本学の教育の特徴を、よい点も、足りない点も含めて、より客観的にみることができたことは大きな収穫といえる。

本学では、今期（平成22~27年度）中期目標・中期計画に「教育効果を検証しつつ、単位制度の実質化を推進する」と記して、多様なデータに基づいた教育改善を進めることとしている。種々の教務データとならんで、本調査も教育効果を検証する重要なデータとなるものと期待している。

もとより、国公私立大学の間には財政基盤、人的・物的資源、文化、伝統に大きな差異があり、また大学の立地（関西圏と北海道）、生活環境（家族同居か単身か、通学時間など）、学生の構成（文系中心か理系中心か）の違いも大きい。相互評価、比較分析にあたっては、これらの要素の影響を慎重に考慮しなければならない。

インディアナ大学で運営している全米学生調査NSSE（National Survey of Student Engagement）においては、全米700以上の大学から集められた調査結果は、米国で標準的なカーネギー財団の大学分類に準拠して分割した集計を添えて提供され、自校のデータを自校と同じ類型の大学グループのデータと比較できる。これは大学教育の成果についての、ある種のベンチマークングということができる。IRネットワークが日本でも拡がり、そのような比較が可能になることを願っている。

【付録 1】アンケートの設問（一年生調査 2010 年）

I. 最初にあなたのご自身のことについておうかがいします。

[1] あなたの学籍番号（学生 ID）を教えてください。左詰めでご記入ください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ みなさんが 3 年生、4 年生になられた時点でも同様の調査を実施し、大学 1 年生のときに感じられたことがどのように変化したのかを探ることを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を任意でお願いしています。個人を特定できる情報（学籍番号）が学外に出ることはありません。記入したくない人は空白にしてください。

[2] あなたが本学で専攻する専門分野（所属する学科）はどれですか。

1. 人文科学（文学、哲学、宗教学、歴史学、外国語学、心理学など）
2. 法学・政治学（法律学、政策科学、行政学など）
3. 経済学・経営学・商学・会計学
4. 上記以外の社会科学（人類学、民俗学、地理学、社会学、社会福祉学など）
5. 理学（数学、物理学、天文学、地球科学、化学、生物学、フロンティアサイエンスなど）
6. 工学（土木工学、機械工学、化学工学、電気工学、航空宇宙学、情報学など）
7. 農学（農芸化学、農業経済、応用植物学、獣医学、畜産学、生命情報学、緑地学など）
8. 保健（医学、歯学、薬学、看護学、リハビリテーション学など）
9. 家政学（家政学、生活科学、栄養学など）
10. 教育学（教員養成課程、スポーツ健康科学、幼児保育学など）
11. 芸術（美術、造形、音楽、デザインなど）
12. 文理融合（文化情報学、社会情報学、環境デザイン学、社会生活環境学など）
13. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

[3] あなたの性別をお答えください。

1. 男性                            2. 女性

[4] 2010 年 4 月 1 日の時点で、あなたは何歳でしたか。数字でお答えください。

--

歳

[5] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 30 分未満             | 2. 30 分以上－1 時間未満      |
| 3. 1 時間以上－1 時間 30 分未満 | 4. 1 時間 30 分以上－2 時間未満 |
| 5. 2 時間以上             |                       |

[6] あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

- |                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 1. 家族または親戚と暮らしている | 2. アパート・学生マンションでひとり暮らし |
| 3. 大学寮や合宿所        |                        |

II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

[7] あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

		ひんぱん にあった	ときどき あった	あまり なかった	まったく なかった
A.	実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
B.	仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
C.	授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
D.	授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1

【付録1】アンケートの設問

E.	学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
F.	定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1
G.	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
H.	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
I.	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
J.	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
K.	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
L.	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
M.	出席することが重視される	4	3	2	1
N.	TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける	4	3	2	1

[8] 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

		ひんぱん にあった	ときどき あった	あまり なかつた	まったく なかつた
A.	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
B.	授業課題のためにWeb上の情報を利用した	4	3	2	1
C.	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
D.	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
E.	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした	4	3	2	1
F.	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
G.	授業を欠席した	4	3	2	1
H.	授業に遅刻した	4	3	2	1
I.	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
J.	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
K.	教員の研究プロジェクトに参加した	4	3	2	1
L.	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
M.	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
N.	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

[9] 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

		全然 ない	1 時間 未 満	1 — 2 時間	3 — 5 時間	6 — 10 時間	11 — 15 時間	16 — 20 時間	20 時間 以 上
A.	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
B.	授業時間以外に勉強や宿題する	1	2	3	4	5	6	7	8
C.	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
D.	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
E.	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
F.	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
G.	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

[10] 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

		大きく 増えた	増えた	変化 なし	減った	大きく 減った

「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

A.	一般的な教養	5	4	3	2	1
B.	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
C.	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
D.	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
E.	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
F.	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
G.	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
H.	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1
I.	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
J.	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
K.	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
L.	文章表現の能力	5	4	3	2	1
M.	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
N.	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
O.	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
P.	数理的な能力	5	4	3	2	1
Q.	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
R.	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
S.	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
T.	卒業後に就職するための準備の程度	5	4	3	2	1

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

[11] あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の 5 つの観点から自己評価した場合に、到達していると思うレベルを、①入学時と②現在それぞれについて 1 つずつ答えてください。

A. 聞く力

①入学時      ②現在

- |    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| A1 | はっきりと、ゆっくり話してもらえば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。 | 1 | 1 |
| A2 | 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。               | 2 | 2 |
| B1 | 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。  | 3 | 3 |
| B2 | テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。         | 4 | 4 |
| C1 | 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。                  | 5 | 5 |
| C2 | 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。   | 6 | 6 |

B. 読む力

①入学時      ②現在

- |    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| A1 | 掲示やポスター、カタログなどの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。  | 1 | 1 |
| A2 | ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。              | 2 | 2 |
| B1 | 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。 | 3 | 3 |
| B2 | 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。           | 4 | 4 |
| C1 | 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。         | 5 | 5 |
| C2 | 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。     | 6 | 6 |

【付録1】アンケートの設問

C. 会話力

	①入学時	②現在
A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1	1
A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	2 3	2 3
A2.1 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができること。	8	8

D. 表現力

	①入学時	②現在
A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1	1
A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	3	3
B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
C2 論理的な会話で聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6	6

E. 書く力

	①入学時	②現在
A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1	1
A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3
B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4	4
C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5	5
C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6	6

[12] あなたは英語が好きですか。

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 好き         | 2. どちらかといえば好き | 3. 好きでも嫌いでもない |
| 4. どちらかといえば嫌い | 5. 嫌い         |               |

[13] あなたは英語が得意ですか。

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. とても得意      | 2. どちらかといえば得意 | 3. 得意でも苦手でもない |
| 4. どちらかといえば苦手 | 5. とても苦手      |               |

## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

[14] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなど英語圏への渡航経験についておうかがいします。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 英語圏に行ったことはない
2. 英語圏に旅行したことがある
3. 英語圏で 1 ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある
4. 英語圏で 1 ヶ月以上 6 カ月未満のホームステイ・留学をしたことがある
5. 英語圏で 6 カ月以上 1 年未満のホームステイ・留学をしたことがある
6. 英語圏で 1 年以上のホームステイ・留学をしたことがある
7. 英語圏に住んでいたことがある

[15] あなたが、今までに受験したことのある英語の検定試験についておうかがいします。あてはまるものをすべて選び、それぞれの試験について最後に取得したスコアまたは級を教えてください。

あてはまるものすべてに○		最後に取得したスコア／級
1.	今までに英語の検定試験を受けたことはない	
2.	実用英語技能検定（英検）	級
3.	TOEIC テスト	点
4.	TOEIC スピーキング／ライティングテスト	合計 点
5.	TOEIC Bridge テスト	点
6.	ペーパー版 TOEFL (TOEFL PBT)	点
7.	インターネット版 TOEFL (TOEFL iBT)	点
8.	その他（具体的に）	点／級

### IV. 次に、大学生活に対するあなたの考え方や満足度についておうかがいします。

[16] 本学に入学してから、あなたは次のことがらについてどれくらいうまくいきましたか。

		とても うまく いった	いくらく かうまく いった	あまり うまくいか なかつた	まったく うまくいか なかつた
A.	大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
B.	大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
C.	効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
D.	大学が求める水準に応えて学習する	4	3	2	1
E.	時間を効果的に使う	4	3	2	1
F.	大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
G.	他の学生との友情を深める	4	3	2	1

[17] あなたの学生生活は充実していますか。

1. 充実している
2. まあまあ充実している
3. あまり充実していない
4. 充実していない

【付録1】アンケートの設問

[18] あなたは、本学の教育内容にどれくらい満足していますか。

		とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
A.	共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
B.	初年次生を対象とした教育プログラム内容 (フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)	5	4	3	2	1
C.	授業の全体的な質	5	4	3	2	1
D.	日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
E.	将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
F.	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
G.	個別の学習指導や援助 (履修相談など)	5	4	3	2	1
H.	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
I.	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
J.	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
K.	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
L.	1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[19] あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

		とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
A.	図書館の設備 (蔵書やレファレンスサービス)	5	4	3	2	1
B.	実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
C.	コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
D.	コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
E.	インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
F.	奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
G.	健康保健サービス (心身の健康に関する問題についての診療や相談)	5	4	3	2	1
H.	レクリエーション施設 (ジムの設備など)	5	4	3	2	1
I.	キャリアカウンセリング (就職や進学に関する相談)	5	4	3	2	1

[20] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。

- 1. 就職する
- 2. 大学院に進学する
- 3. 留学する
- 4. 他大学に(編)入学する
- 5. 専門学校に入学する
- 6. まだわからない )
- 7. その他 (具体的に

**IV. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。**

[21] あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

- 1. 現役
- 2. 浪人
- 3. その他 (留学生、社会人など)

[22] どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

- 1. 一般入試 (国公立大学の前・中・後期日程、及び、私立大学の一般入試を含む)
- 2. 一般入試と大学入試センター試験の併用型入試 (ただし、私立大学のみを含む)
- 3. 大学入試センター試験 (単独) 利用型入試 (ただし、私立大学のみを含む)
- 4. 内部進学 (学内付属校からの進学)
- 5. 指定校推薦
- 6. スポーツや課外活動の推薦
- 7. 公募推薦
- 8. AO選考
- 9. 留学生入試

## 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

10. 社会人入試
11. 編入学
12. その他の試験（帰国子女入試など）

[23] あなたの志望大学の中で、本学は第 1 志望でしたか。

1. 第 1 志望だった
2. 第 1 志望ではなかった

[24] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方
2. 中の上くらい
3. 中くらい
4. 中の下くらい
5. 下位の方
6. その他（わからない、覚えていない、など）

[25] あなたが高校 3 年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

		ひんぱん にした	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった
A.	授業中、質問した	4	3	2	1
B.	自分の意見を論理的に主張した	4	3	2	1
C.	問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した	4	3	2	1
D.	自発的に作文の練習をした	4	3	2	1
E.	インターネット上の情報が事実かどうか確認した	4	3	2	1
F.	困難なことにあえて挑戦した	4	3	2	1
G.	問題に対処するために新しい解決策を求めた	4	3	2	1
H.	科学的研究の記事や論文を読んだ	4	3	2	1
I.	授業以外に興味のあることを自分で勉強した	4	3	2	1
J.	自分の失敗から学んだ	4	3	2	1
K.	自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

【付録2】北大と4大学全体に分けた各設問への回答集計表

【付録2】北大と4大学全体に分けた回答集計表

[問1]大学		北大		4大学全体			
		2009	2010	2009	2010	度数	%
北海道大学		454	100.0	403	100.0		
4大学全体				4,723	100.0	4,690	100.0
[問2]所属学科							
人文科学	27	6.0	33	8.3	492	10.6	647
法学・政治学	46	10.2	28	7.1	519	11.1	508
経済学・経営学	35	7.7	36	9.1	1,608	34.5	1,501
上記以外の社会科学					263	5.6	200
理学	77	17.0	41	10.3	432	9.3	383
工学	91	20.1	113	28.5	664	14.2	755
農学	59	13.0	50	12.6	213	4.6	211
保健	66	14.6	49	12.3	230	4.9	182
家政学					14	0.3	16
教育学	9	2.0	14	3.5	132	2.8	124
文理融合							73
その他					52	1.1	7
水産学	43	9.5	33	8.3	43	0.9	33
合計	453	100.0	397	100.0	4,662	100.0	4,640
							100.0
[問3]性別							
男性	302	67.1	279	70.1	2,950	62.9	2,861
女性	148	32.9	119	29.9	1,740	37.1	1,780
合計	450	100.0	398	100.0	4,690	100.0	4,641
							100.0
[問4]年齢							
18歳以下	297	66.0	258	67.5	3,384	72.3	3,248
19歳	129	28.7	106	27.7	1,069	22.8	1,154
20歳	14	3.1	9	2.4	157	3.4	152
21歳以上	10	2.2	9	2.4	73	1.6	59
合計	450	100.0	382	100.0	4,683	100.0	4,613
							100.0
[問5]片道の通学時間							
30分未満	288	63.9	260	65.3	1,497	31.9	1,503
30分以上ー1時間未満	120	26.6	95	23.9	984	21.0	952
1時間以上ー 1時間30分未満	38	8.4	39	9.8	1,247	26.6	1,263
1時間30分以上ー 2時間未満	4	0.9	2	0.5	744	15.8	741
2時間以上	1	0.2	2	0.5	223	4.7	206
合計	451	100.0	398	100.0	4,695	100.0	4,665
							100.0
[問6]居住形態							
家族または親戚と暮らしている	191	42.6	154	38.5	3,331	71.0	3,288
アパート・学生マンションでひとり暮らし	212	47.3	193	48.3	1,281	27.3	1,280
大学寮や合宿所	45	10.0	53	13.3	78	1.7	81
合計	448	100.0	400	100.0	4,690	100.0	4,649
							100.0
[問7A]授業経験: 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ							
まったくなかった	65	14.8	59	15.0	1,451	31.0	1,467
あまりなかった	102	23.2	104	26.4	1,477	31.6	1,458
ときどきあった	232	52.8	203	51.5	1,309	28.0	1,319
ひんぱんにあった	40	9.1	28	7.1	441	9.4	431
合計	439	100.0	394	100.0	4,678	100.0	4,675
							100.0
[問7B]授業経験: 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ							
まったくなかった	68	15.3	71	17.8	545	11.6	660
あまりなかった	207	46.5	184	46.0	1,843	39.3	1,873
ときどきあった	142	31.9	129	32.3	1,861	39.7	1,778
ひんぱんにあった	28	6.3	16	4.0	436	9.3	352
合計	445	100.0	400	100.0	4,685	100.0	4,663
							100.0
[問7C]授業経験: 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する							
まったくなかった	33	7.4	35	8.8	403	8.6	442
あまりなかった	177	39.5	151	37.9	1,713	36.6	1,651
ときどきあった	204	45.5	177	44.5	2,060	44.0	2,135
ひんぱんにあった	34	7.6	35	8.8	502	10.7	438
合計	448	100.0	398	100.0	4,678	100.0	4,666
							100.0
[問7D]授業経験: 授業の一環でボランティア活動をする							
まったくなかった	407	90.4	365	91.7	3,782	81.1	3,844
あまりなかった	38	8.4	32	8.0	649	13.9	618
ときどきあった	5	1.1			201	4.3	160
ひんぱんにあった			1	0.3	31	0.7	40
合計	450	100.0	398	100.0	4,663	100.0	4,662
							100.0
[問7E]授業経験: 学生自身が文献や資料調べる							
まったくなかった	13	2.9	5	1.3	297	6.4	240
あまりなかった	58	13.0	55	13.9	1,014	21.8	923
ときどきあった	202	45.4	172	43.5	2,318	49.7	2,340
ひんぱんにあった	172	38.7	163	41.3	1,032	22.1	1,160
合計	445	100.0	395	100.0	4,661	100.0	4,663
							100.0

[問7F]授業経験: 定期的に小テストやレポートが課される

まったくなかった	3	0.7		20	0.4	17	0.4
あまりなかった	8	1.8	10	2.5	219	4.7	241
ときどきあった	131	29.1	113	28.1	2,032	43.4	2,039
ひんぱんにあった	308	68.4	279	69.4	2,411	51.5	2,380
合計	450	100.0	402	100.0	4,682	100.0	4,677
							100.0

[問7G]授業経験: 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

まったくなかった	43	9.7	32	8.2	834	17.8	881	18.9
あまりなかった	161	36.3	144	36.9	1,658	35.5	1,594	34.2
ときどきあった	205	46.2	181	46.4	1,711	36.6	1,718	36.8
ひんぱんにあった	35	7.9	33	8.5	474	10.1	474	10.2
合計	444	100.0	390	100.0	4,677	100.0	4,667	100.0

[問7H]授業経験: 学生が自分の考えや研究を発表する

まったくなかった	51	11.5	36	9.0	581	12.4	
あまりなかった	173	39.0	136	34.0	1,755	37.5	1,683
ときどきあった	192	43.2	212	53.0	1,969	42.1	1,981
ひんぱんにあった	28	6.3	16	4.0	376	8.0	429
合計	444	100.0	400	100.0	4,681	100.0	4,674

[問7I]授業経験: 授業中に学生同士が議論をする

まったくなかった	68	15.2	69	17.3	934	19.9	938	20.1
あまりなかった	170	37.9	156	39.2	1,682	35.9	1,607	34.4
ときどきあった	188	42.0	154	38.7	1,661	35.5	1,693	36.2
ひんぱんにあった	22	4.9	19	4.8	405	8.7	436	9.3
合計	448	100.0	398	100.0	4,682	100.0	4,674	100.0

[問7J]授業経験: 授業で検討するテーマを学生が設定する

まったくなかった	162	36.2	129	32.5	1,880	40.2	1,858	39.8
あまりなかった	171	38.2	162	40.8	1,679	35.9	1,674	35.9
ときどきあった	107	23.9	98	24.7	930	19.9	954	20.4
ひんぱんにあった	8	1.8	8	2.0	189	4.0	180	3.9
合計	448	100.0	397	100.0	4,678	100.0	4,666	100.0

[問7K]授業経験: 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

まったくなかった	115	25.6	105	26.5	1,382	29.5	1,322	28.3
あまりなかった	195	43.3	185	46.7	1,953	41.7	1,997	42.7
ときどきあった	129	28.7	95	24.0	1,183	25.3	1,204	25.8
ひんぱんにあった	11	2.4	11	2.8	165	3.5	149	3.2
合計	450	100.0	396	100.0	4,683	100.0	4,672	100.0

[問7L]授業経験: 取りたい授業を履修登録できなかった

まったくなかった	125	28.2	105	26.2	1,795	38.5	1,701	36.4
あまりなかった	122	27.5	87	21.7	1,190	25.5	1,198	25.7
ときどきあった	154	34.7	162	40.4	1,307	28.0	1,378	29.5
ひんぱんにあった	43	9.7	47	11.7	369	7.9	392	8.4
合計	444	100.0	401	100				

# 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

北大			4大学全体						
2009		2010	2009		2010				
度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		
[問8D]学習態度:授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした									
まったくなかった	32	7.2	35	8.8	277	5.9	216	4.6	
あまりしなかった	86	19.4	88	22.0	879	18.8	843	18.0	
ときどきした	191	43.1	181	45.3	2,359	50.5	2,391	51.1	
ひんぱんにした	134	30.2	96	24.0	1,152	24.7	1,225	26.2	
合計	443	100.0	400	100.0	4,667	100.0	4,675	100.0	
[問8F]学習態度:授業中 教員の考え方や意見に異議を唱えた									
まったくなかった	297	66.4	270	67.7	2,886	61.8	2,831	60.7	
あまりしなかった	133	29.8	104	26.1	1,396	29.9	1,390	29.8	
ときどきした	16	3.6	20	5.0	323	6.9	372	8.0	
ひんぱんにした	1	0.2	5	1.3	66	1.4	68	1.5	
合計	447	100.0	399	100.0	4,671	100.0	4,661	100.0	
[問8G]学習態度:授業を欠席した									
まったくなかった	106	23.6	99	25.0	679	14.5	688	14.7	
あまりしなかった	216	48.1	189	47.7	1,825	39.0	1,697	36.3	
ときどきした	112	24.9	89	22.5	1,735	37.1	1,833	39.2	
ひんぱんにした	15	3.3	19	4.8	422	9.4	453	9.7	
合計	449	100.0	396	100.0	4,681	100.0	4,671	100.0	
[問8H]学習態度:授業に遅刻した									
まったくなかった	139	31.0	138	34.6	1,126	24.1	1,063	22.7	
あまりしなかった	191	42.5	153	38.3	1,647	35.2	1,642	35.1	
ときどきした	92	20.5	84	21.1	1,436	30.7	1,489	31.9	
ひんぱんにした	27	6.0	24	6.0	470	10.0	479	10.3	
合計	449	100.0	399	100.0	4,679	100.0	4,673	100.0	
[問8I]学習態度:授業をつまらなく感じた									
まったくなかった	10	2.2	6	1.5	81	1.7	51	1.1	
あまりしなかった	83	18.5	59	14.9	610	13.0	558	11.9	
ときどきした	247	55.0	238	59.9	2,636	56.4	2,614	55.9	
ひんぱんにした	109	24.3	94	23.7	1,349	28.8	1,450	31.0	
合計	449	100.0	397	100.0	4,676	100.0	4,673	100.0	
[問8J]学習態度:授業中に居眠りをした									
まったくなかった	42	9.4	29	7.3	283	6.1	235	5.0	
あまりしなかった	97	21.7	65	16.4	778	18.6	791	16.9	
ときどきした	213	47.7	198	49.9	2,439	52.2	2,335	50.0	
ひんぱんにした	95	21.3	105	26.4	1,176	25.1	1,312	28.1	
合計	447	100.0	397	100.0	4,676	100.0	4,673	100.0	
[問8K]学習態度:教員の研究プロジェクトに参加した									
まったくなかった	363	80.7	344	86.9	3,787	81.1	3,801	81.4	
あまりしなかった	78	17.3	41	10.4	688	14.7	665	14.2	
ときどきした	7	1.6	7	1.8	158	3.4	163	3.5	
ひんぱんにした	2	0.4	4	1.0	39	0.8	42	0.9	
合計	450	100.0	396	100.0	4,672	100.0	4,671	100.0	
[問8L]学習態度:単位とは関係ない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した									
まったくなかった	317	70.8	289	72.6	3,389	72.4	3,425	73.3	
あまりしなかった	81	18.1	63	15.8	774	16.5	764	16.3	
ときどきした	40	8.9	37	9.3	393	8.4	365	7.8	
ひんぱんにした	10	2.2	9	2.3	124	2.6	119	2.5	
合計	448	100.0	398	100.0	4,680	100.0	4,673	100.0	
[問8M]学習態度:大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)									
まったくなかった	363	81.0	342	85.9	3,607	77.1	3,612	77.3	
あまりしなかった	59	13.2	39	9.8	696	14.9	708	15.2	
ときどきした	24	5.4	15	3.8	313	6.7	286	6.1	
ひんぱんにした	2	0.4	2	0.5	63	1.3	64	1.4	
合計	448	100.0	398	100.0	4,679	100.0	4,670	100.0	
[問8N]学習態度:教員に親近感を感じた									
まったくなかった	101	22.4	101	25.3	1,520	32.5	1,597	34.2	
あまりしなかった	191	42.4	182	45.6	1,886	40.3	1,815	38.8	
ときどきした	147	32.7	104	26.1	1,102	23.9	1,104	23.6	
ひんぱんにした	11	2.4	12	3.0	173	3.7	158	3.4	
合計	450	100.0	399	100.0	4,681	100.0	4,674	100.0	
[問8P]週あたりの活動時間:授業や実験に出る									
全然ない	1	0.2			73	1.6	75	1.6	
1時間未満	1	0.2	1	0.3	29	0.6	40	0.9	
1~2時間	8	1.8	3	0.8	78	1.7	42	0.9	
3~5時間	9	2.1	11	2.8	170	3.7	165	3.6	
6~10時間	8	1.8	7	1.8	340	7.3	326	7.2	
11~15時間	30	6.9	31	7.9	845	18.2	872	19.1	
16~20時間	121	27.8	125	31.7	1,297	27.9	1,298	28.5	
20時間以上	258	59.2	218	54.8	1,822	39.1	1,741	38.2	
合計	436	100.0	394	100.0	4,654	100.0	4,559	100.0	

[問9B]週あたりの活動時間:授業時間以外に勉強や宿題する									
全然ない	6	14	4	10	250	5.4	219	4.8	
1時間未満	17	3.9	14	3.5	828	17.8	781	17.1	
1~2時間	44	10.2	51	12.9	1,293	27.7	1,298	28.5	
3~5時間	150	34.6	125	31.6	1,372	29.4	1,262	27.7	
6~10時間	116	26.8	124	31.3	578	12.4	642	14.1	
11~15時間	55	12.7	43	10.9	193	4.1	184	4.0	
16~20時間	15	3.5	21	5.3	58	1.2	70	1.5	
20時間以上	30	6.9	14	3.5	89	1.9	101	2.2	
合計	433	100.0	396	100.0	4,661	100.0	4,557	100.0	
[問9C]週あたりの活動時間:オフィスアワーなど 授業時間外に教員と面談する									
全然ない	357	79.9	327	82.2	3,734	79.9	3,679	79.3	
1時間未満	77	17.2	61	15.3	700	15.0	733	15.8	
1~2時間	8	1.8	5	1.3	132	2.8	104	2.2	
3~5時間	2	0.4	2	0.5	64	1.4	65	1.4	
6~10時間	1	0.2	2	0.5	23	0.5	29	0.6	
11~15時間	1	0.2			9	0.2	9	0.2	
16~20時間					2	0.0	7	0.2	
20時間以上	1	0.2	1	0.3	12	0.3	14	0.3	
合計	447	100.0	398	100.0	4,676	100.0	4,640	100.0	
[問9D]週あたりの活動時間:部活動や同好会に参加する									
全然ない	109	24.4	80	20.4	1,172	25.1	1,100	23.7	
1時間未満	15	3.4	14	3.6	257	5.5	299	6.4	
1~2時間	43	9.6	39	9.9	556	11.9	566	12.2	
3~5時間	82	18.4	81	19.6	912	19.5	962	19.0	
6~10時間	82	18.4	70	17.8	714	15.3	723	15.6	
11~15時間	45	10.1	39	9.9	383	8.2	324	7.0	
16~20時間	22	4.9	24	6.1	204	4.4	219	4.7	
20時間以上	48	10.8	46	11.7	474	10.1	454	9.8	
合計	446	100.0	393	100.0	4,672	100.0	4,647	100.0	
[問9E]週あたりの活動時間:大学外でアルバイトや仕事をする									
全然ない	211	47.3	213	53.8	1,273	27.3	1,299	27.9	
1時間未満	22	4.9	16	4.0	125	2.7	126	2.7	
1~2時間	23	5.2	22	5.6	178	3.8	172	3.7	
3~5時間	55	12.3	35	8.8	474	10.2	453	9.7	
6~10時間	65	14.6	52	13.1	836	17.9	851	18.3	
11~15時間	40	9.0	31	7.8	799	17.1	832	17.9	
16~20時間	12	2.7	15	3.8	464	9.9	490	10.5	
20時間以上	18	4.0	12	3.0	519	11.1	427	9.2	
合計	446	100.0	393	100.0	4,668	100.0	4,650	100.0	
[問9F]週あたりの活動時間:読書をする(マンガ・雑誌を除く)									
全然ない	98	21.8	85 <td>21.6</td> <td>1,303</td> <td>27.8</td> <td>1,229</td> <td>26.5</td> <th></th>	21.6	1,303	27.8	1,229	26.5	
1時間未満	95	21.1	92	23.4	1,184	25.3	1,209	26.0	
1~2時間	117	26.0	98	24.9	991	21.2	996	21.5	
3~5時間	83	18.4	77	19.6	710	15.2	735	15.8	
6~10時間	34	7.6	19						

【付録2】北大と4大学全体に分けた各設問への回答集計表

北大			4大学全体					
2009		2010	2009		2010			
度数	%	度数	%	度数	%			
[問10D]入学後の能力変化:批判的に考える能力								
大きく減った	3	0.7	4	1.0	18	0.4	22	0.5
減った	14	3.1	21	5.3	121	2.6	114	2.4
変化なし	221	49.3	176	44.3	2,422	51.7	2,374	51.0
増えた	180	40.2	161	40.6	1,789	38.2	1,820	39.1
大きく増えた	30	6.7	35	8.8	333	7.1	326	7.0
合計	448	100.0	397	100.0	4,683	100.0	4,656	100.0

[問10E]入学後の能力変化:異文化の人々に関する知識								
大きく減った	1	0.2	3	0.8	26	0.6	36	0.8
減った	12	2.7	4	1.0	109	2.3	103	2.2
変化なし	175	38.7	139	34.7	2,420	51.6	2,374	50.9
増えた	218	48.2	212	53.3	1,815	38.7	1,833	39.3
大きく増えた	46	10.2	41	10.3	322	6.9	318	6.8
合計	452	100.0	398	100.0	4,692	100.0	4,664	100.0

[問10F]入学後の能力変化:リーダーシップの能力								
大きく減った	14	3.1	9	2.3	65	1.4	60	1.3
減った	33	7.3	39	9.8	258	5.5	269	5.8
変化なし	310	69.0	290	73.2	3,279	69.9	3,318	71.1
増えた	84	18.7	42	10.6	936	19.9	855	18.3
大きく増えた	8	1.8	18	4.0	156	3.3	164	3.5
合計	449	100.0	396	100.0	4,694	100.0	4,666	100.0

[問10G]入学後の能力変化:人間関係を構築する能力								
大きく減った	20	4.4	12	3.0	79	1.7	71	1.5
減った	18	4.0	26	6.5	213	4.5	224	4.8
変化なし	172	38.2	157	39.4	1,695	36.1	1,748	37.4
増えた	192	42.7	157	39.4	2,122	45.2	2,053	44.0
大きく増えた	48	10.7	46	11.6	582	12.4	574	12.3
合計	450	100.0	398	100.0	4,691	100.0	4,670	100.0

[問10H]入学後の能力変化:他の人と協力して物事を遂行する能力								
大きく減った	11	2.4	7	1.8	47	1.0	50	1.1
減った	20	4.5	22	5.6	190	4.1	169	3.6
変化なし	213	47.4	183	46.2	1,947	41.5	1,921	41.2
増えた	168	37.4	150	37.9	2,031	43.3	2,074	44.5
大きく増えた	37	8.2	34	8.6	473	10.1	445	9.6
合計	449	100.0	396	100.0	4,688	100.0	4,659	100.0

[問10I]入学後の能力変化:異文化の人々と協力する能力								
大きく減った	3	0.7	6	1.5	60	1.3	56	1.2
減った	18	4.0	11	2.8	160	3.4	180	3.9
変化なし	325	72.5	299	75.5	3,597	76.7	3,576	76.7
増えた	89	19.9	59	14.9	738	15.7	709	15.2
大きく増えた	13	2.9	21	5.3	133	2.8	144	3.1
合計	448	100.0	396	100.0	4,688	100.0	4,665	100.0

[問10J]入学後の能力変化:地域社会が直面する問題を理解する能力								
大きく減った	3	0.7	5	1.3	42	0.9	42	0.9
減った	12	2.7	14	3.5	144	3.1	143	3.1
変化なし	303	67.9	284	71.9	3,227	68.9	3,400	73.1
増えた	119	26.7	79	20.0	1,152	24.6	960	20.6
大きく増えた	9	2.0	13	3.3	118	2.5	109	2.3
合計	446	100.0	395	100.0	4,683	100.0	4,654	100.0

[問10K]入学後の能力変化:国民が直面する問題を理解する能力								
大きく減った	5	1.1	6	1.5	38	0.8	32	0.7
減った	12	2.7	17	4.3	128	2.7	134	2.9
変化なし	273	61.2	236	59.9	2,801	59.7	2,729	58.6
増えた	138	30.9	114	28.9	1,538	32.8	1,555	33.4
大きく増えた	18	4.0	21	5.3	183	3.9	209	4.5
合計	446	100.0	394	100.0	4,688	100.0	4,659	100.0

[問10L]入学後の能力変化:文章表現の能力								
大きく減った	9	2.0	9	2.3	63	1.3	65	1.4
減った	39	8.7	34	8.5	407	8.7	368	7.9
変化なし	192	43.0	169	42.5	2,318	49.5	2,378	51.0
増えた	173	38.8	160	40.2	1,647	35.1	1,580	33.9
大きく増えた	33	7.4	26	6.5	251	5.4	269	5.8
合計	446	100.0	398	100.0	4,686	100.0	4,660	100.0

[問10M]入学後の能力変化:外国語の運用能力								
大きく減った	32	7.2	27	6.8	280	6.0	228	4.9
減った	92	20.6	79	20.0	929	19.8	873	18.7
変化なし	155	34.8	131	33.2	1,904	40.6	1,995	42.8
増えた	146	32.7	141	35.7	1,369	29.2	1,371	29.4
大きく増えた	21	4.7	17	4.3	205	4.4	198	4.2
合計	446	100.0	395	100.0	4,687	100.0	4,665	100.0

[問10N]入学後の能力変化:コミュニケーションの能力								
大きく減った	13	2.9	10	2.5	51	1.1	65	1.4
減った	17	3.8	21	5.3	183	3.9	267	5.7
変化なし	215	48.2	180	45.6	2,045	43.6	2,182	46.8
増えた	168	37.7	153	38.7	2,033	43.4	1,797	38.6
大きく増えた	33	7.4	31	7.8	374	8.0	349	7.5
合計	446	100.0	395	100.0	4,686	100.0	4,660	100.0

[問10O]入学後の能力変化:プレゼンテーションの能力								
大きく減った	6	1.3	4	1.0	42	0.9	33	0.7
減った	8	1.8	10	2.5	108	2.3	145	3.1
変化なし	225	50.6	208	52.5	2,620	55.9	2,699	57.9
増えた	185	41.6	152	38.4	1,654	35.3	1,556	33.4
大きく増えた	21	4.7	22	5.6	259	5.5	230	4.9
合計	445	100.0	396	100.0	4,683	100.0	4,663	100.0

[問10P]入学後の能力変化:数理的な能力								
大きく減った	24	5.4	42	10.6	298	6.4	303	6.5
減った	98	21.9	73	18.4	839	17.9	768	16.5
変化なし	166	37.1	156	39.3	2,377	50.8	2,498	53.6
増えた	141	31.5	114	28.7	1,032	22.0	955	20.5
大きく増えた	19	4.2	12	3.0	136	2.9	136	2.9
合計	448	100.0	397	100.0	4,682	100.0	4,660	100.0

[問10Q]入学後の能力変化:コンピュータの操作能力								
大きく減った	5	1.1	1	0.3	77	1.6	72	1.5
減った								

# 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

北大			4大学全体			
度数	%	度数	%	度数	%	
[問11C2]英語運用能力 会話力(現在)						
A1.1		58	14.7	1,549	33.8	
A1.2	174	38.8	109	27.6	1,214	26.8
A2.1		99	25.1	1,882	41.0	
A2.2	176	39.2	98	24.8	971	21.5
B1	72	16.0	21	5.3	783	17.1
B2	19	4.2	6	1.5	215	4.7
C1	6	1.3	2	0.5	92	2.0
C2	2	0.4	2	0.5	64	1.4
合計	449	100.0	395	100.0	4,585	100.0
604						
13.4						
21.5						
7.4						
2.7						
1.2						
2.0						

[問11D1]英語運用能力 表現力(入学時)						
A1	98	21.9	82	20.7	1,283	28.2
A2	85	19.0	75	18.9	991	21.8
B1	217	48.4	216	54.5	1,822	40.0
B2	37	8.3	17	4.3	334	7.3
C1	8	1.8	5	1.3	67	1.5
C2	3	0.7	1	0.3	54	1.2
合計	448	100.0	396	100.0	4,551	100.0
1,078						
23.9						
20.1						
44.9						
8.0						
1.7						
1.4						

[問11D2]英語運用能力 表現力(現在)						
A1	75	16.6	57	14.5	968	21.3
A2	77	17.1	67	17.0	1,000	22.0
B1	232	51.4	215	54.6	1,981	43.5
B2	50	11.1	47	11.9	426	9.4
C1	13	2.9	7	1.8	102	2.2
C2	4	0.9	1	0.3	77	1.7
合計	451	100.0	394	100.0	4,554	100.0
1,614						
18.4						
18.2						
48.4						
12.2						
2.7						
2.1						

[問11E1]英語運用能力 書く力(入学時)						
A1	68	15.1	48	12.1	1,028	22.6
A2	132	29.4	108	27.2	1,444	31.8
B1	161	35.9	181	45.6	1,430	31.4
B2	71	15.8	50	12.6	457	10.0
C1	12	2.7	7	1.8	128	2.8
C2	5	1.1	3	0.8	61	1.3
合計	449	100.0	397	100.0	4,548	100.0
855						
18.9						
29.9						
35.8						
10.9						
2.9						
1.6						

[問11E2]英語運用能力 書く力(現在)						
A1	58	12.9	36	9.1	766	16.8
A2	123	27.3	95	24.0	1,542	33.9
B1	157	34.9	179	45.2	1,498	32.9
B2	79	17.6	69	17.4	475	10.4
C1	26	5.8	12	3.0	176	3.9
C2	7	1.6	5	1.3	94	2.1
合計	450	100.0	396	100.0	4,549	100.0
571						
12.7						
29.1						
37.3						
14.1						
2.5						
1.1						

[問12]英語の好き・嫌い						
好き		82	20.5		998	21.6
どちらかといえば好き		125	31.3		1,331	28.8
好きでも嫌いでもない		92	23.0		1,103	23.9
どちらかといえば嫌い		57	14.3		677	14.7
嫌い		44	11.0		512	11.1
合計	400	100.0			4,621	100.0

[問13]英語の得意・不得意						
とても得意		5	1.3		89	1.9
どちらかといえば得意		83	21.0		1,054	22.8
得意でも苦手でもない		118	29.9		1,448	31.4
どちらかといえば苦手		115	29.1		1,135	24.6
とても苦手		74	18.7		891	19.3
合計	395	100.0			4,617	100.0

[問14-1]英語圏に行った経験がある						
あてはまる		120	29.8		1,831	40.4
あてはまらない		283	70.2		2,697	59.6
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問14-2]渡航経験:英語圏に旅行したことがある						
あてはまる		78	19.4		1,397	30.9
あてはまらない		325	80.6		3,131	69.1
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問14-3]渡航経験:英語圏で1ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある						
あてはまる		34	8.4		481	10.6
あてはまらない		369	91.6		4,047	89.4
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問14-4]渡航経験:英語圏で1ヶ月以上6ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある						
あてはまる		1	0.2		48	1.1
あてはまらない		402	99.8		4,480	98.9
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問14-5]渡航経験:英語圏で6ヵ月以上1年未満のホームステイ・留学をしたことがある

あてはまる		1	0.2		18	0.4
あてはまらない		402	99.8		4,510	99.6
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問14-6]渡航経験:英語圏で1年以上のホームステイ・留学をしたことがある

あてはまる		0	0.0		13	0.3
あてはまらない		403	100.0		4,515	99.7
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問14-7]渡航経験:英語圏に住んでいたことがある

あてはまる		8	2.0		82	1.8
あてはまらない		395	98.0		4,446	98.2
合計	403	100.0			4,528	100.0

[問15-1]英語の検定試験:今までに英語の検定試験を受けたことがある

あてはまる		355	90.3		2,960	69.5
あてはまらない		38	9.7		1,299	30.5
合計	393	100.0			4,259	100.0

[問15-2]英語の検定試験:実用英語技能検定(英検)の級

1級		1	0.3		4	0.2
準1級		1	0.3	</td		

【付録2】北大と4大学全体に分けた各設問への回答集計表

北大				4大学全体				
2009		2010		2009		2010		
度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
[問16D]大学生活への適応 大学が求める水準に応えて学習する								
まったくうまくいかなかつた	36	8.0	38	9.6	347	7.5	358	7.8
あまりうまくいかなかつた	197	43.8	157	39.7	2,069	44.7	2,013	44.0
いくらくらいまくいった	200	44.4	185	46.8	2,045	44.2	2,043	44.7
とてもうまくいった	17	3.8	15	3.8	165	3.6	157	3.4
合計	450	100.0	395	100.0	4,626	100.0	4,571	100.0
[問16E]大学生活への適応 時間を効果的に使う								
まったくうまくいかなかつた	58	13.0	46	11.8	392	8.5	409	8.9
あまりうまくいかなかつた	182	40.7	177	45.3	1,696	36.7	1,772	38.7
いくらくらいまくいった	180	40.3	148	37.9	2,127	46.0	2,029	44.3
とてもうまくいった	27	6.0	20	5.1	412	8.9	368	8.0
合計	447	100.0	391	100.0	4,627	100.0	4,578	100.0
[問16F]大学生活への適応 大学教員と顔見知りになる								
まったくうまくいかなかつた	141	31.6	128	32.5	1,145	24.7	1,003	21.9
あまりうまくいかなかつた	180	40.4	159	40.4	2,051	44.3	2,051	44.8
いくらくらいまくいった	112	25.1	94	23.9	1,236	26.7	1,319	28.8
とてもうまくいった	13	2.9	13	3.3	195	4.2	210	4.6
合計	446	100.0	394	100.0	4,627	100.0	4,583	100.0
[問16G]大学生活への適応 他の学生との友情を深める								
まったくうまくいかなかつた	17	3.8	26	6.5	150	3.2	166	3.6
あまりうまくいかなかつた	71	15.9	72	18.1	596	12.9	605	13.2
いくらくらいまくいった	226	50.6	205	51.6	2,424	52.4	2,399	52.3
とてもうまくいった	133	29.8	94	23.7	1,459	31.5	1,413	30.8
合計	447	100.0	397	100.0	4,629	100.0	4,583	100.0
[問17]学生生活の充実度								
充実している	137	30.7	114	28.9	1,296	28.5	1,263	27.9
まあまあ充実している	211	47.3	212	53.7	2,450	53.9	2,452	54.2
あまり充実していない	71	15.9	40	10.1	584	12.8	585	12.9
充実していない	27	6.1	29	7.3	216	4.8	220	4.9
合計	446	100.0	395	100.0	4,546	100.0	4,520	100.0
[問18A]大学教育への満足度:共通教育あるいは教養教育の授業								
とても不満	27	6.0	16	4.0	138	3.0	144	3.2
不満	99	22.1	83	21.0	530	11.5	511	11.3
どちらでもない	167	37.4	166	41.9	2,244	48.8	2,372	52.3
満足	140	31.3	120	30.3	1,547	33.6	1,380	30.4
とても満足	14	3.1	11	2.8	144	3.1	129	2.8
合計	447	100.0	395	100.0	4,603	100.0	4,536	100.0
[問18B]大学教育への満足度:初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー・基礎ゼミなど)								
とても不満	11	2.5	13	3.3	140	3.0	128	2.8
不満	56	12.5	36	9.1	443	9.6	406	9.0
どちらでもない	163	36.4	167	42.4	2,535	55.1	2,651	58.6
満足	165	36.8	137	34.8	1,240	27.0	1,139	25.2
とても満足	53	11.8	41	10.4	239	5.2	199	4.4
合計	448	100.0	394	100.0	4,597	100.0	4,523	100.0
[問18C]大学教育への満足度:授業の全般的な質								
とても不満	18	4.0	14	3.6	168	3.6	165	3.6
不満	87	19.5	72	18.4	785	17.1	812	17.9
どちらでもない	185	41.5	175	44.6	2,070	45.0	2,072	45.7
満足	146	32.7	121	30.9	1,470	31.9	1,370	30.2
とても満足	10	2.2	10	2.6	111	2.4	113	2.5
合計	446	100.0	392	100.0	4,604	100.0	4,532	100.0
[問18D]大学教育への満足度:日常生活と授業内容との関連								
とても不満	17	3.8	20	5.0	136	3.0	142	3.1
不満	78	17.5	60	15.1	669	14.5	624	13.8
どちらでもない	256	57.4	239	60.2	2,515	54.6	2,606	57.5
満足	87	19.5	67	16.9	1,177	25.6	1,057	23.3
とても満足	8	1.8	11	2.8	106	2.3	102	2.3
合計	446	100.0	397	100.0	4,603	100.0	4,531	100.0
[問18E]大学教育への満足度:将来の仕事と授業内容の結びつき								
とても不満	26	5.8	18	4.0	207	4.5	171	3.8
不満	94	21.0	75	18.9	702	15.2	666	14.7
どちらでもない	213	47.5	211	53.3	2,117	46.0	2,261	49.9
満足	105	23.4	78	19.7	1,330	28.9	1,215	26.8
とても満足	10	2.2	16	4.0	251	5.4	219	4.8
合計	448	100.0	396	100.0	4,607	100.0	4,532	100.0

[問18F]大学教育への満足度:教員と話をする機会								
とても不満	25	5.6	31	7.8	311	6.8	269	5.9
不満	77	17.3	75	18.8	922	20.0	861	19.0
どちらでもない	284	63.7	247	62.1	2,683	58.3	2,753	60.8
満足	51	11.4	38	9.5	567	12.3	532	11.7
とても満足	9	2.0	7	1.8	117	2.5	114	2.5
合計	446	100.0	398	100.0	4,600	100.0	4,529	100.0
[問18G]大学教育への満足度:個別の学習指導や援助(履修相談など)								
とても不満	23	5.1	12	3.0	236	5.1	202	4.5
不満	77	17.2	35	8.9	776	16.8	690	15.3
どちらでもない	301	67.2	273	69.1	2,801	60.8	2,798	62.0
満足	44	9.8	63	15.9	689	15.0	711	15.7
とても満足	3	0.7	12	3.0	104	2.3	114	2.5
合計	448	100.0	395	100.0	4,606	100.0	4,515	100.0
[問18H]大学教育への満足度:他の学生と話をする機会								
とても不満	7	1.6	7	1.5	79	1.7	72	1.7
不満	40	8.9	40	8.8	348	7.6	308	7.2
どちらでもない	160	35.6	160	35.2	1,496	32.5	1,336	31.3
満足	172	38.3	172	37.9	1,878	40.8	1,706	40.0
とても満足	70	15.6	70	15.4	800	17.4	730	17.1
合計	449	100.0	454	100.0	4,601	100.0	4,529	100.0
[問18I]大学教育への満足度:他の学生と話をする機会								
とても不満	12	2.7	21	5.3	157	3.4	155	3.4
不満	58	12.9	53	13.5	566	12.3	455	10.1
どちらでもない	223	49.7	206	52.3	2,080	45.1	2,194	48.5
満足	120	26.7	91	23.1	1,368	29.7	1,336	29.5
とても満足	36	8.0	23	5.8	436	9.5	385	8.5
合計	449	100.0	394	100.0	4,605	100.0	4,525	100.0
[問18J]大学教育への満足度:多様な考え方を認め合う雰囲気								
とても不満	19	4.3	10	2.5	132	2.9	117	2.6
不満	39	8.7	37	9.3	403	8.8	373	8.2
どちらでもない	219	49.0	203	51.3	2,346	50.9	2,402	53.1
満足	140	31.3	114	28.8	1,434	31.1	1,353	29.9
とても満足	30	6.7	32	8.1	290	6.3	280	6.2
合計	447	100.0	396	100.0	4,605	100.0	4,525	100.0
[問18K]大学教育への満足度:大学での経験全般について								
とても不満	9	2.0	5	1.3	107	2.3	81	1.8
不満	39	8.6	42	10.6	324	7.0	328	7.2
どちらでもない	144	31.9	142	35.9	1,959	42.5	2,047	45.2
満足	210	46.6	166	41.9	1,790	38.8	1,698	37.5
とても満足	49	10.9	41	10.4	428	9.3	372	8.2
合計	451	100.0	396	100.0	4,608	100.0	4,526	100.0
[問18L]大学教育への満足度:1つの授業を履修する学生数								
とても不満	8	1.8	15	3.8	152	3.3	129	2.9
不満	57	12.7	65	16.5	531	11.5	551	12.2
どちらでもない	231	51.3	185	47.0	2,369	51.4	2,409	53.4
満足	148	32.9	116	29.4	1,386	30.1	1,266	28.1
とても満足	6	1.3	13	3.3	168	3.6	158	3.5
合計	450	100.0	394	100.0	4,605	100.0	4,513	100.0
[問19A]大学の設備・支援制度への満足度:図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)								
とても不満	6	1.3	9	2.3	77	1.7	81	1.8
不満	31	6.9	23	5.8	265	5.7	280	6.2
どちらでもない	70	15.5	64	16.2	992	21.5	1,040	23.1
満足	244	54.1	207	52.5	2,299	49.8	2,226	49.5
とても満足	100	22.2	91	23.1	981	21.3	867	19.3
合計	451	100.0	394	100.0	4,614	100.0	4,494	100.0
[問19B]大学の設備・支援制度への満足度:実験室の設備や器具								
とても不満	3	0.7	3	0.8	54	1.2	43	1.0

# 「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

北大			4大学全体						
2009		2010	2009		2010				
度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
<b>[問19E]大学の設備・支援制度への満足度:インターネットの使いやすさ</b>									
とても不満	9	2.0	8	2.0	136	3.0	133	3.0	
不満	46	10.3	32	8.1	521	11.3	487	10.8	
どちらでもない	129	28.8	95	24.2	1,356	29.5	1,479	32.8	
満足	215	48.0	198	50.4	1,965	42.7	1,903	42.3	
とても満足	49	10.9	60	15.3	626	13.6	501	11.1	
合計	448	100.0	393	100.0	4,604	100.0	4,503	100.0	
<b>[問19F]大学の設備・支援制度への満足度:授業料など学費援助の制度</b>									
とても不満	15	3.4	19	4.8	158	3.4	139	3.1	
不満	35	7.8	44	11.1	370	8.1	338	7.5	
どちらでもない	268	60.0	230	57.9	2,737	59.6	2,723	60.5	
満足	103	23.0	80	20.2	1,031	22.5	1,018	22.6	
とても満足	26	5.8	24	6.0	295	6.4	285	6.3	
合計	447	100.0	397	100.0	4,591	100.0	4,503	100.0	
<b>[問19G]大学の設備・支援制度への満足度:健康保健サービス(心身の健康に関する問題についての診療や相談)</b>									
とても不満	11	2.4	7	1.8	65	1.4	56	1.2	
不満	27	6.0	20	5.1	167	3.6	158	3.5	
どちらでもない	272	60.4	228	57.7	3,199	69.5	3,136	69.7	
満足	116	25.8	109	27.6	910	19.8	905	20.1	
とても満足	24	5.3	31	7.8	260	5.7	245	5.4	
合計	450	100.0	395	100.0	4,601	100.0	4,500	100.0	
<b>[問19H]大学の設備・支援制度への満足度:レクリエーション施設(ジムの設備など)</b>									
とても不満	13	2.9	13	3.3	182	4.0	151	3.4	
不満	47	10.5	30	7.6	418	9.1	353	7.9	
どちらでもない	265	59.4	223	56.6	2,881	62.7	2,779	61.9	
満足	103	23.1	98	24.9	880	19.1	945	21.0	
とても満足	18	4.0	30	7.6	236	5.1	262	5.8	
合計	446	100.0	394	100.0	4,597	100.0	4,490	100.0	
<b>[問19I]大学の設備・支援制度への満足度:キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)</b>									
とても不満	11	2.5	7	1.8	97	2.1	88	2.0	
不満	14	3.1	14	3.5	206	4.5	222	5.0	
どちらでもない	379	85.0	334	84.6	3,496	76.1	3,372	75.2	
満足	37	8.3	32	8.1	647	14.1	650	14.5	
とても満足	5	1.1	8	2.0	149	3.2	151	3.4	
合計	446	100.0	395	100.0	4,595	100.0	4,483	100.0	
<b>[問20]学部卒業後の予定進路</b>									
就職する	137	32.5	113	30.9	2,939	64.6	2,896	65.2	
大学院に進学する	224	53.1	179	48.9	890	19.6	857	19.3	
留学する	3	0.7	3	0.8	24	0.5	35	0.8	
他大学に(編)入学する	6	1.4	3	0.8	29	0.6	33	0.7	
専門学校に入学する					10	0.2	9	0.2	
まだわからない	50	11.8	65	17.8	632	13.9	585	13.2	
その他	2	0.5	3	0.8	25	0.5	30	0.7	
合計	422	100.0	366	100.0	4,549	100.0	4,445	100.0	
<b>[問21]浪人の有無</b>									
現役	306	68.2	278	70.0	3,544	76.4	3,509	77.4	
浪人	138	30.7	112	28.2	1,032	22.2	968	21.4	
その他(留学生、社会人など)	5	1.1	7	1.8	64	1.4	54	1.2	
合計	449	100.0	454	100.0	4,640	100.0	4,269	100.0	
<b>[問22]入試形態</b>									
一般入試	426	94.7	375	94.7	2,853	61.8	2,742	61.5	
一般入試と大学入試センター試験の併用型					387	8.4	359	8.0	
大学入試センター試験(単独)利用型					135	2.9	124	2.8	
内部進学					282	6.1	282	6.3	
指定校推薦					574	12.4	593	13.3	
スポーツや課外活動の推薦					84	1.8	71	1.6	
公募推薦					157	3.4	172	3.9	
AO選考	20	4.4	17	4.3	91	2.0	77	1.7	
留学生入試	3	0.7	2	0.5	28	0.6	22	0.5	
社会人入試					5	0.1	6	0.1	
編入学							1	0.0	
その他の試験(帰国子女入試など)	1	0.2	2	0.5	17	0.4	12	0.3	
合計	450	100.0	396	100.0	4,613	100.0	4,461	100.0	
<b>[問23]第1志望</b>									
第1志望だった	318	70.8	282	72.1	2,026	43.5	1,919	42.4	
第1志望ではなかった	131	29.2	109	27.9	2,634	56.5	2,608	57.6	
合計	449	100.0	391	100.0	4,660	100.0	4,527	100.0	

[問24]高校での成績									
上位の方	184	41.1	186	47.2	1,204	25.9	1,177	26.0	
中の上くらい	145	32.4	107	27.2	1,530	32.9	1,550	34.3	
中くらい	63	14.1	53	13.5	777	16.7	702	15.5	
中の下くらい	26	5.8	29	7.4	504	10.8	491	10.9	
下位の方	24	5.4	14	3.6	534	11.5	520	11.5	
その他(わからない、覚えていないなど)	6	1.3	5	1.3	102	2.2	81	1.8	
合計	448	100.0	394	100.0	4,651	100.0	4,521	100.0	
<b>[問25A]高校3年時の学習経験:授業中質問した</b>									
まったくしなかった	151	33.7	116	29.4	948	20.5	897	20.0	
あまりしなかった	131	29.2	143	36.2	1,626	35.1	1,629	36.2	
ときどきした	132	29.5	101	25.6	1,575	34.0	1,535	34.1	
ひんぱんにした	34	7.6	35	8.9	486	10.5	434	9.7	
合計	448	100.0	395	100.0	4,635	100.0	4,495	100.0	
<b>[問25B]高校3年時の学習経験:自分の意見を論理的に主張した</b>									
まったくしなかった	105	23.5	86	22.0	805	17.4	744	16.5	
あまりしなかった	187	41.8	165	42.2	2,090	45.1	2,188	48.6	
ときどきした	127	28.4	118	30.2	1,341	28.9	1,244	27.7	
ひんぱんにした	28	6.3	22	5.6	397	8.6	322	7.2	
合計	447	100.0	391	100.0	4,633	100.0	4,498	100.0	
<b>[問25C]高校3年時の学習経験:問題の解決方法を模索しそれを他者に説明した</b>									
まったくしなかった	51	11.3	48	12.2	533	11.5	558	12.4	
あまりしなかった	147	32.7	133	33.9	1,732	37.4	1,730	38.6	
ときどきした	203	45.1	156	39.8	1,828	39.5	1,756	39.2	
ひんぱんにした	49	10.9	55	14.0	537	11.6	441	9.8	
合計	450	100.0	392	100.0	4,630	100.0	4,485	100.0	
<b>[問25D]高校3年時の学習経験:自己的に作文の練習をした</b>									
まったくしなかった	178	39.7	169	43.3	1,422	30.7	1,359	30.2	
あまりしなかった	141	31.5	135	34.6	1,879	40.6	1,864	41.4	
ときどきした	97	21.7	61	15.6	921	19.9	938	20.9	
ひんぱんにした	32	7.1	25	6.4	405	8.8	336	7.5	
合計	448	100.0	390	100.0	4,627	100.0	4,497	100.0	
<b>[問25E]高校3年時の学習経験:インターネット上の情報が事実かどうか確認した</b>									
まったくしなかった	102	22.7	88	22.3	1,040	22.5	1,017	22.6	
あまりしなかった	176	39.1	158	40.1	2,044	44.2	1,958	43.6	
ときどきした	133	29.6	104	26.4	1,196	25.8	1,194	26.6	
ひんぱんにした	39	8.7	44	11.2	348	7.5	326	7.3	
合計	450	100.0	393	100.0	4,628	100.0	4,495	100.0	
<b>[問25F]高校3年時の学習経験:困難なことにあえて挑戦した</b>									
まったくしなかった	51	11.3	45	11.5	573	12.4	545	12.1	
あまりしなかった	145	32.2	144	36.6	1,753	37.9	1,777	39.5	
ときどきした	188	41.7	145	36.9	1,631	35.2	1,620	36.0	
ひんぱんにした	67	14.9	59	15.0	673	14.5	557	12.4	
合計	451	100.0	393	100.0	4,630	100.0	4,499	100.0	
<b>[問25G]高校3年時の学習経験:問題に対処するために新しい解決策を求めた</b>									
まったくしなかった	32	7.2	33	8.4	469	10.1	457	10.2	
あまりしなかった	139	31.1	118	30.2	1,659	35.8	1,662	37.0	
ときどきした	222	49.7	187	47.8	1,940	41.9	1,889	42.1	
ひんぱんにした	54	12.1	53	13.6	561	12.1	483	10.8	

## 【付録3】主な設問ごとの北大と4大学全体の回答傾向の違い

北大と4大学全体の回答傾向の違いを視覚的にとらえるため、2009年および2010年調査のデータをレーダーチャート形式にまとめた。

(違い) 北大の方が値が、◎：10ポイント以上大きい。○：5以上～10未満ポイント大きい。▽：5ポイント以上小さい。

## 2. 1. 授業での学習経験

[7]あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

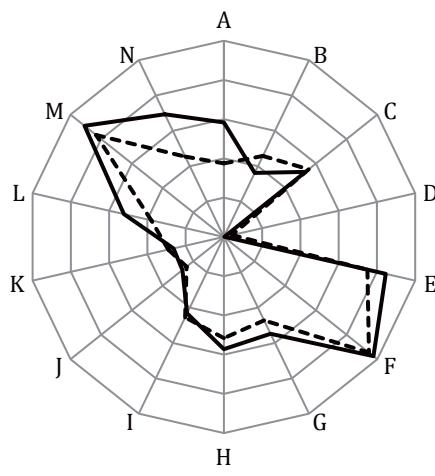


図1.1. 授業での経験(2010)

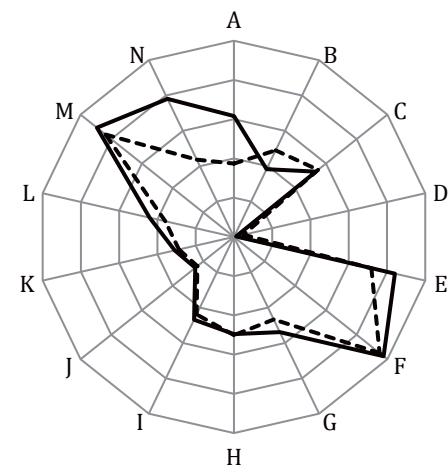


図1.2. 授業での経験(2009)

		2010	2009
A	実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	◎	◎
B	仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	▽	▽
C	授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する		
D	授業の一環でボランティア活動をする		
E	学生自身が文献や資料を調べる	○	○
F	定期的に小テストやレポートが課される		
G	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	○	○
H	学生が自分の考えや研究を発表する	○	
I	授業中に学生同士が議論をする		
J	授業で検討するテーマを学生が設定する		
K	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる		
L	取りたい授業を履修登録できなかった	◎	○
M	出席することが重視される	○	○
N	TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける	◎	◎

「ひんぱんにあった」 + 「ときどきあった」の合計割合。

## 2. 2. 授業内外での学習行動や態度

[8]大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

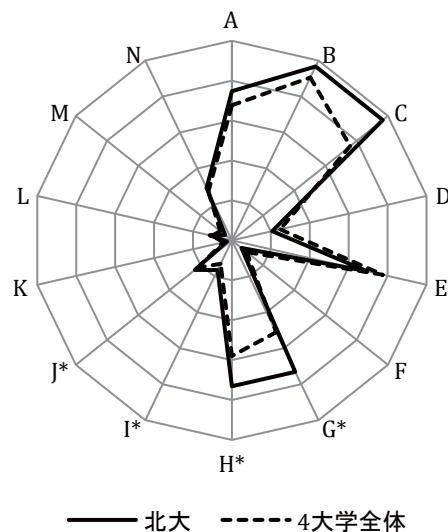


図 2.1. 授業内外の学習行動(2010)

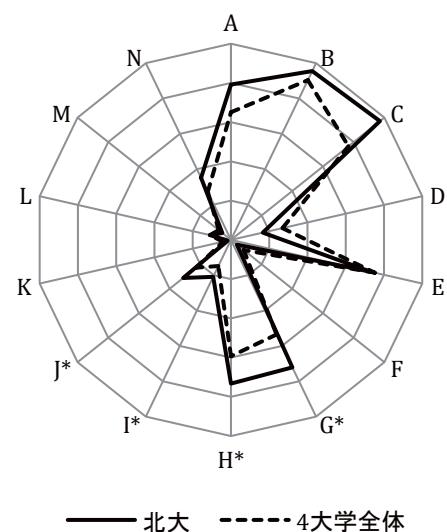


図 2.2. 授業内外の学習行動(2009)

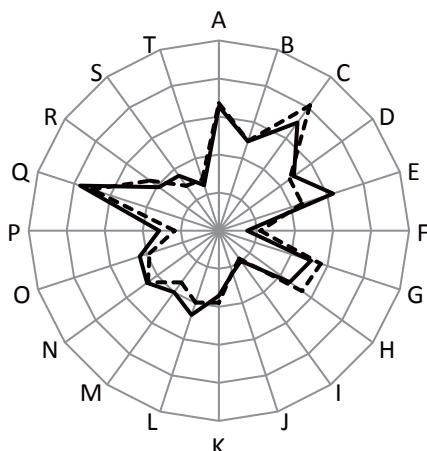
	2010	2009
A 授業課題のために図書館の資料を利用した	○	◎
B 授業課題のために Web 上の情報を利用した	○	○
C インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	◎	◎
D 提出期限までに授業課題を完成できなかった	▽	
E 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした	▽	
F 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた		
G* 授業を欠席した	◎	◎
H* 授業に遅刻した	◎	◎
I* 授業をつまらなく感じた	○	
J* 授業中に居眠りをした	○	
K 教員の研究プロジェクトに参加した		
L 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した		
M 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）		
N 教員に親近感を感じた	○	

「ひんぱんにあった」 + 「ときどきあった」の合計割合。

\*の項目については「あまりなかった」 + 「まったくなかった」の合計割合。

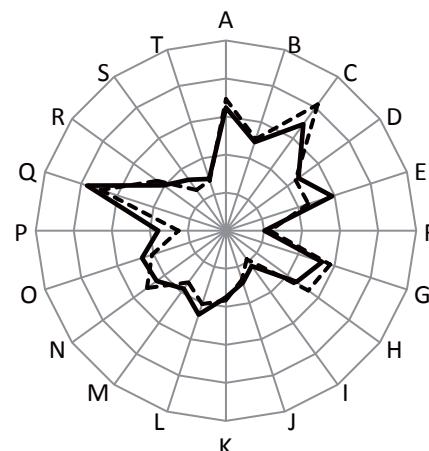
## 2. 4. 入学後に修得した能力やスキル

[10]入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。



—— 北大 ----- 4大学全体

図 3.1. 入学後の能力やスキルの向上(2010)



—— 北大 ----- 4大学全体

図 3.2. 入学後の能力やスキルの向上(2009)

	2010	2009
<b>A 一般的な教養</b>		
B 分析力や問題解決能力		
C 専門分野や学科の知識	▽	▽
D 批判的に考える能力		
E 異文化の人々に関する知識	◎	◎
F リーダーシップの能力	▽	
G 人間関係を構築する能力	▽	
H 他の人と協力して物事を遂行する能力	▽	▽
I 異文化の人々と協力する能力		
J 地域社会が直面する問題を理解する能力		
K 国民が直面する問題を理解する能力		
L 文章表現の能力	○	○
M 外国語の運用能力	○	
N コミュニケーションの能力	▽	
O プrezentationの能力	○	○
P 数理的な能力	○	◎
Q コンピュータの操作能力	○	○
R 時間を効果的に利用する能力	▽	
S グローバルな問題の理解	○	○
<b>T 卒業後に就職するための準備の程度</b>		

「大きくえた」 + 「えた」の合計割合。

#### 4. 1. 大学生活への適応感

[16]本学に入学してから、あなたは次のことがらについてどれくらいうまくいきましたか。

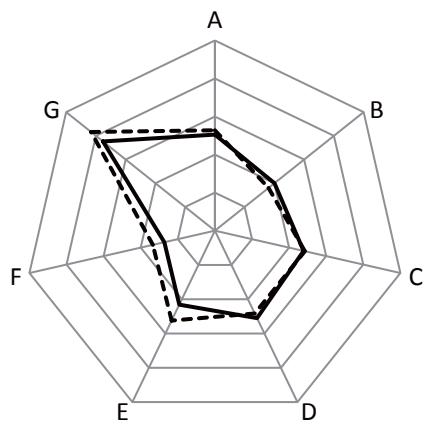


図 4.1. 大学生活への適応感(2010)

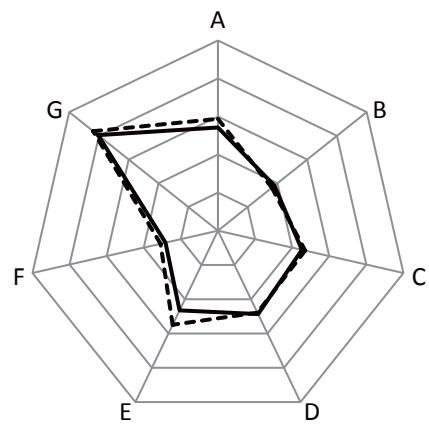


図 4.2. 大学生活への適応感(2009)

	2010	2009
A 大学の学生向けサービスを上手に利用する		
B 大学教員の学問的な期待を理解する		
C 効果的に学習する技能を修得する		
D 大学が求める水準に応えて学習する		
E 時間を効果的に使う	△	△
F 大学教員と顔見知りになる	△	△
G 他の学生との友情を深める	△	△

「とてもうまくいった」 + 「いくらかうまくいった」の合計割合。

## 4. 3. 大学の教育内容に対する満足感

[18]あなたは、本学の教育内容にどれくらい満足していますか。

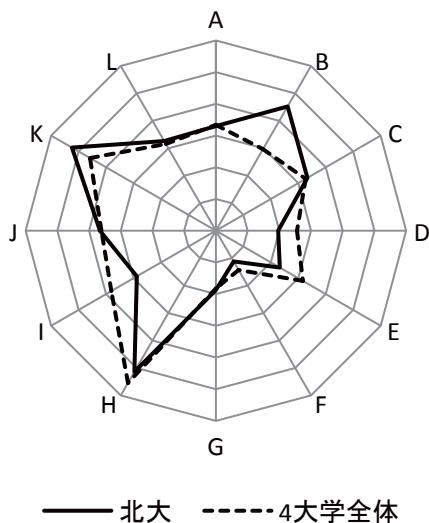


図 5.1. 教育内容に対する満足感(2010)

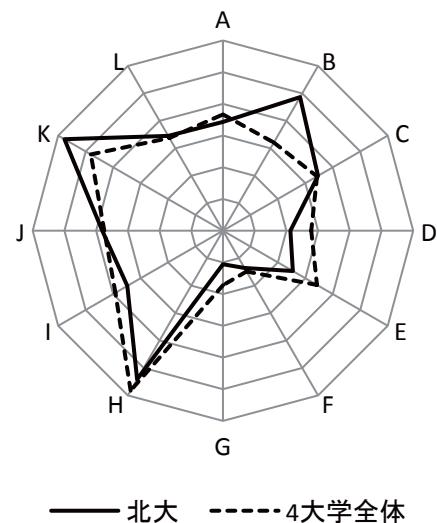


図 5.2. 教育内容に対する満足感(2009)

		2010	2009
<b>A</b>	共通教育あるいは教養教育の授業		
<b>B</b>	初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）	◎	◎
<b>C</b>	授業の全体的な質		
<b>D</b>	日常生活と授業内容との関連	▽	▽
<b>E</b>	将来の仕事と授業内容の結びつき	▽	▽
<b>F</b>	教員と話をする機会		
<b>G</b>	個別の学習指導や援助（履修相談など）		▽
<b>H</b>	他の学生と話をする機会		
<b>I</b>	大学のなかでの学生同士の一体感		▽
<b>J</b>	多様な考え方を認め合う雰囲気		
<b>K</b>	大学での経験全般について	○	○
<b>L</b>	1つの授業を履修する学生数		

「とても満足」 + 「満足」の合計割合。グラフ目盛の最大値は 60%。

#### 4. 4. 大学の教育環境に対する満足感

[19]あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

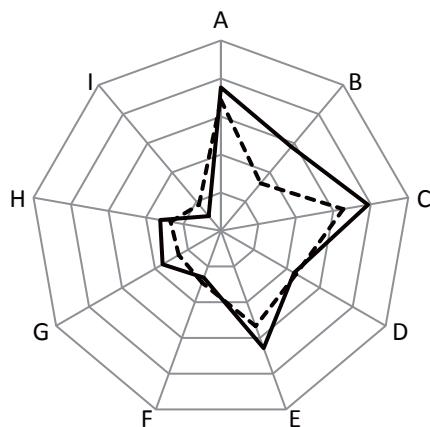


図 6.1. 教育環境に対する満足感(2010)

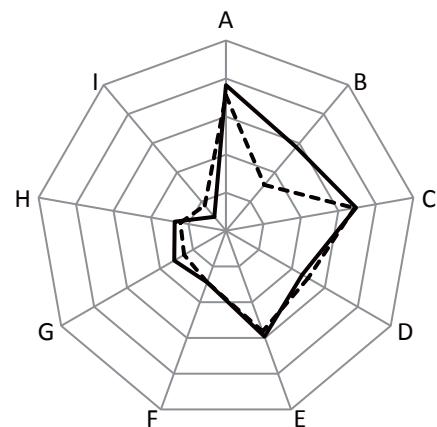


図 6.2. 教育環境に対する満足感(2009)

	2010	2009
A 図書館の設備 (蔵書やレファレンスサービス)	○	○
B 実験室の設備や器具	◎	◎
C コンピュータの施設や設備	◎	
D コンピュータの訓練や援助		
E インターネットの使いやすさ	◎	
F 奨学金など学費援助の制度		
G 健康保健サービス (心身の健康に関する問題についての診療や相談)	○	○
H レクリエーション施設 (ジムの設備など)	○	
I キャリアカウンセリング (就職や進学に関する相談)	▽	▽

「とても満足」 + 「満足」の合計割合。

## 【付録4】北海道大学の教育改善関連資料

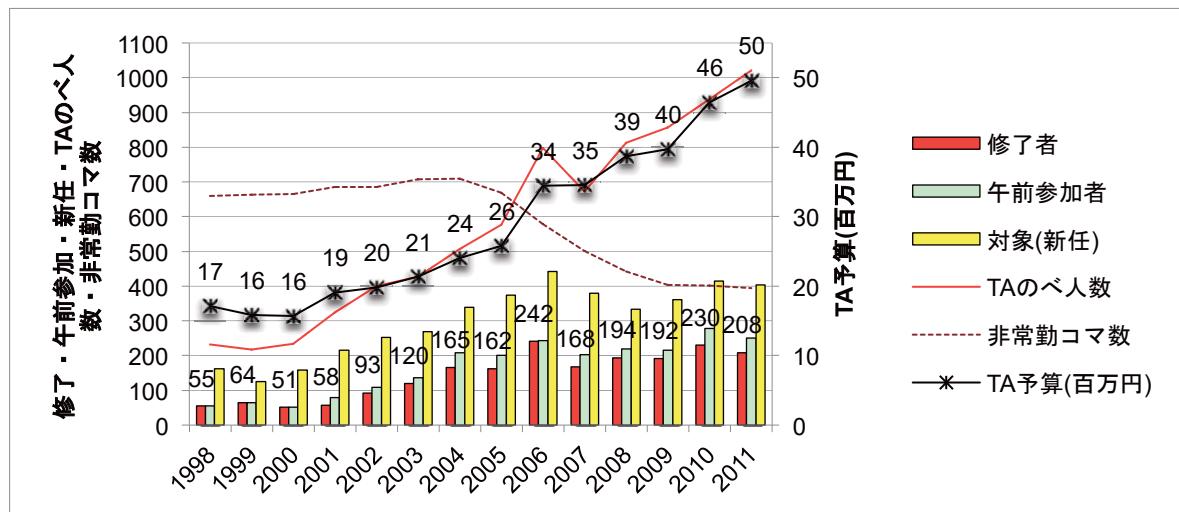


図1. 全学教育TA研修会参加・修了者数とTAのべ人数・非常勤コマ数・予算総額の推移

\* 対象者：その年度の全学教育TA担当予定者のうち、研修会を修了していない者

\* 参加者：研修会の一部（午前：全体会）に参加した者

\* 参加率：参加者数/対象者の%

\* 修了者：研修会の全部（午前：全体会、午後：科目ごとの分科会）を修了した者

\* 修了率：修了者数/対象者の%

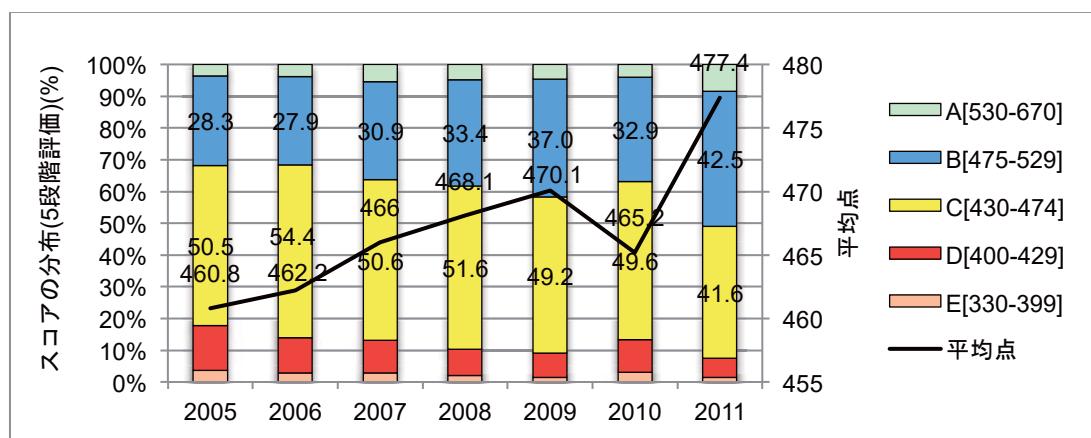


図2. 英語II受講者のTOEFL-ITPスコア分布と平均点の推移

棒グラフ：A(秀相当), B(優相当), C(良相当), D(可相当), E(不可相当)の%；折れ線グラフ：平均点

「一年生調査 2010 年」比較分析報告書

表 1-1. 2010/2005 年度（第 1 学期）全学教育科目履修者数対比表 (2011.2.9, 2006.6.28)

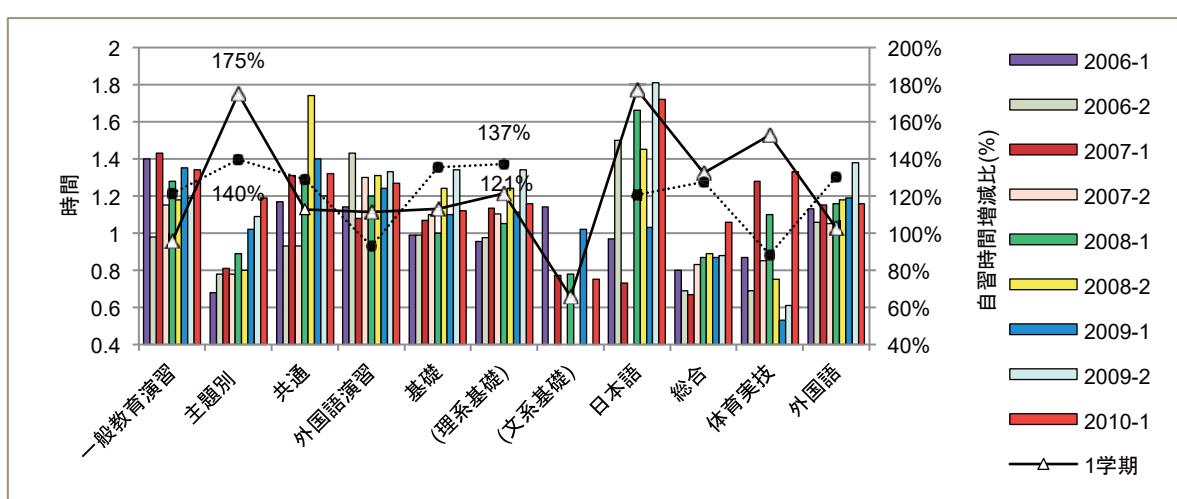
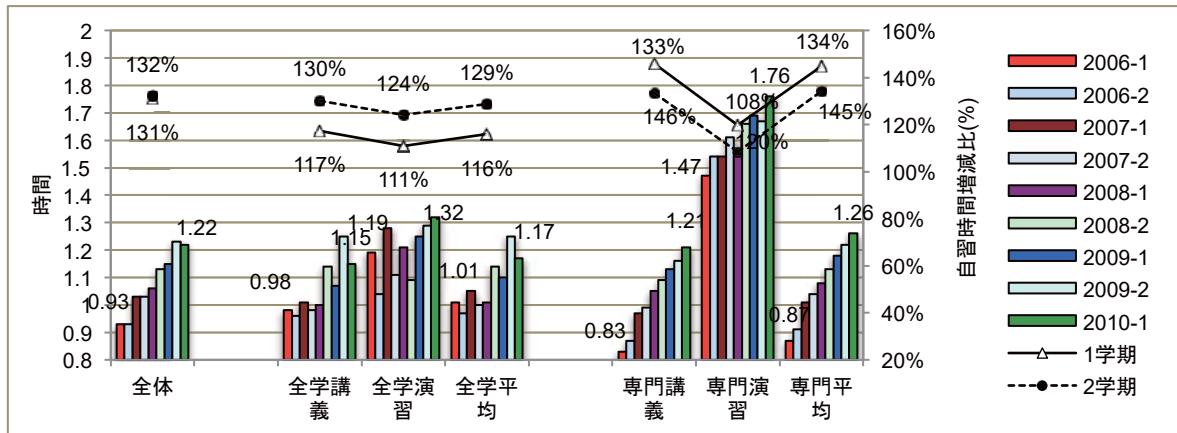
授業科目	2010 年度 1 学期			2005 年度 1 学期			2010/2005 年度比較	
	クラス数	履修者数	1 クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1 クラスの履修者数	履修者の増減	比率%
一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	84	1,625	19.35	107	2,190	20.47	▲ 565	74.2%
総合科目	34	3,471	102.09	37	6,850	185.14	▲ 3,379	50.7%
主題別科目	98	8,319	84.89	128	11,840	92.50	▲ 3,521	70.3%
共通科目	86	5,633	65.50	86	6,356	73.91	▲ 723	88.6%
外国語科目	222	8,052	36.27	357	13,287	37.22	▲ 5,235	60.6%
外国語演習	161	2,621	16.28	66	890	13.48	1,731	294.5%
文系基礎科目	10	1,403	140.30	-	-	-	1,403	-
数学	65	3,809	58.60	84	5,375	63.99	▲ 1,566	70.9%
理科	90	5,691	63.23	123	8,422	68.47	▲ 2,731	67.6%
実験	22	927	42.14	22	1,583	71.95	▲ 656	58.6%
日本語・日本事情	4	36	9.00	3	54	18.00	▲ 18	66.7%
全学教育科目 1 学期計	876	41,587	47.47	1,013	56,847	56.12	▲ 15,260	73.2%

表 1-2. 2010/2005 年度（第 2 学期）全学教育科目履修者数対比表 (2011.2.9, 2007.1.24)

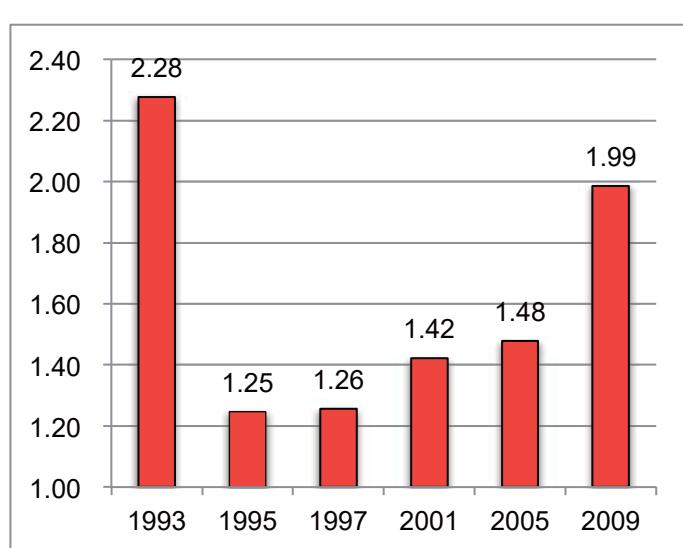
授業科目	2010 年度 2 学期			2005 年度 2 学期			2010/2005 度比較	
	クラス数	履修者数	1 クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1 クラスの履修者数	履修者の増減	比率%
一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	44	929	21.11	63	817	12.97	112	113.7%
総合科目	25	2,490	99.60	21	3,299	157.10	▲ 809	75.5%
主題別科目	66	6,749	102.26	86	6,750	78.49	▲ 1	100.0%
共通科目	72	3,059	42.49	85	4,354	51.22	▲ 1,295	70.3%
外国語科目	231	7,677	33.23	313	11,074	35.38	▲ 3,397	69.3%
外国語演習	125	2,243	17.94	52	778	14.96	1,465	288.3%
数学	55	2,992	54.40	61	3,530	57.87	▲ 538	84.8%
理科	80	5,291	66.14	82	5,435	66.28	▲ 144	97.4%
実験	24	1,135	47.29	31	2,028	65.42	▲ 893	56.0%
日本語・日本事情	1	17	17.00	2	41	20.50	▲ 24	41.5%
全学教育科目 2 学期計	723	32,582	45.07	796	38,106	47.87	▲ 5,524	85.5%
全学教育科目 1・2 学期合計	1,599	74,169	46.38	1,809	94,953	52.49	▲ 20,784	78.1%

表 1-3. 2011/2010 年度（第 1 学期）全学教育科目履修者数対比(インターンシップを除く) (2011.7.1)

授業科目	2011 年度 1 学期			2010 年度 1 学期			2011/2010 年度比較	
	クラス数	履修者数	1 クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1 クラスの履修者数	履修者の増減	比率%
一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	97	2,199	22.67	84	1,625	19.35	574	135.3%
総合科目	39	4,360	111.79	34	3,471	102.09	889	125.6%
主題別科目	91	8,901	97.81	98	8,319	84.89	582	107.0%
共通科目	79	5,311	67.23	84	5,508	65.57	▲ 197	96.4%
外国語科目	221	8,265	37.40	222	8,052	36.27	213	102.6%
外国語演習	151	2,892	19.15	161	2,621	16.28	271	110.3%
文系基礎科目	11	1,413	128.45	10	1,403	140.30	10	100.7%
数学	70	3,966	56.66	65	3,809	58.60	157	104.1%
理科	90	6,089	67.66	90	5,691	63.23	398	107.0%
実験	18	1,018	56.56	22	927	42.14	91	109.8%
日本語・日本事情	4	25	6.25	4	36	9.00	▲ 11	69.4%
全学教育科目 1 学期計	871	44,439	51.02	874	41,462	47.44	2,977	107.2%



以上、授業アンケートより  
\* 折れ線グラフ：1 学期(2010/2006 比)；2 学期(2009/2006 比)の増減比率(%)



学生生活実態調査より

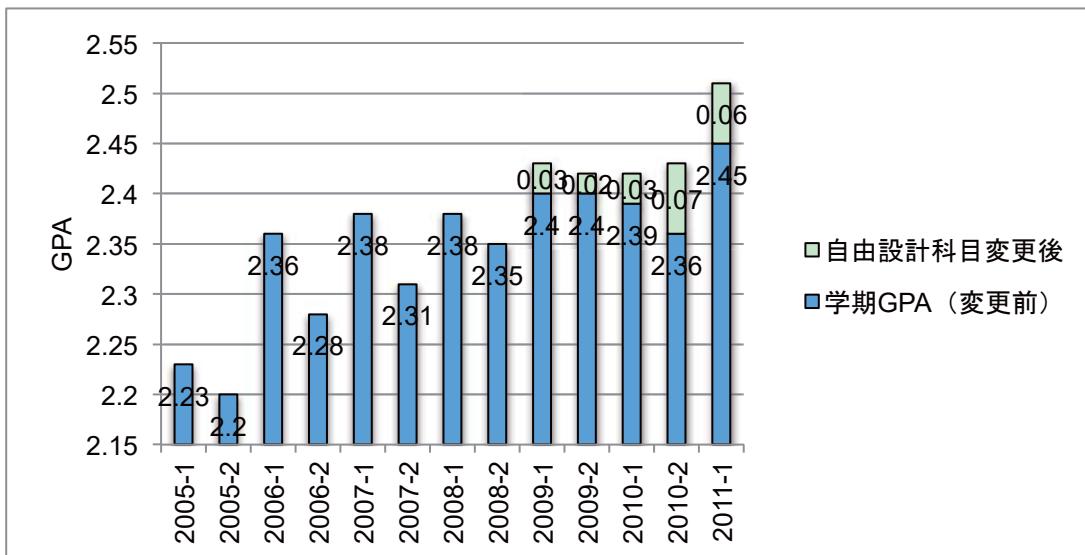


図 4-1. 1 年次 1,2 学期 GPA (全学平均) の変化

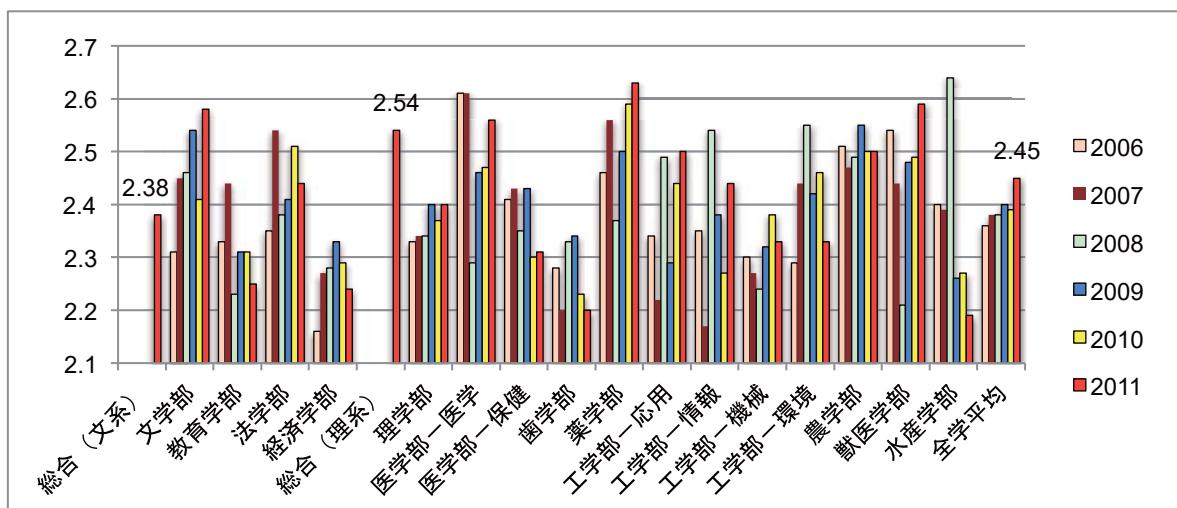


図 4-2. 1 年次 1 学期 GPA (学部学科別, 自由設計科目変更前) の変化

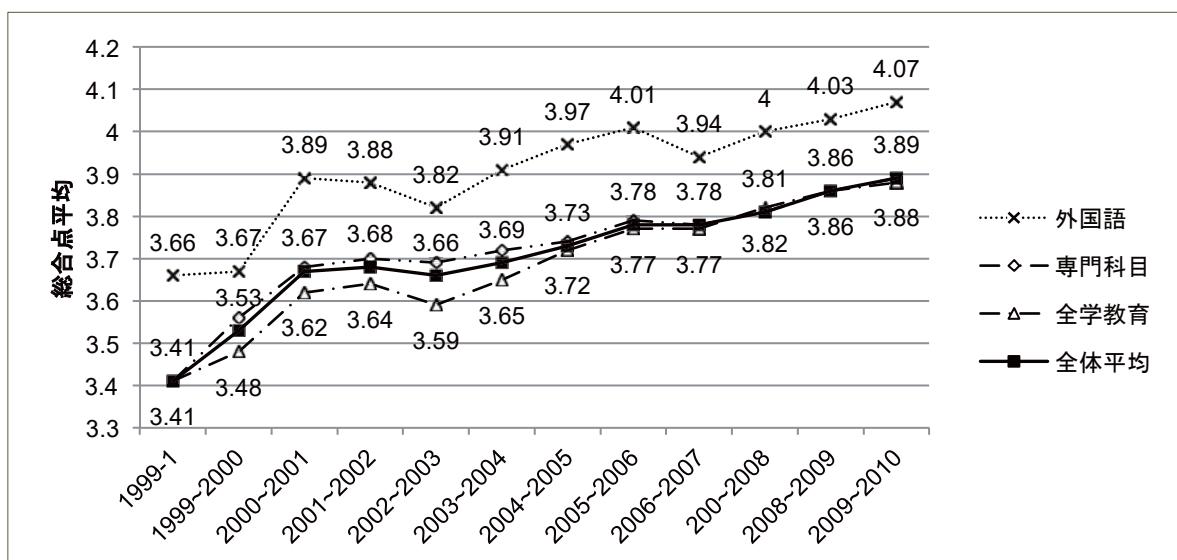


図 5. 授業評価アンケート総合点 (科目区分別) の変化

授業アンケートより

総合点 : 1.0~3.0 総合点

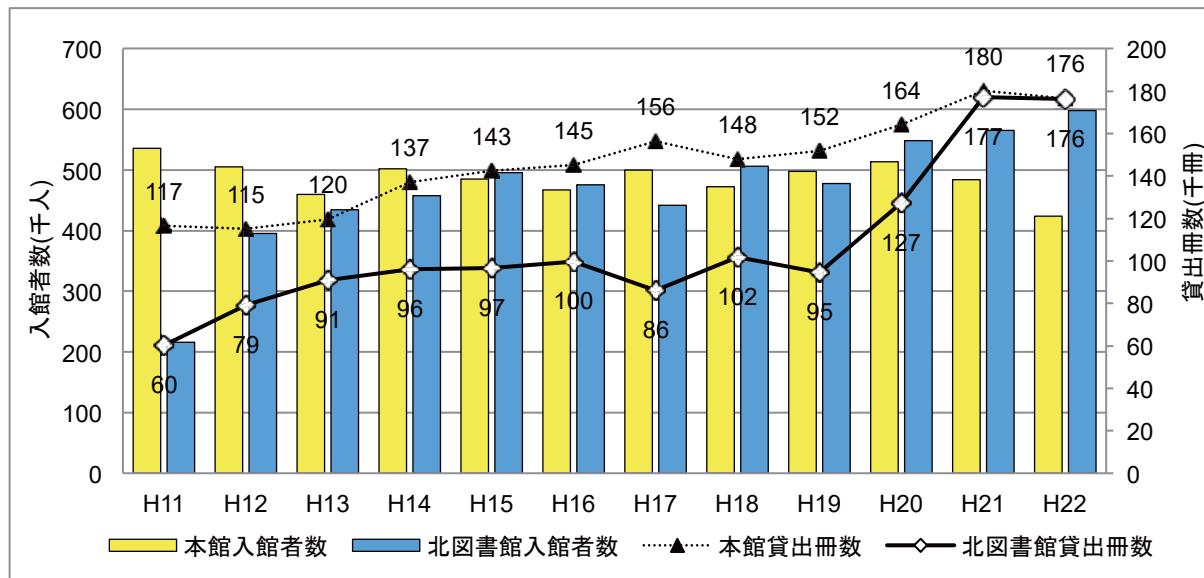


図 6-1. 附属図書館（本館・北図書館）入館者数・図書貸出冊数の変化

(図書館概要 2011 年度 10 ページより)

\*平成 12 年度からの北図書館の入館者数の急増は、同年 4 月に情報教育館が竣工し、高等教育推進機構 E 棟と情報教育館、北図書館が 2 階渡り廊下でつながったことと関係するとも考えられる。

\*平成 20 年度からの北図書館の図書貸出冊数の急増は、開架図書の貸出冊数の上限を 5 冊から 8 冊に増やしたことと関係するとも考えられる。

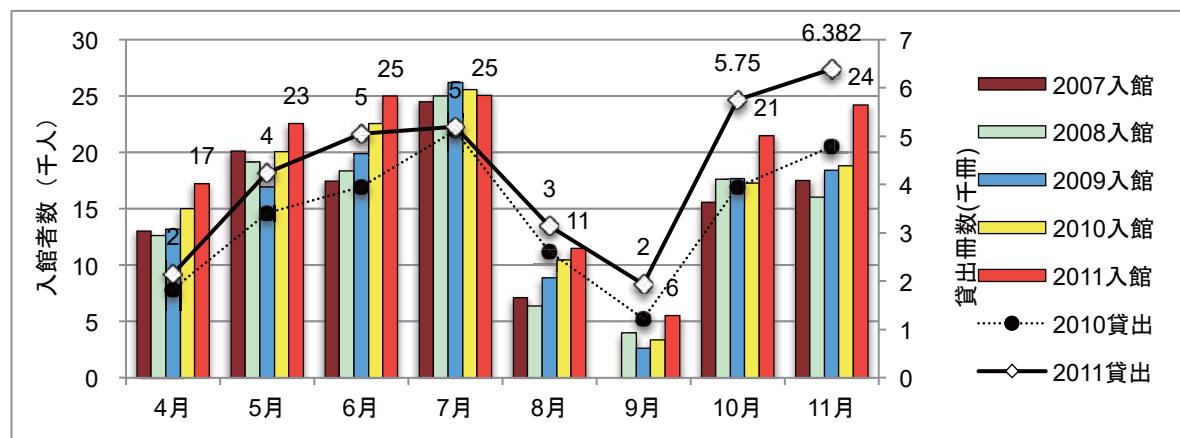


図 6-2. 北図書館入館者数（新入生）・図書貸出冊数（新入生）月別・年度別比較

(北図書館提供資料より)

\*2011 年 7 月の入館者・貸出冊数が前年度と同程度にとどまったのは本館新棟オープンの影響と思われる。

#### 分析・執筆

細川 敏幸 高等教育推進機構 教授, 高等教育開発研究部門長, IR 研究会代表  
宮本 淳 高等教育推進機構 アカデミック・サポートセンター アナリスト  
竹山 幸作 高等教育推進機構 アカデミック・サポートセンター アナリスト  
西森 敏之 高等教育推進機構 特任教授, 高等教育開発研究部門  
山田 邦雅 高等教育推進機構 特任准教授, 高等教育開発研究部門  
安藤 厚 北海道大学名誉教授

#### 調査企画

連携 4 大学 学生調査部会（同志社大学, 北海道大学, 大阪府立大学, 甲南大学）

山田 礼子 同志社大学 教授, 高等教育・学生研究センター長, プロジェクトリーダー<sup>1</sup>  
宮田 尚子 同志社大学 高等教育・学生研究センター特別研究員  
細川 敏幸 北海道大学 教授  
星野 聰孝 大阪府立大学 教授  
伊庭 緑 甲南大学 教授  
牛尾 久美子 甲南大学 大学企画室

#### 「一年生調査 2010 年」北海道大学を中心とした相互評価のための比較分析報告書

平成 21~23 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出－国公私立 4 大学 IR ネットワーク」

---

2012 年 2 月 15 日 発行

編集・発行：北海道大学 高等教育推進機構

IR 研究会（代表）細川 敏幸

連絡先： 〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部

高等教育開発研究部門

TEL 011-706-7520

e-mail: [thoso@high.hokudai.ac.jp](mailto:thoso@high.hokudai.ac.jp)

---



「一年生調査2010年」北海道大学を中心とした相互評価のための比較分析報告書  
平成21～23年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム  
相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出－国公私立4大学IRネットワーク